

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

四日市市

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

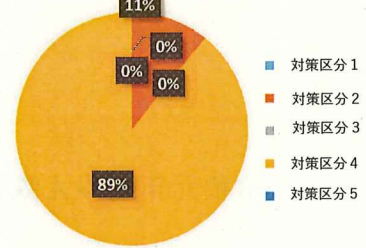
市町名	四日市市	三重県
人口（人）	309,923	1,782,190
年少人口割合（％）*1	12.6%	12.4%
森林面積(ha)	2,865.41	372,352.55
民有林面積(ha)*2	2,557.33	348,833.49
森林率(%)	14.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）*3	10.1	10.1

*1：全人口に占める15歳未満の人の割合

*2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

*3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費(円)	交付金充当額(円)					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	4	市民活動センター運営事業	1,592,800	1,592,800				1,592,800	1,592,800	
2	4	子育て支援センター管理運営事業	731,160	731,160				731,160	731,160	
3	4	少年自然の家管理運営事業	4,307,600	4,307,600				4,307,600	4,307,600	
4	4	認定こども園備品整備事業	6,131,400	6,131,400				6,131,400	6,131,400	
5	2	学校林整備事業	5,018,200	4,815,000	4,815,000				4,815,000	
6	2	里山・竹林環境保全支援事業	1,421,000	1,421,000	1,421,000				1,421,000	
7	2	危険木等除去支援事業	200,000	200,000	200,000				200,000	
8	4	四日市市中央緑地新体育館建設事業	52,576,560	40,569,857				40,569,857	0	
9	4	みえ森と緑の県民税市町交付金基金積立事業（認定こども園備品整備事業）	6,710,040	0					6,710,040	
計			78,688,760	59,768,817	0	6,436,000	0	53,332,817	0	25,909,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	<p>市内には整備が行き届いていない森林が多く、それらの整備や保全活動を行う団体を支援することによって、森林の保全と生活の安全性の確保を図る。</p> <p>こども園や市民活動センターなど、多くの市民が利用する施設に木製備品を導入することによって、施設利用者に森林や木材について学び、ふれあう場を提供し、森と市民との関係を深める。</p>
事業実施により得られた効果	<p>森林整備や危険木除去を行ったことにより、地域住民の生活の安全性が確保されたとともに、整備された場所は子供の遊び場としても利用され、子供が森林にふれあう場を作ることができた。</p> <p>木製備品を導入したことにより、施設利用者に森林や木材について学び、ふれあう場を提供することができた。</p>
情報発信への取組	<p>みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図るため、ホームページへの掲載と、導入した木製備品へのシール等の貼り付けを行った。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
------	-------------------	-----	------

番号	事業名			
1	市民活動センター運営事業			
事業費	1,592,800 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			1,592,800	
			その他	

1. 事業の目的

市民活動の拠点である市民活動センター「なやプラザ」において、施設の利用促進を目的として、施設利用者の利便性向上のために机や椅子等を導入するにあたり、三重県材を活用した机や椅子等の備品を導入することによって、施設利用者に対し、森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森林に対する県民の意識向上を期待する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
市民活動センター「なやプラザ」において、三重県材を活用した机や椅子等の備品を導入する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
四日市市

【補助率等】
補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】
1箇所（四日市市なやプラザ）

【事業量】
テーブル4台、椅子16脚、ベンチ3脚

【事業実施期間】
平成31年4月1日～令和2年3月16日

【受益者、参加者、利用者数等】
施設利用者：市民活動及び生涯学習活動を実施する者 年間58,000人程度（平成30年度実績より）

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
当該施設は四日市市内で唯一の市民活動センターであり、環境保全をはじめとした様々な分野の市民活動に携わる市民が訪れる施設である。こうした施設の利用者層に鑑み、県産材を使用した木の薫る空間づくりを進めることによる、森林の重要性の意識付けの効果が高いと考えられることから、実施箇所として選定したものの。

【事業実施により得られた効果】
施設内の無料スペースへの導入としたことで、施設利用者であれば誰もが当該木製備品を利用可能であり、県産材を用いた木製家具に触れる機会を広く提供できる環境を整備できた。今後、施設利用者に対し、当該スペースの利用を呼びかける中で、県産材を用いた木製備品が整備されている旨も積極的に周知し、森林や木製品に意識を向けるよう働きかけを行っていく。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
木製製品を導入した無料スペースについて、令和2年度に県産材を利用した木製床面パネルを導入し、木製品の良さをより一層体感できる空間として整備を進め、施設のアピールポイントの一つとする。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
導入時期が令和2年3月中旬であったため、今後施設利用者を対象に行う施設利用に関するアンケートの中で、利用者からの評価を確認する。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
------	-------------------	-----	------

番号	事業名			
1	市民活動センター運営事業			
事業費	1,592,800 円	(財源内訳)	当年度交付金 1,592,800	市町基金 その他

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市による請負契約

【実施方法の選定理由】
事業内容が備品の購入であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
指名競争入札 落札率：99.55%

【契約相手方の選定理由】
入札により選定

【事業費の積算根拠】
見積金額：テーブル 単価116,600円×4台 椅子 単価50,600円×16脚 ベンチ 単価105,600円×3脚

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
当該事業において木製備品を導入したスペースは、施設内の無料スペースであり、施設利用者であれば誰もが木製備品を利用可能となっている。

【公的関与の必要性】
四日市市が管理する公的施設の施設整備の一環として実施する事業であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
当該施設は指定管理による運営となっているため、当該事業において導入した木製備品は、指定管理者により長期にわたり利用できるよう適正に管理を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
 ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
 ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
 ○その他（方法：交付金事業による導入品であることを示すシール貼付）（場所：導入品本体）

【情報発信の対象】
施設利用者

【情報発信の内容】
交付金事業によって導入された木製備品である旨をイラストを添えて示すシールを貼付し、施設利用者に対しPRを行った。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 四日市市

事業名 市民活動センター運営事業

7. 写真

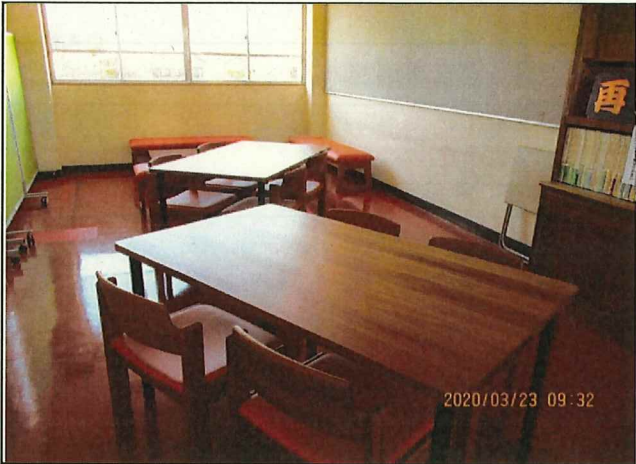


写真1
導入した机、椅子、ベンチ（フリースペース）



写真2
導入したベンチ（フリースペース）



写真3
導入した机、椅子（事務所）



写真4
導入した机、椅子（事務所）



写真5
交付金事業であることを示すシール（椅子）

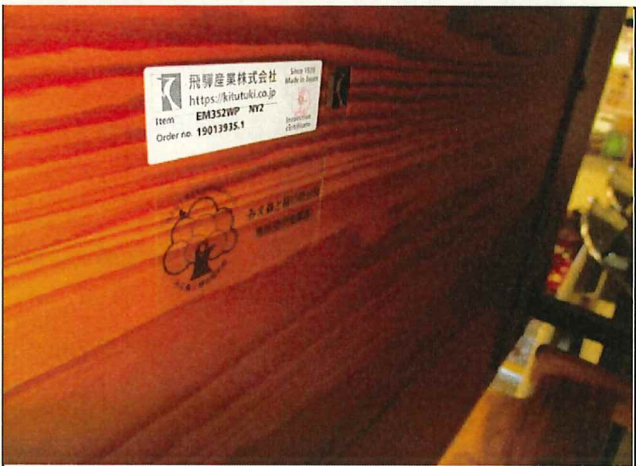


写真6
木材加工の実施業者による検査証明シール及び交付金事業であることを示すシール（机）

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	四日市市
番号	事業名				
2	子育て支援センター管理運営事業				
事業費	731,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			731,160		

1. 事業の目的	<p>乳幼児とその保護者が、安全・安心かつ満足して利用できるような遊具等として、子育て支援センターの屋内に木製ミニログハウスを整備することにより、同センター関係者に森林や木材についてふれあい、学ぶ機会を提供し、森と県民の関係性を深めることを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 橋北子育て支援センターにおいて、三重県産材を活用したミニログハウスを導入する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所</p> <p>【事業量】 ミニログハウス1基</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月1日～令和元年9月30日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 橋北子育て支援センター利用者、年間25,000人程度</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 三重県産材を活用したミニログハウスを設置することにより、子育て支援センターを利用する乳幼児や保護者に、森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森と市民との関係を深めることが期待できるため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 子育て支援センターを利用する乳幼児や保護者に、森林や木材について学び、ふれあう機会を提供し、森と市民との関係を深めることができた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 子育て支援センターとして事業を実施する中で、利用者等に森林等が保全されることの意義を周知することにより、県民の保全意識の拡大を推進する。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 「ハウスの中でままごとをしたり、くつろいだり、小さい子は掴み立ちの練習をしたり等、年齢に応じて様々な利用ができる。」「親も入れるほど広く、木の香りがして落ち着ける。」といった声があり、好評である。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	四日市市
番号	事業名				
2	子育て支援センター管理運営事業				
事業費	731,160 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			731,160		
4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】					
市による請負契約					
【実施方法の選定理由】					
市有施設であるため。					
【契約方法と落札率または補助率等】					
見積合わせによる随意契約（2者）					
落札率：92.3%					
【契約相手方の選定理由】					
市の規定（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号80万円未満）に基づき随意契約とした。					
【事業費の積算根拠】					
見積書の聴取					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】					
橋北子育て支援センター利用者、年間25,000人程度が利用できる。					
【公的関与の必要性】					
市が管理する施設の建築物であるため。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
整備後は、橋北子育て支援センターが管理する。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】					
○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映					
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）					
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）					
○その他（方法：みえ森と緑の県民税ロゴマークの掲示）（場所：導入したミニログハウス）					
【情報発信の対象】					
子育て支援センターの利用者、市民					
【情報発信の内容】					
みえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPR					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 四日市市

事業名 子育て支援センター管理運営事業

7. 写真



写真1
ミニログハウスの設置状況

写真2
みえ森と緑の県民税PR

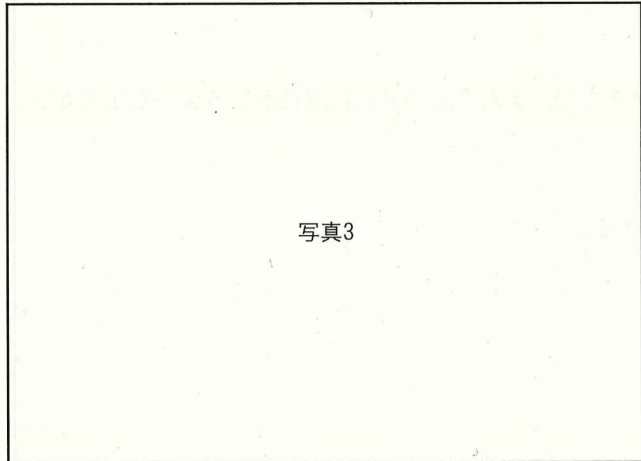


写真3

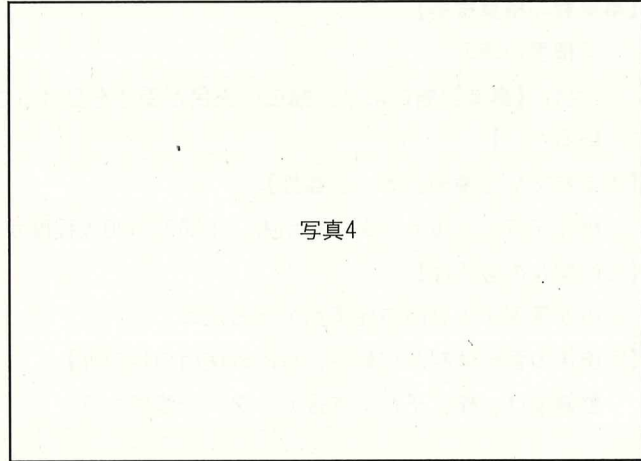


写真4

写真3

写真4



写真5



写真6

写真5

写真6

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
------	-------------------	-----	------

番号	事業名				
3	少年自然の家管理運営事業				
事業費	4,307,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,307,600		

1. 事業の目的	<p>四日市市少年自然の家に三重県産材を活用した机や椅子等の備品を導入することで、施設の利用者が森林や木材にふれあい、学ぶ機会を提供し、森と県民の関係を深めることを目的とする。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 四日市市少年自然の家に三重県産材を活用した机や椅子等の備品を導入する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所：四日市市少年自然の家</p> <p>【事業量】 屋外用テーブル1台・椅子2脚×10セット、屋外用テーブル1台・ベンチ2脚×20セット</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月1日から12月27日まで</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 利用者：市内外の小中学校の自然教室、施設運営団体の主催事業参加者等 約50,000人</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 里山保全活動等を実施する場に設置することで、利用者が森林や木材とふれあい、森と県民の関係を深めることが期待できるため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 三重県産材を活用した備品を配置することで、森林の役割及び木材利用の意義を周知し、施設の利用者が森林や木材についてふれあうことができた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 四日市市少年自然の家での里山保全活動等の森林環境教育を通じて森林等が保全されることの意義を広く周知していく。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 「自然の中で木のぬくもりの感じられるテーブルと椅子で食事ができる。」といった声があり、好評である。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
------	-------------------	-----	------

番号	事業名				
3	少年自然の家管理運営事業				
事業費	4,307,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,307,600		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市による請負契約

【実施方法の選定理由】
市有施設の備品であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
指名競争入札（落札率55.2%）

【契約相手方の選定理由】
指名競争入札

【事業費の積算根拠】
見積書の聴取

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
市内外の小中学校の自然教室、施設運営団体の主催事業参加者等約50,000人が利用できる。

【公的関与の必要性】
市が管理運営を委託している施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
市の備品であるため、転用又は目的外使用はない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
 ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
市民

【情報発信の内容】
みえ森と緑の県民税を活用した事業であることをPR

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 四日市市

事業名 少年自然の家管理運営費

7. 写真



写真1
テーブル、ベンチの設置状況



写真2
テーブル、椅子の設置状況



写真3

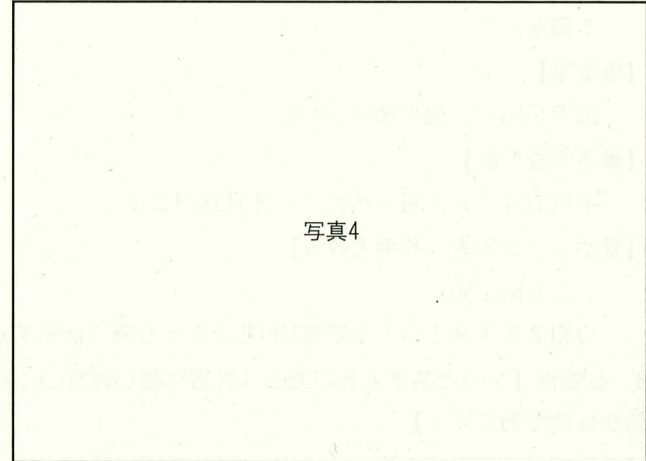


写真4



写真5

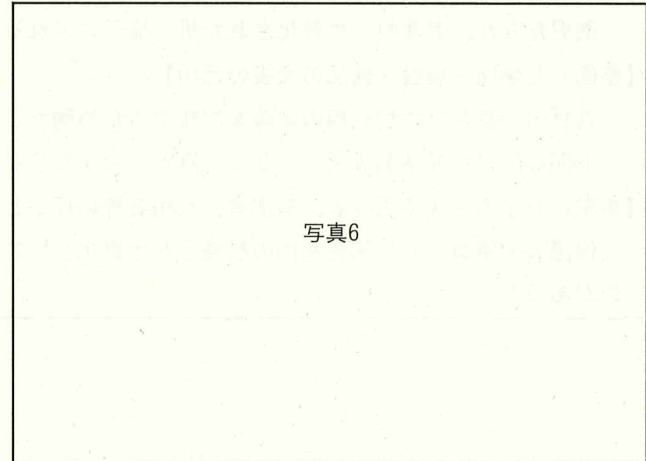


写真6

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
------	-------------------	-----	------

番号	事業名			
4	認定こども園備品整備事業			
事業費	6,131,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			6,131,400	
			その他	

1. 事業の目的	「(仮) 保々こども園」の机・椅子を木質化し、木材と市民の関係を深める。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 「(仮) 保々こども園」の机・椅子を木質化</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所</p> <p>【事業量】 園児机51台、園児椅子190脚</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月1日～令和2年3月19日まで</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 こども園1園 令和2年4月1日より定員190名のこども園で使用する。</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 県産材の机、椅子を導入することにより、園児たちが木材とふれあい、森と市民との関係を深めることが期待できるため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 園児たちが、県産材で木質化された机・椅子にふれることで、木材とのふれあいが進む。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 森林の役割及び木材利用の意義を周知するため園だよりに記載したり、施設の教職員が多くの保護者が集まるイベント開催時に啓発活動等を行うなど、森と人をつなぐ学びの場として活用する。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 保護者や職員より、保育室内の机椅子が木質化したことにより、木の暖かみを感じられ、室内が明るくなるとの感想があった。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
------	-------------------	-----	------

番号	事業名				
4	認定こども園備品整備事業				
事業費	6,131,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,131,400		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市による請負契約

【実施方法の選定理由】
市の物品購入の規則による

【契約方法と落札率または補助率等】
指名競争入札。落札率93%

【契約相手方の選定理由】
指名競争入札

【事業費の積算根拠】
取扱業者の参考見積もりによる

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
園児全員が使用する机椅子を木材で整備することができる。

【公的関与の必要性】
市立こども園の整備

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
園での管理を行う

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・HP掲載
- ・広報誌掲載
- ・新聞掲載
- ・テレビ（行政チャンネル）放映
- チラシ配布（配布対象者：保護者）
- ・ポスター掲示（掲示場所：)
- ・パネル展示（展示場所：)
- ・看板設置（設置場所：)
- その他（方法：みえ森と緑の県民税活用マークの添付）（場所：各机椅子)

【情報発信の対象】
保護者

【情報発信の内容】
みえ森と緑の県民税を活用して導入された机椅子であること

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

7. 写真

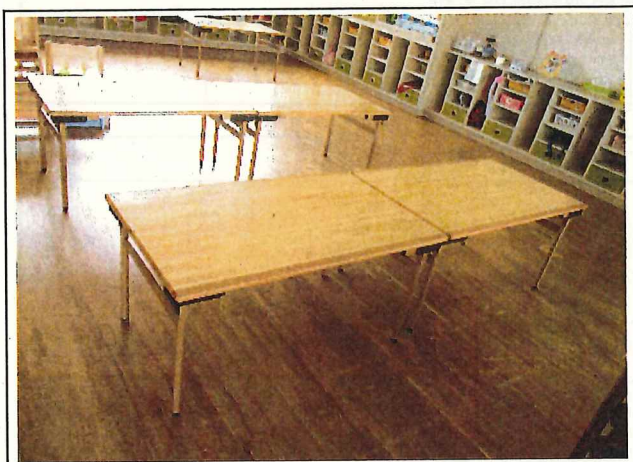


写真1

園児机



写真2

園児椅子



写真3

県民税活用マーク



写真4

園児机



写真5

園児机及び椅子を使っておやつを食べる園児



写真6

園児机及び園児椅子を使って活動をする園児

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	四日市市
番号	事業名				
5	学校林整備事業（常磐西小学校）				
事業費	5,018,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,815,000		203,200

1. 事業の目的

児童や地域住民の安全を確保することにより、自然に親しめる環境づくりを行うため、危険木等の伐採および剪定を行う。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・危険木等の伐採および剪定
- ・学校林案内板、数字表示板、掲示板用表示の作成および設置

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

四日市市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

1箇所（四日市市立常磐西小学校学校林）

【事業量】

危険木の伐採（46本）および剪定（9本）

【事業実施期間】

学校林整備：平成31年4月1日～令和2年2月28日 案内板等設置：令和2年1月23日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】

小学校関係者及び地域住民 1,800人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

市内小中学校の学校林を有している6校のうち1校

【事業実施により得られた効果】

学校林内に生育する危険木を伐採したことで、児童及び地域住民がより安全に学校林内で活動することができるようになった。また、倉庫の屋根に接触しそうな枝の剪定や、学校林に隣接する道路へと張り出した樹木を伐採したことで、折れ枝による建物の損傷や道路通行時の支障を防げるものと期待される。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

児童が日常的に活動する区域の安全が確保されたことで、安心して草木や樹木に親しむことができるため、自然学習や自然観察を行う機会を増やしていきたい。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

以前から地元住民の方が樹木の伐採や剪定に協力してくれていたが、危険な法面にある樹木や高木といった日常の整備作業に支障となる危険木を中心に伐採したことで、以前にも増して協力してくれている。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
------	-----------------	-----	------

番号	事業名				
5	学校林整備事業（常磐西小学校）				
事業費	5,018,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,815,000		203,200

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市による請負契約

【実施方法の選定理由】
市有施設であるため

【契約方法と落札率または補助率等】
一般競争入札（落札率70.09%）及び随意契約（2社見積）

【契約相手方の選定理由】
一般競争入札及び市の規定（地方自治法施行令167条の2第1項第1号 50万円未満）に基づき随意契約とした。

【事業費の積算根拠】
現地調査、設計書の作成及び見積書の徴取

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
小学校関係者及び地域住民（約1,800人） 小学校への聞き取りによる

【公的関与の必要性】
市有施設であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
・地元ボランティア団体やPTAなどにて管理する。
・市立小学校であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：施工箇所）
○その他（方法：学校だよりへの掲載）（場所： ）

【情報発信の対象】
小学校関係者（特に保護者）及び地域住民

【情報発信の内容】
学校だよりにて工事期間を記載し、期間中に学校林内へ立ち入ることのないよう注意喚起を行った。また小学校のホームページにて、県民税を使用して学校林整備を行った旨を発信するとともに、案内板にもその旨を明記した。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	四日市市
-----	------

事業名	学校林整備事業（常磐西小学校）
-----	-----------------

7. 写真

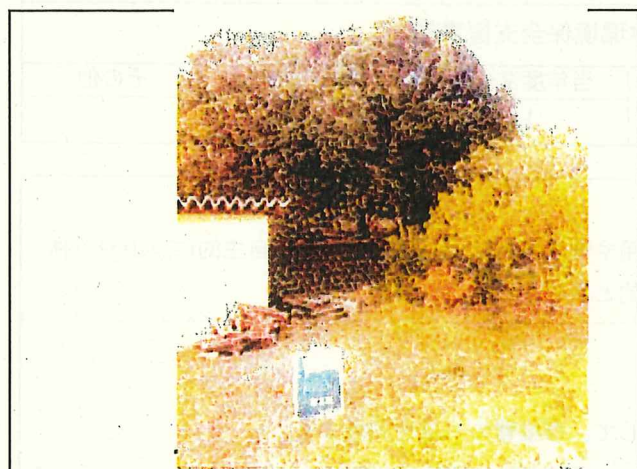


写真1
樹木剪定工（施工前）

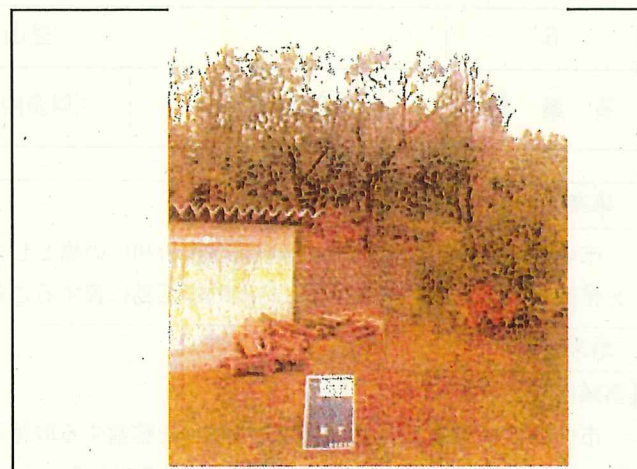


写真2
樹木剪定工（施行後）

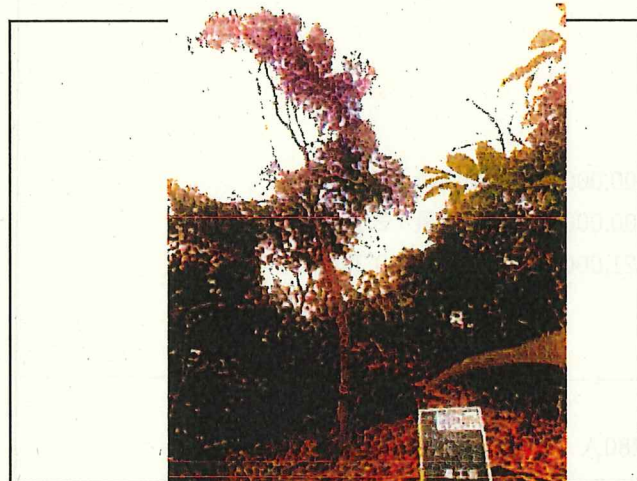


写真3
樹木伐採工（施工前）

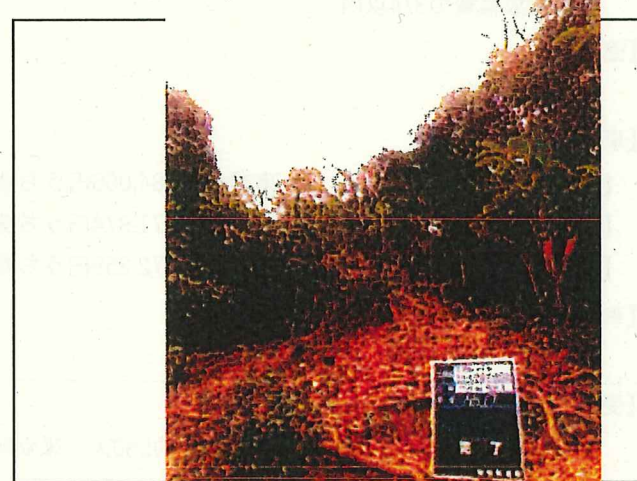


写真4
樹木伐採工（施行後）



写真5
学校林案内板

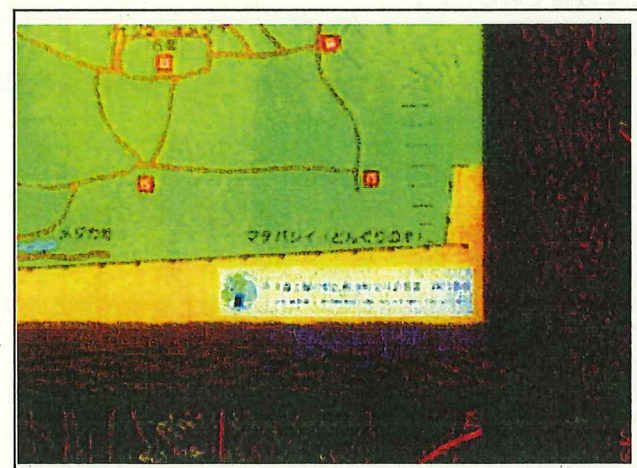


写真6
案内板のみえ森と緑の県民税PR掲示

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	四日市市
番号	事業名				
6	里山・竹林環境保全支援事業				
事業費	1,421,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,421,000		

1. 事業の目的

市内の里山保全活動団体等が地域住民の憩いの場としての利用や安全性の確保を目的として、自主的に里山や竹林を整備する取組みを支援して、持続的な活動に資することを目的とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】
市内の地域団体が自主的に里山や竹林を整備する取組みに対して、事業費の一部を支援する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
自治会等の地域団体

【補助率等】
補助対象経費の3/4以内

【箇所数】
3箇所3団体

【事業量】
【桜町南自治会】 事業費：684,066円うち補助金500,000円、活動面積：0.40ha
【山一里地・里山クラブ】 事業費：671,974円うち補助金500,000円、活動面積：2.69ha
【四日市自然保護推進委員会】 事業費：572,259円うち補助金421,000円、活動面積：0.20ha

【事業実施期間】
平成31年4月1日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】
受益者：桜町 約1,310人 山之一色町 約580人 采女町 約4,280人
事業参加者：【桜町南自治会】 延べ62人 【山一里地・里山クラブ】 延べ139人
【四日市自然保護推進委員会】 延べ51 人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
荒廃した里山や竹林が再生され、憩いの場や安全性が確保されるとともに、生物多様性の保存に資することが期待できる。

【事業実施により得られた効果】
適切に里山や竹林が保全される意義を広く周知することによって、自主的な保全活動の拡大を推進した。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
自治会の回覧板等を通じて「みえ森と緑の県民税」の活用実績を周知して、税の趣旨や必要性を身近に感じてもらう。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
地元住民からは、通行時の見通しが良好となり地域の安全性が上がるだけでなく、獣害被害の防止にも資することとなり、また生物多様性の保全に貢献できたと好評である。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
------	-----------------	-----	------

番号	事業名				
6	里山・竹林環境保全支援事業				
事業費	1,421,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,421,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
補助
【実施方法の選定理由】
公募による実施
【契約方法と落札率または補助率等】
補助対象経費の3/4
【契約相手方の選定理由】
—
【事業費の積算根拠】
当該団体から市へ提出された実績報告書

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
地域住民延べ約6,170人の生活の安全性が確保された。
【公的関与の必要性】
荒廃した里山や竹林を再生させることで市民生活の安全性や生物多様性を確保することができる。
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
・その他（方法： ）（場所： ）
【情報発信の対象】
市民
【情報発信の内容】
みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図る。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

7. 写真



写真1
竹の伐採・チップ処理の状況
(山一里地・里山クラブ)



写真2
竹の伐採・チップ処理の状況
(山一里地・里山クラブ)



写真3
伐採作業とチップ処理の状況
(桜町南自治会)



写真4
委託による伐採木の回収
(桜町南自治会)



写真5
伐採作業（施行前）
(桜町南自治会)



写真6
伐採作業（施行後）
(桜町南自治会)

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 四日市市

事業名 里山・竹林環境保全支援事業

7. 写真



写真7
施工前
(四日市自然保護推進委員会)

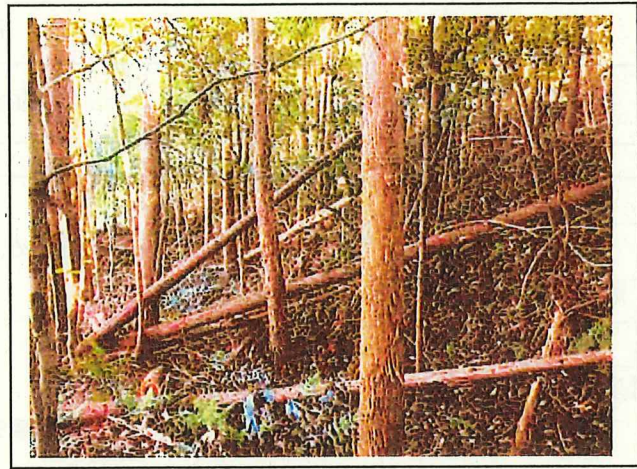


写真8
施工前
(四日市自然保護推進委員会)

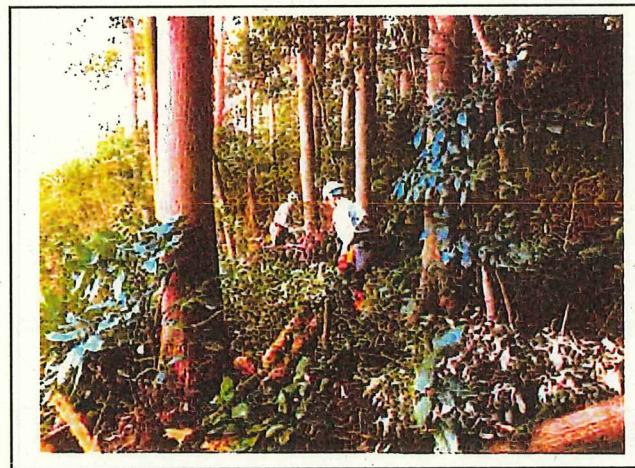


写真9
施工中
(四日市自然保護推進委員会)



写真10
施工中
(四日市自然保護推進委員会)

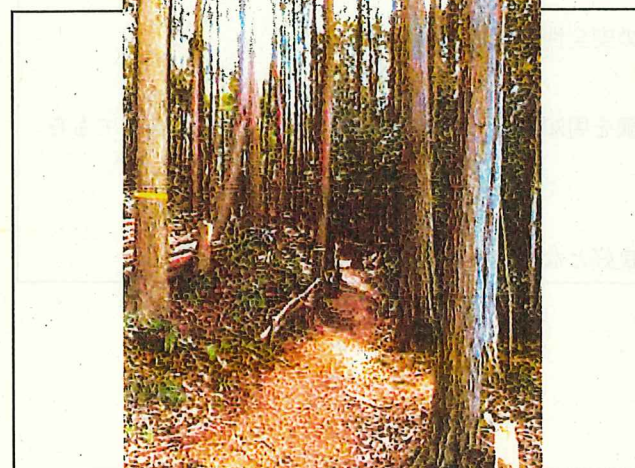


写真11
施工後
(四日市自然保護推進委員会)

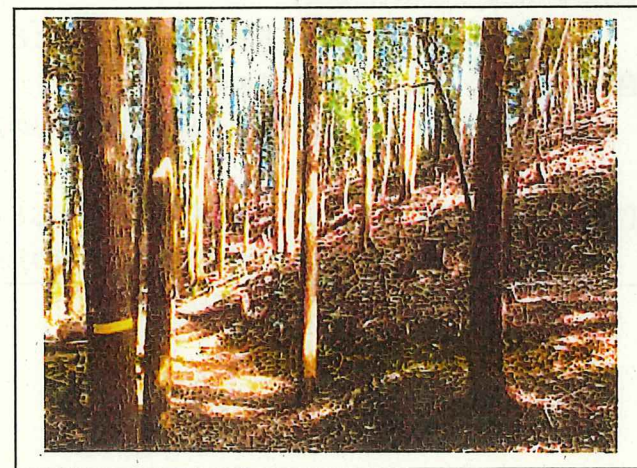


写真12
施工後
(四日市自然保護推進委員会)

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
------	-----------------	-----	------

番号	事業名				
7	危険木等除去支援事業				
事業費	200,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			200,000		

1. 事業の目的	地域において緑豊かで安全な生活環境を保全するため、土地所有者等に代わって自治会等が実施する通学路沿いの危険木等の伐採作業に対して支援する。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 自治会等が実施する危険木等の伐採作業に対して、事業費の一部を支援する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 自治会等の団体</p> <p>【補助率等】 補助対象経費の3/4以内</p> <p>【箇所数】 2箇所2団体</p> <p>【事業量】 【采女町北部自治会】 事業費：187,000円うち補助金100,000円 【桜町南自治会】 事業費：165,000円うち補助金100,000円</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月1日～令和2年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 受益者：采女町 約4,280人 桜町 約1,310人</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 危険木によって通行の支障またはおそれのある箇所。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 通行の支障またはおそれのある危険木を除去することで地域の安全性が確保された。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 自治会の回覧板等を通じて「みえ森と緑の県民税」の活用実績を周知して、税の趣旨や必要性を身近に感じてもらう。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 地元住民からは、地域の安全性が確保され通行時の見通しが良好となったと好評である。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	四日市市
------	----------------	-----	------

番号	事業名				
7	危険木等除去支援事業				
事業費	200,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			200,000		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 補助

【実施方法の選定理由】
 公募による実施

【契約方法と落札率または補助率等】
 補助対象経費の3/4

【契約相手方の選定理由】
 -

【事業費の積算根拠】
 当該団体から市へ提出された実績報告書

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 地域住民延べ約5,590人の生活の安全性が確保された。

【公的関与の必要性】
 通行の支障またはおそれのある危険木を除去することで地域の安全性を確保することができる。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 当該地の転用規制等は困難であるが、適正利用について確認済みである。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
- ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
- ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
- ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
 市民

【情報発信の内容】
 みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図る。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名

四日市市

事業名

危険木除去支援事業

7. 写真

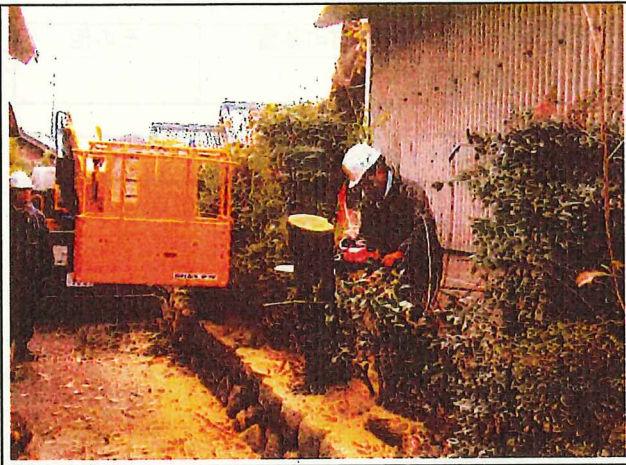


写真1

危険木伐採（施行中）
（桜町南自治会）



写真2

危険木伐採（施行後）
（桜町南自治会）

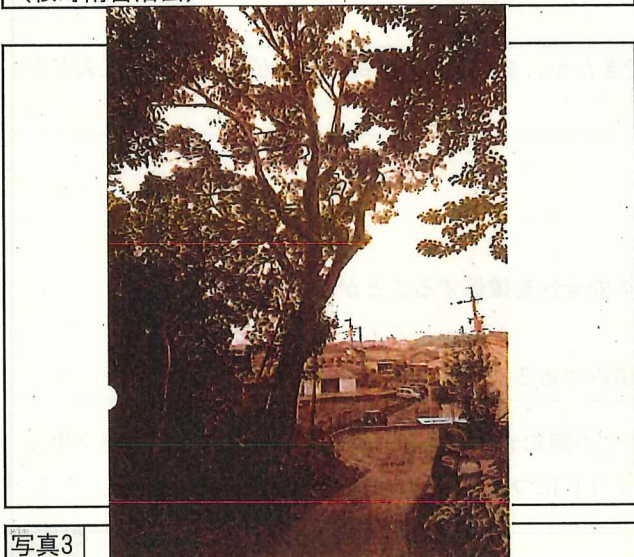


写真3

危険木伐採（施工前）
（采女町北部自治会）

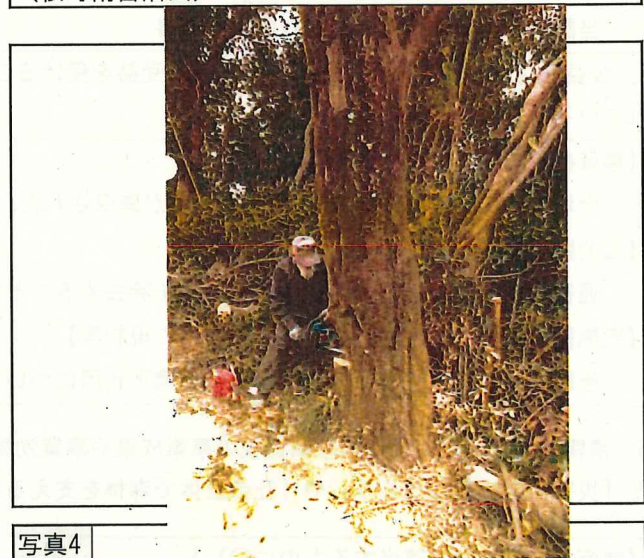


写真4

危険木伐採（施工中）
（采女町北部自治会）

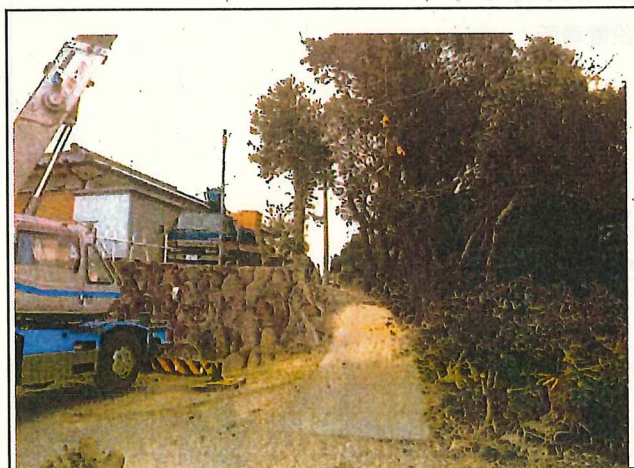


写真5

危険木伐採（施工中）
（采女町北部自治会）

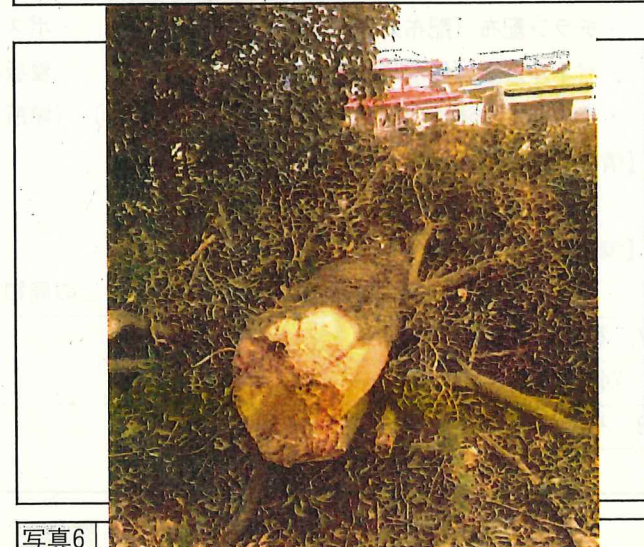


写真6

危険木伐採（施工後）
（采女町北部自治会）

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
------	-------------------	-----	------

番号	事業名				
8	四日市市中央緑地新体育館建設事業				
事業費	52,576,560 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			0	40,569,857	12,006,703

1. 事業の目的	<p>令和3年の国民体育大会に向けて建設する体育館の一部を木質化することにより、利用者が木と触れ合う機会を増やし、木の大切さや良さ等を実感する機会を幅広く提供する。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 令和3年の国民体育大会に向けて、国体の施設基準を満たした体育館を建設にあたり、一部木質化を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 四日市市</p> <p>【補助率等】 該当なし</p> <p>【箇所数】 1箇所</p> <p>【事業量】 延べ床面積：17,500㎡、利用木材積：31.973㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成30年5月18日から令和2年2月21日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 体育館利用者数 10,000人/年（想定）</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 国民体育大会の会場となる施設であり、多くの利用者が見込まれる施設を木質化することで、より多くの方に木の大切さや良さを伝えることができるため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 体育館の利用者に県産材を使用した施設であることを周知することによって、利用者に木材の利用の意義を伝えることができた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 令和3年の国民体育大会の会場として使用するほか、各種イベントにおいて木材を利用する意義についてパネルなど通じPRしていく。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 緑地内の施設として屋外の緑とうまく調和されており、また、コンクリート・金属・木材の素材の違いを間近で感じることができる総合体育館となっている。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	四日市市
------	-------------------	-----	------

番号	事業名				
8	四日市市中央緑地新体育館建設事業				
事業費	52,576,560 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			0	40,569,857	12,006,703

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 請負

【実施方法の選定理由】
 市有施設の整備であるため

【契約方法と落札率または補助率等】
 請負事業であり該当しない

【契約相手方の選定理由】
 随意契約（プロポーザル）

【事業費の積算根拠】
 建築工事にかかる積算基準等による

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 平成3年度の国民体育大会の会場となるほか、多くの利用者が見込まれる施設である。

【公的関与の必要性】
 多くの利用者が見込まれる公共施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 市の指定管理制度により適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
 ○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
 ○パネル展示（展示場所：施設内 ） ・看板設置（設置場所： ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
 市民

【情報発信の内容】
 みえ森と緑の県民税を活用した事業であることの周知を図る。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

7. 写真



写真1

木製ルーバー (スポーツフォーラム)

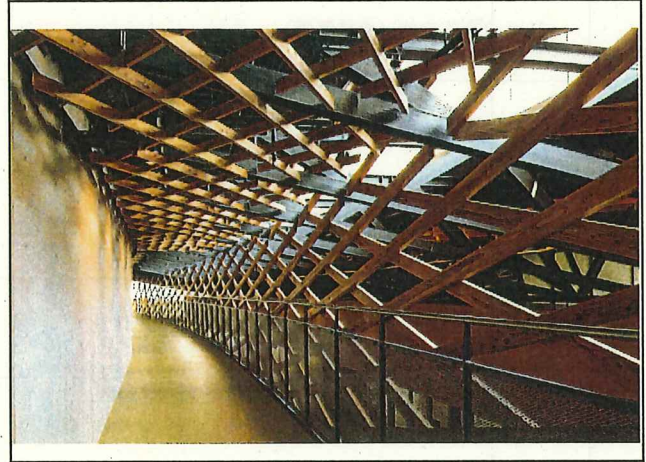


写真2

木製ルーバー (スポーツフォーラム)

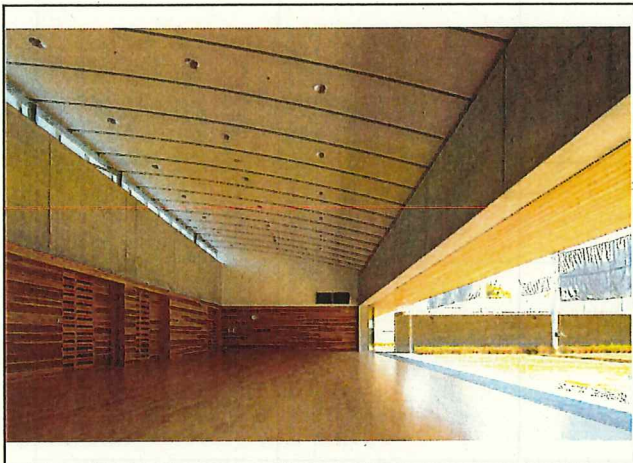


写真3

木質内装 (弓道場)



写真4

木質内装 (弓道場)

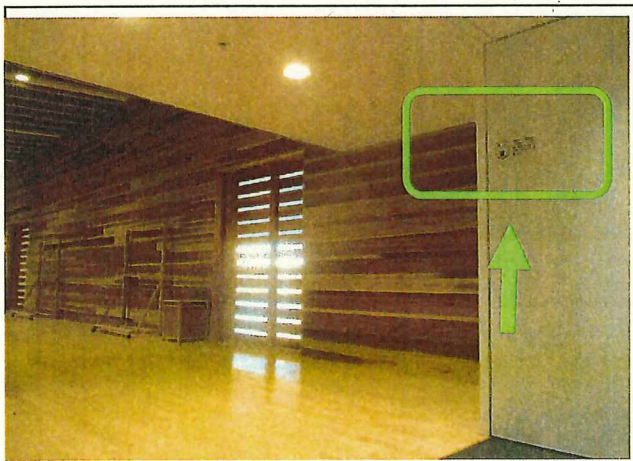


写真5

みえ森と緑の県民税PRの掲示

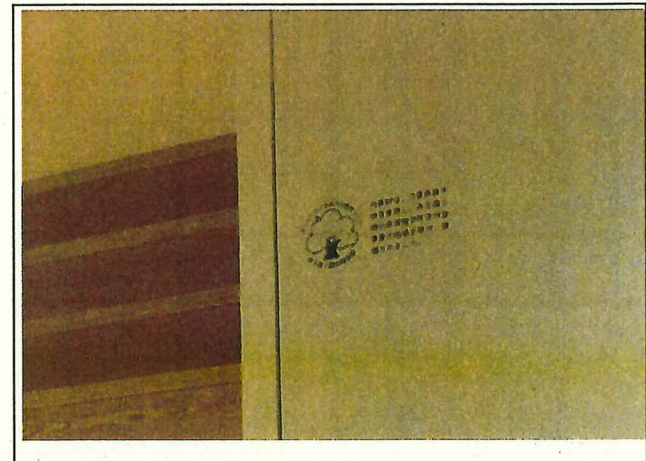


写真6

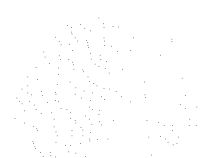
みえ森と緑の県民税PRの掲示

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

四日市市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑦ その他(森林整備)	4,585	498
2	⑬ 木造公共建築物の整備等	263,442	3,630
3	⑬ 木造公共建築物の整備等	18,320	3,281
4	⑬ 木造公共建築物の整備等	20,572	3,636
5	⑬ 木造公共建築物の整備等	7,802	954
6	⑳ 基金積立(執行残額等)	1,235	1,235
7			
8			
9			
10			
	合計	315,956	13,234



令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

桑名市

桑名市

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

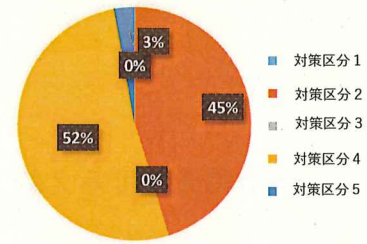
市町名	桑名市	三重県
人口（人）	139,550	1,782,190
年少人口割合（％）*1	13.4%	12.4%
森林面積(ha)	3,022.60	372,352.55
民有林面積(ha)*2	2,933.93	348,833.49
森林率(%)	22.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）*3	9.3	10.1

*1：全人口に占める15歳未満の人の割合

*2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

*3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費(円)	交付金充当額(円)					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	5	播磨2号緑地里山整備事業	430,000	430,000					430,000	430,000
2	2	里山再生・竹林整備推進事業	6,798,000	6,798,000		6,798,000				6,798,000
3	4	病院備品等整備事業	7,800,000	7,800,000				7,800,000		7,800,000
4										0
5										0
6										0
7										0
計			15,028,000	15,028,000	0	6,798,000	0	7,800,000	430,000	15,028,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	地域の森林環境整備や三重県産木材を使った製品を導入、及びそれら事業の原資となる県民税のPRを通じて、森と緑の県民税がどのように県民の暮らしに役立てられているかを周知し、県民の理解が深まるよう事業を展開した。
事業実施により得られた効果	整備された里山や竹林、三重県産木材製品に触れることにより得られる癒しの効果を通して、人々の暮らしと森林環境との関わりに対する理解が深まった。
情報発信への取組	現場での看板設置や、病院での対象製品の県産材シール、ポスター配置、チラシ、広報誌による紹介など、事業活用の現場であること、県産材の活用であることを重点的にアピールし情報共有を推進した。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	桑名市
番号	事業名				
1	播磨2号緑地里山整備事業				
事業費	430,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			430,000		

1. 事業の目的	<p>荒廃した山を里山として山道などを整備し、緑の自然と身近にふれあう場を提供し、自然学習の場、地域活性の場、健康づくりの場として活用する。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 枯木・危険木の除去、樹木の間引き、樹木剪定、剪定枝等をチップ化した木チップを利用した散策路の整備</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 桑名市</p> <p>【補助率等】 補助事業でなく該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所(播磨2号緑地内)</p> <p>【事業量】 0.46ha</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 幼児、小学生等緑地利用者 延べ5,000人</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 播磨2号緑地は住宅街に隣接し、受益者も多いが、里山としては荒廃しており、整備を行うことが望まれていたため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 危険な樹木を撤去する等、公園利用者の安全を確保することで、近隣住民が安心して緑や自然とふれあう場を創出することができた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 市内の小学校やボランティア団体による森林環境教育等に関する利用 里山散策路の開放</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 込み入った雑木や枯れ木撤去等により、風通しがよくなり、獣等の侵入も少なくなったとの声をいただいた。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	桑名市
------	--------------------	-----	-----

番号	事業名			
1	播磨2号緑地里山整備事業			
事業費	430,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			430,000	
			その他	

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 業務委託

【実施方法の選定理由】
 市と播磨2号緑地の利活用に関する協定を締結している非営利団体を選定し一括購入

【契約方法と落札率または補助率等】
 一者随契、100%

【契約相手方の選定理由】
 非営利団体であり、市と播磨2号緑地の利活用に関する協定を締結している。

【事業費の積算根拠】
 見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 市が管理する緑地であり、公益性がある。

【公的関与の必要性】
 市が管理する緑地であり、公的事业である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 市が管理する緑地であり、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・HP掲載
- ・広報誌掲載
- ・新聞掲載
- ・テレビ（行政チャンネル）放映
- ・チラシ配布（配布対象者：)
- ・ポスター掲示（掲示場所：)
- ・パネル展示（展示場所：)
- 看板設置（設置場所：播磨2号緑地建屋・ゲート前）
- ・その他（方法：)（場所：)

【情報発信の対象】
 一般利用者を対象に広く情報発信

【情報発信の内容】
 この事業は、平成31年度「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」を活用して、播磨2号緑地における、枯木・危険木の除去、樹木の間伐、樹木剪定、剪定枝等をチップ化した木チップを利用した散策路の整備、湧水（水路）の整備をしています。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 桑名市

事業名 播磨2号緑地里山整備事業

7. 写真



写真1
実施前



写真2
実施後



写真3
実施前



写真4
実施後



写真5
実施中掲示看板及び説明（入口）



写真6
実施中掲示看板及び説明（小屋）

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	播磨2号緑地里山整備事業
-----	--------------

積算資料 (実績報告参考資料)

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
播磨2号緑地里山整備業務委託	件	1.00	430,000	430,000	
事業費				430,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
里山整備	雑木整理,散策路、水路整備	件	1.00	430,000	430,000	
	計				430,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	桑名市
番号	事業名				
2	里山再生・竹林整備推進事業				
事業費	6,800,615 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,798,000		2,615

1. 事業の目的	<p>竹林整備を進めることで、里山の再生による自然環境及び生活環境の向上を目的とする。また、防災・減災、獣害対策につなげるとともに、住民参画を促し、安全安心な森づくりの理解と森林環境教育の浸透を図る。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 枯竹・倒木等の除去、雑草等の除去、竹の間伐、チップ化した竹散布による現場の整備</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 桑名市</p> <p>【補助率等】 ・委託として必要経費を支出 ・竹専用チップパーを購入し貸与</p> <p>【箇所数】 3箇所（播磨、多度、芳ヶ崎）</p> <p>【事業量】 竹林整備 1.5ha 竹専用チップパー 1基</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月から令和2年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 地元住民、児童・生徒 述べ200人</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 実施箇所の隣接地は住宅や生産基盤にかかわる所であるため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 ・危険な竹林の整備により周辺住民の生活環境が改善した。 ・地元住民や児童・生徒が竹林整備体験等することで森林環境意識の醸成に繋がった。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 引き続き、竹林整備事業を推進する。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	桑名市
番号	事業名				
2	里山再生・竹林整備推進事業				
事業費	6,800,615 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			6,798,000		2,615

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市内NPO法人への委託を実施。

【実施方法の選定理由】
地元NPO法人へ委託することで、住民との連携やNPO法人自体の会員の増強に繋がるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
一者随意契約 落札率98.6%

【契約相手方の選定理由】
市と協定締結しており、市内唯一の竹林整備専門のNPO法人であるため。

【事業費の積算根拠】
竹林整備は、本市の竹整備の単価契約積算資料を基に算出（30万円/10a）とした。
竹専用チップーは見積り単価による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
NPO法人と連携し目的に沿った整備個所を選定した、広く一般の利益に寄与する事業である。

【公的関与の必要性】
所有者の高齢化に伴う管理不全地が多く、公益関与の必要性は高い。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
委託先NPO法人への委託連携により、所有者へは今後の管理を継続的に実施し、転用、目的外使用の無いように依頼している。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
 ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
チラシ配布（配布対象者：地域住民 ） ポスター掲示（掲示場所：市役所 ）
 ・パネル展示（展示場所： ） 看板設置（設置場所：実施中の整備個所 ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
一般市民を対象に広く情報発信

【情報発信の内容】
みえ森と緑の県民税を活用した事業であることを説明

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 桑名市

事業名 里山再生・竹林整備推進事業

7. 写真 桑名市大字播磨字奥上谷



写真1
【作業前】



写真2
【作業前】



写真3
【作業中】



写真4
【作業中】



写真5
【作業後】



写真6
【作業後】

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	里山再生・竹林整備推進事業
-----	---------------

7. 写真



写真7
【作業前】 桑名市西方浦之宮



写真8
【作業後】 桑名市西方浦之宮

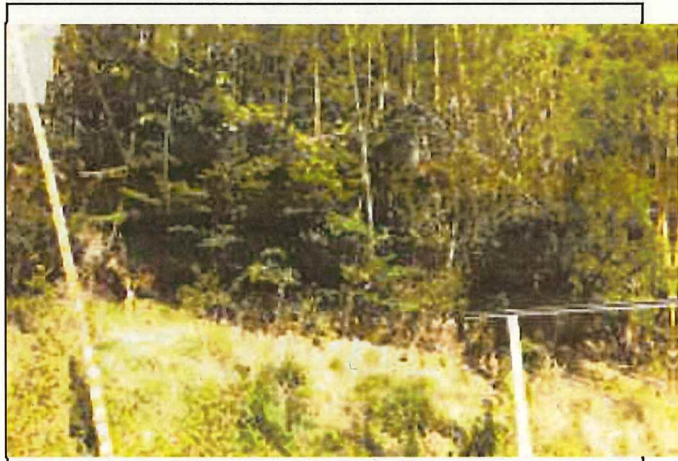


写真9
【作業前】 桑名市播磨



写真10
【作業後】 桑名市播磨

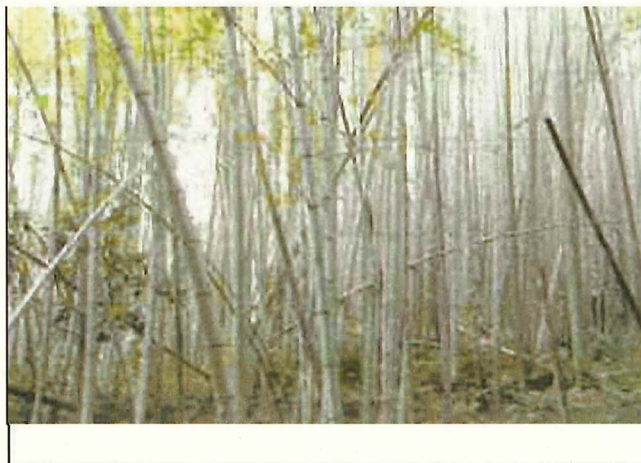


写真11
【作業前】 桑名市多度町御衣野



写真12
【作業後】 桑名市多度町御衣野

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	里山再生・竹林整備推進事業
-----	---------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
竹林整備業務委託	件	1.00	6,800,615	6,800,615	
事業費				6,800,615	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
竹林整備等業務委託	竹林整備等業務	件	1.00	4,469,000	4,469,000	
	計				4,469,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
備品	チップパー	台	1.00	1,683,000	1,683,000	
	チェーンソー4台 エンジンプロワ1台	式	1.00	233,420	233,420	
	計				1,916,420	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
消耗品	送り速度調整セット（チップパー）	式	1.00	107,800	107,800	
	チップパーナイフセット	式	4.00	21,120	84,480	
	8mmスクリーン（樹木粉碎機）	台	1.00	70,290	70,290	
	受け刃セット（チップパー）	式	1.00	23,870	23,870	
計				286,440		

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
消耗品	サイドカバー（チップパー）	式	1.00	29,700	29,700	
	六角ボルト・ナット他（チップパー）	式	1.00	18,282	18,282	
	チェーンソーオイル他	式	1.00	32,153	32,153	
	バッテリー（チップパー）	台	1.00	28,380	28,380	
計				108,515		

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
消耗品	ロータベルト（チップパー）	本	1.00	20,240	20,240	
	計				20,240	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	桑名市
------	-------------------	-----	-----

番号	事業名				
3	病院備品等整備事業				
事業費	7,819,200 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			7,800,000		19,200

1. 事業の目的	
<p>地域の中核病院としての役割を担う総合医療センター新病院に、木製（県産材）の椅子等の備品を導入することで、多数の住民が木とふれあい、森林や木材についての理解を深めることができると同時に、病院という場所を温かみの感じられる空間にする。また、院内保育所に県産材でつくられたおもちゃを配置し、木のぬくもりを感じられる遊びの空間をつくりだす。</p>	
2. 事業実績概要	
【事業内容】	
平成30年に新病院を開院した桑名市総合医療センターの什器類(椅子・テーブル等)を県産材を使用して整備する。	
【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】	
地方独立行政法人 桑名市総合医療センター	
【補助率等】	
100%	
【箇所数】	
3 棟	
【事業量】	
チェア25脚、ソファ18台、テーブル21台、ショーケース1台、積み木1式	
【事業実施期間】	
令和元年7月～令和元年10月	
【受益者、参加者、利用者数等】	
桑名市総合医療センター 来院者・職員 延べ約22万人	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】	
「桑名市総合医療センター」は老若男女問わず、多くの地域住民が利用する場所である。	
【事業実施により得られた効果】	
多数の住民が利用する公共の場に、この交付金を利用した備品を置くことで、県民税が適切に使われていることや、県民全体で森林を育てているということを知ってもらう機会になると考えられる。また、病院を無機質な空間ではなく温かみを感じられる印象にすることにより、より森林や木材に親しみを持ってもらう機会になる。	
【整備した場所・施設・備品の今後の活用】	
来院者に対して、「みえ森と緑の県民税」の活用を知ってもらうため、院内のより多くの人の往来のある3か所の掲示板に県産材ポスターを設置し、木材利用の意義を伝える場として活用する。	
【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】	
年間利用22万人の患者様と、そのご家族に見て頂く。一様に「あたたかみのある優しい雰囲気がある」と概ね好評。	

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 桑名市

事業名 病院備品等整備事業

7. 写真



写真1 設置場所：入院病棟1階・待合 3階・救急病棟
商品： 三人用肘無しソファ 特注
PRポイント：敢えて白いクッション材を使用することにより、更にスギの木材の暖かみが目立つよう工夫した待合ソファです。



写真2 設置場所：西棟4階 透析カンファレンス
商品： テーブル (KC346WP) チェア (EM202)
PRポイント：三重県産杉とスチールを組み合わせたデザインで、木の温かみのある優しい空間づくりができています

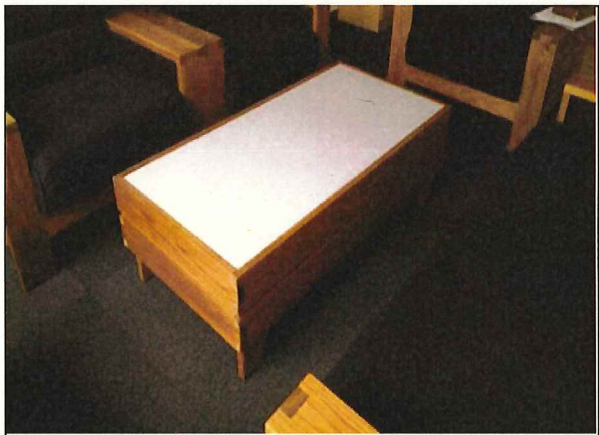


写真3 設置場所：西棟5階 応接室
商品： 1人掛けソファ 2人掛けソファ リビングテーブル
PRポイント：三重県産杉と黒いクッション材の組み合わせにより、応接室らしい重厚感の中に、杉の温かみを感じられる空間となっています。



写真4 設置場所：西棟4階 透析カンファレンス
商品： チェア (EM202)
PRポイント：すべての商品に補助事業のシールを貼り全利用者様へ向けてPRをしています。



写真5 設置場所：新入院病棟 4階
商品： ショーケース
PRポイント：三重県産品ヒノキ材を活用したシンプルなデザインで展示物を引き立てる共に、心落ち着く空間を演出している



写真6 設置場所：西棟6階 病室
商品： チェア (PU270J) ティーテーブル (CC370)
PRポイント：強度を持たせた杉のプレス圧縮材を活用し、デザインはスマートながらも、杉の風合いを感じられるデザインです。

7. 写真

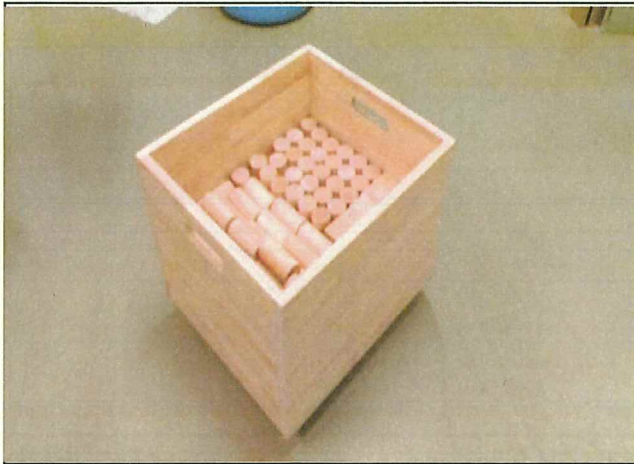


写真7 設置場所：D棟1階 保育室

商品： 積み木(杉材)

PRポイント：杉材で作られた積み木を院内保育所に配置し、木のぬくもりを感じながら遊ぶ機会となっています。



写真8 設置場所：D棟1階 保育室

商品： 積み木(杉材)

PRポイント：保育室で積み木を使って遊んでいる様子です。子供達の人気の遊具となっております。



写真9 設置場所：D棟1階 保育室

商品： 積み木(杉材)



写真10 設置場所：D棟1階 保育室

商品： 積み木(杉材)

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	桑名市
-----	-----

事業名	病院備品等整備事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
新病院整備に係る什器類の整備	式	1.00	7,819,200	7,819,200	
事業費				7,819,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
令和元年度パブリックエリア関連備品一式	サイドテーブル	台	19.00	50,000	950,000	
	三人用肘無しソファ	台	3.00	189,000	567,000	
	三人用肘無しソファ	台	6.00	189,000	1,134,000	
	三人用肘無しソファ	台	4.00	189,000	756,000	
	計				3,407,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	ショーケース	台	1.00	1,028,000	1,028,000	
	おもちゃ（スギ積み木）	式	1.00	60,000	60,000	
	チェア	台	6.00	52,500	315,000	
	長方形テーブル	台	1.00	195,000	195,000	
	計				1,598,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	一人掛けソファ	台	4.00	198,000	792,000	
	二人掛けソファ	台	1.00	310,000	310,000	
	センターテーブル	台	1.00	126,000	126,000	
	チェア	台	19.00	53,000	1,007,000	
	計				2,235,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	税				579,200	
	計				579,200	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

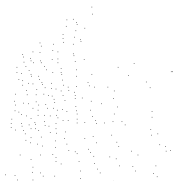
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

桑名市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑩ 基金積立 (森林整備等)	6,843	6,843
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	6,843	6,843



令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

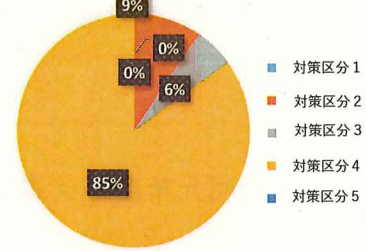
鈴鹿市

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	鈴鹿市	三重県
人口（人）	195,789	1,782,190
年少人口割合（%）*1	12.9%	12.4%
森林面積(ha)	3,584.17	372,352.55
民有林面積(ha)*2	3,408.37	348,833.49
森林率(%)	18.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）*3	9.8	10.1

対策区分別事業費割合



- *1：全人口に占める15歳未満の人の割合
- *2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）
- *3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	2	暮らしを守る森林保全事業	1,758,456	1,756,059		1,756,059				1,756,059
2	2	緑の未来づくり事業	37,000	37,000		37,000				37,000
3	3	森に親しむ記念樹贈呈事業	200,000	200,000			200,000			200,000
4	4	AGF鈴鹿体育館サブアリーナ床面改修工事	19,482,120	10,000,000				10,000,000		10,000,000
5	4	森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業	3,800,000	3,800,000				3,800,000		3,800,000
6	3	森と緑の生涯学習講座	844,941	844,941			844,941			844,941
7	4	鈴鹿市立西条保育所新設工事	31,647,116	2,200,000				2,200,000		2,200,000
計			57,769,633	18,838,000	0	1,793,059	1,044,941	16,000,000	0	18,838,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	<p>みえ森と緑の県民税の用途については、本税の徴収方法を鑑みて、多くの市民の方ができる限り直接的にその恩恵を享受できる事業を重視し実施することとしたため、森林環境教育に関する事業や木育の機会を得るための施設整備事業を優先して実施した。</p> <p>また、本市に広がった松くい虫被害の拡大防止に向けた取組についても、長期的・継続的な取組が必須であることから、市単独で実施するだけでなく、周辺住民や関係団体、学校等と協力し、実施することで継続的な取組となるよう工夫した。</p>
事業実施により得られた効果	<p>身近な森林資源である、地区保全区域内の鼓ヶ浦海岸周辺の松くい虫被害の拡大防止に取組み、市内の「災害に強い森林づくり」に寄与することができた。</p> <p>また、県産材を活用した備品整備によって、未就学児や児童・生徒をはじめとする様々な市民の方が、森林や木材について学び、ふれあい、関係を深めることができた。また、木育活動も充実させ、「県民全体で森林を支える社会づくり」に寄与することができた。</p>
情報発信への取組	<p>事業の実施前においては、市広報やHPを活用し、みえ森と緑の県民税の活用について周知を図った。また、本事業に関する竣工式やイベント等の主催者挨拶では、みえ森と緑の県民税活用事業であることを周知し、可能な限り記者提供も行った。</p> <p>事業実施の際は、県民税リーフレットの配付や県民税旗を掲出するなど、周知に努めた。</p> <p>また、市役所内の市民ギャラリーにおいて、県民税の県内での活用事例紹介や森林のもつ多様性についてのパネル展示を実施し、来庁者への情報発信を行った。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	鈴鹿市
番号	事業名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事業費	1,758,456 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,756,059	0	2,397

1. 事業の目的	
<p>本市の海岸の砂浜や堤防周辺の海岸林は、防潮・防風・飛砂防止・津波被害軽減など、周辺住民の暮らしを守ってきた。しかし近年、病害虫被害が拡大し、枯死などを原因とした倒木、枯れ枝が飛散によって集落や人身に危険を及ぼすことが懸念されている。</p> <p>これらの危険木の伐採・処分を行い、被害防止のための対策を講じるとともに、病害虫被害拡大を防止するため樹幹注入を行う。</p> <p>また、森林環境教育事業として地元の小中学生による鈴鹿産クロマツ（コンテナ苗）の植樹を行い、海岸林等の維持保全をすることで、住民自身が積極的・継続的に海岸林保全に関わり、安心・安全な住環境を確保する。</p>	
2. 事業実績概要	
<p>【事業内容】 海岸林や人家周辺の危険木の伐倒や病害虫被害木の伐倒・駆除、被害防止・維持保全のための樹幹注入等を実施する。また、減少した松林を補うため、地元の小中学生とともに、鈴鹿産クロマツ（コンテナ苗）の植樹を行う。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 市内海岸約15km周辺の公有地内（海岸及び緑地）</p> <p>【事業量】 特別伐倒駆除：1箇所（鼓ヶ浦海岸）：2本、 樹幹注入：1箇所（鼓ヶ浦海岸）：89本</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年3月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 鼓ヶ浦海岸付近在住の市民（2,014世帯 4,703人）、森林環境教育参加者（小中学生とボランティア）：約250名</p>	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
<p>【実施箇所の選定理由】 鼓ヶ浦海岸は、海水浴場として、観光客の目に触れるのは勿論、「白砂青松100選」に選ばれた、かつての風景を復活させたい、また、江戸時代から残る立派な松を守りたいという、地元の強い要望を受けているため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 松くい虫被害松の特別伐倒駆除を実施し、森林病害虫被害拡大を防止することができた。また、定期的な樹幹注入による松枯れの防止及び松林再生に向けた植栽を行うことで、健全な松林の再生に寄与し、周辺住民の関心・安心な暮らしの確保が図られた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 数年で目指すべき海岸林の状況を達成するものではないため、定期的に被害状況を確認し、必要に応じて特別伐倒駆除を行っていく。また、薬剤を定期的に注入することで、効果的に病害虫による被害を軽減する事ができるため、計画的に樹幹注入を行っていく。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 日本の白砂青松100選にも選ばれた風景を復活させたいという周辺住民からは、改善に向けた取り組みに感謝の声が聞かれた。また、参加した小中学生からは、植栽した松の周辺環境への貢献や海岸環境の保全に興味をわき、これからも海岸林を大切にしたいとの感想があった。</p>	

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり			市町名	鈴鹿市
番号	事業名				
1	暮らしを守る森林保全事業				
事業費	1,758,456 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,756,059	0	2,397

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】
<p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】</p> <p>業務委託</p> <p>【実施方法の選定理由】</p> <p>特別伐倒駆除及び樹幹注入については、専門技能及び薬剤への知識が必要なため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】</p> <p>特別伐倒駆除：随意契約（2者見積）、樹幹注入：指名競争入札（5社参加）※落札率96.8%</p> <p>【契約相手方の選定理由】</p> <p>見積合せの結果、安価な業者に決定した。</p> <p>【事業費の積算根拠】</p> <p>特別伐倒駆除：見積書による</p>
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】
<p>【事業参加や整備施設等の公益性】</p> <p>事業地周辺は、松くい虫による病害虫被害により、台風時に倒木や枝の飛散、集落や人身に危険を及ぼすことが懸念されることから、本事業によって周辺住民に対し安心・安全な住環境を寄与できる。</p> <p>【公的関与の必要性】</p> <p>事業地は鼓ヶ浦海岸及びその周辺地の市有地であることから、公的関与が必須である。</p> <p>【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】</p> <p>市管理地のため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】
<p>【媒体（該当するものに○）】</p> <p>・HP掲載 ・広報誌掲載 ○新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：樹幹注入地周辺） ・その他（方法： ）（場所： ）</p> <p>【情報発信の対象】</p> <p>事業地の周辺住民、森林環境教育事業参加者、一般市民</p> <p>【情報発信の内容】</p> <p>樹幹注入を行う際、周辺住民に対し、「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」と記載した工事看板を設置した。 森林環境教育事業については、事業実施前に記者提供を行い、県民全体への事業の周知を行った。（当日は2社が取材し、新聞掲載された。）また、参加者に対しては、実施地に県民税の旗を設置し、主催者または樹木医から、森林から享受されている多様な恩恵について説明した。また、主催者あいさつ等でも、県民税について説明するなど、県民税の目的や活用について繰り返し周知した。</p>
7. 写真
別紙のとおり
8. その他特記事項

7. 写真

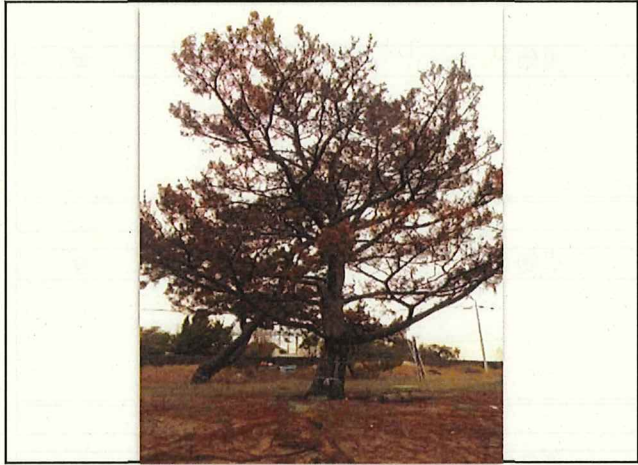


写真1 特別伐倒駆除（伐倒前）



写真2 特別伐倒駆除（伐倒後）



写真3 樹幹注入（工事看板）



写真4 樹幹注入（薬剤注入）



写真5 森林環境教育（樹木医による教育風景）



写真6 森林環境教育（植栽の様子）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	暮らしを守る森林保全事業
-----	--------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
特別伐倒駆除	本	2.00		360,400	
樹幹注入	本	89.00		1,108,800	
森林環境教育（海岸植樹）	式	1.00		289,256	
事業費				1,758,456	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
特別伐倒駆除	特別伐倒駆除業務委託	本	2.00		360,400	
	計				360,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
樹幹注入	樹幹注入業務委託	本	89.00		1,108,800	
	計				1,108,800	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
森林環境教育（海岸植樹）	森林環境教育業務委託	式	1.00		271,700	
	看板（消耗品）	枚	2.00	6,600	13,200	
	スコップ（消耗品）	本	2.00	2,178	4,356	
	計				289,256	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	鈴鹿市
番号	事業名				
2	緑の未来づくり事業				
事業費	37,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			37,000	0	0

1. 事業の目的	
<p>自然環境の保全、森林環境教育、緑化活動等を実施する住民団体や、地区保全森林全体の保全のため、地区保全森林内の私有地の松くい虫被害松を伐採する個人に対し、その環境活動や保管理に要する経費の一部を補助することにより、住民による自発的な森林づくり活動や森林保全活動を支援する。</p>	
2. 事業実績概要	
<p>【事業内容】 次の2事業について、鈴鹿市緑の未来づくり事業補助金交付手続の手引きに基づき補助金を交付する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 住民団体・病虫害被害松の管理者</p> <p>【補助率等】 4分の3（1件につき上限10万円）</p> <p>【箇所数】 1箇所（事業内容①については、補助申請実績無し）</p> <p>【事業量】 松くい虫被害松の伐倒：1件（事業内容①については、補助申請実績無し）</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 市民1名、南若松町周辺住民846世帯1,737名にも波及</p>	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
<p>【実施箇所の選定理由】 地区保全森林の松くい虫被害拡大を防止する目的で実施しているため、枯松の伐採補助については、地区保全森林に指定されている地域に限定し、補助している。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 伐倒松の周辺住民が所有する松への松くい虫被害を防止することができ、安全・安心な暮らしの確保につながった。また、地区保全森林内の被害防止に寄与した。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 補助事業の実施主体が管理を行う。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 枯松伐採を実施した市民から、昭和後期の白砂青松とうたわれた海岸松をなんとか守っていききたいという声を聞くことができた。そのためにも周辺の松へ松枯れを拡大させないようにしたいという思いがあり、補助金の活用によって早期に伐採を決断できたとの反応があった。</p>	

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり			市町名	鈴鹿市
番号	事業名				
2	緑の未来づくり事業				
事業費	37,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			37,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
補助

【実施方法の選定理由】
本来、私有地は所有者自身が適正に管理するのが前提であるが、松くい虫によって枯れた松は伐倒するほか対処方法がなく、それには処理費用がかさむため、対処が進まず、周辺健康木へも影響を及ぼしていた。

【契約方法と落札率または補助率等】
補助対象経費の合計額に4分の3を乗じた額（上限額10万円）

【契約相手方の選定理由】
補助申請者が2社以上の業者から見積りを取り、安価な業者と契約した。

【事業費の積算根拠】
見積書による。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
地区保全森林内の松くい虫被害の拡散を防ぎ、被害規模を縮小することで、周辺への被害を最小限にとどめることができるため、補助申請者のみならず、周辺への環境改善効果も高いため、極めて公益性の高い事業である。

【公的関与の必要性】
地区保全森林の松くい虫被害を縮小することで、周辺への被害を最小限にとどめることができる。しかし、特別伐倒駆除を個人の負担のみで実施する場合、経済的負担が大きく、伐倒に躊躇し、被害拡大が生じる恐れがある。被害拡大を防止するためには早急な対応が必要であることから、所有者の管理責任下で公的関与（補助）を行う必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
健康木への影響を防ぐものであり、再植栽を前提としていないため該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
地区保全森林内で松を所有する市民

【情報発信の内容】
本市HPに緑の未来づくり事業のページを作り、みえ森と緑の県民税を活用していることや事業概要、申請書様式等の周知を常時行っている。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 緑の未来づくり事業

7. 写真



写真1

特別伐倒駆除（伐倒前）



写真2

特別伐倒駆除（伐倒後）

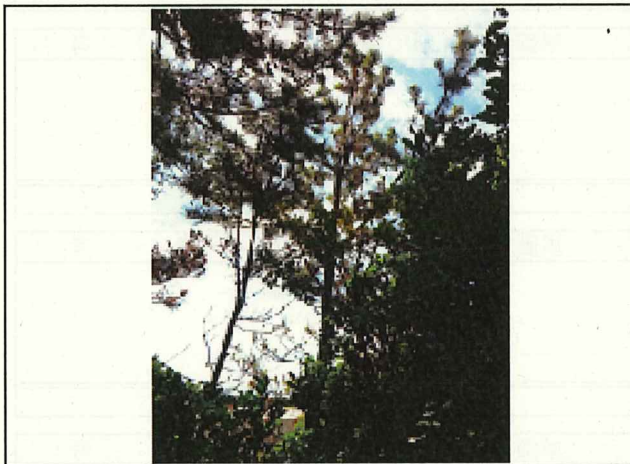


写真3

特別伐倒駆除（伐倒前）

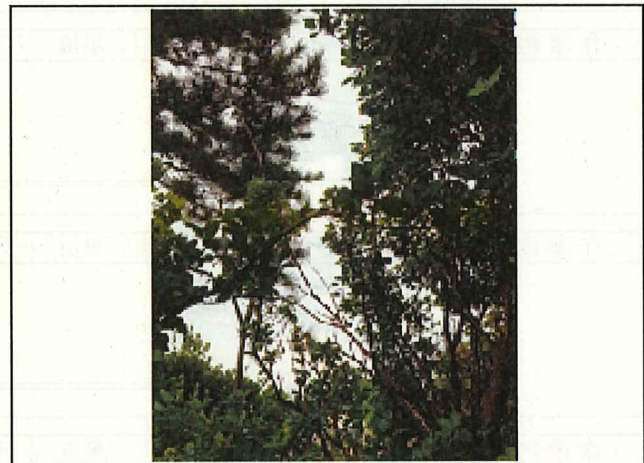


写真4

特別伐倒駆除（伐倒後）

写真5

写真6

写真5

写真6

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	緑の未来づくり事業
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
枯松の伐採				37,000	※補助金額
事業費				37,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
枯松の伐採	緑の未来づくり補助金	箇所	1.00		37,000	※補助金額 事業費50,000円
	計				37,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	鈴鹿市
番号	事業名				
3	森に親しむ記念樹贈呈事業				
事業費	200,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			200,000	0	0

1. 事業の目的

近年、身近な緑であるはずの庭木の植栽離れが進み、暮らしの中心である家庭において緑を感じられる機会が少なくなっている。入学等のライフイベントにあわせ記念樹を配布し自らの手で植樹をしてもらうことで、樹木に対する親しみを深め、森林環境教育の効果拡大と市内の緑化推進を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】

人と緑の交流を目的として開催されている「植木まつり」会場において、新築、入学等の人生の節目に記念樹（ヒラドツツジ、センリョウ、オオデマリ）を配布する。記念樹の生産者が植栽方法や手入れ方法について直接レクチャーし、家庭で愛着をもって正しく植樹を行うことで、森林環境教育の効果を期待するとともに、適切な管理方法を伝えることで長期にわたる市内緑化推進の効果を期待する。

また、記念樹には三重県産スギで作成したロゴマーク入りのプレートをかけ、裏面に森林に対する思い等のメッセージを記載していただき、森林への関心の増加を図る。さらに、県民税及び森林の適正管理に関する事項をアンケート形式で回答していただき、県民税の周知と森林環境に関する理解を深める取り組みを行うとともに、適切な管理ができていないか把握するため、追跡調査を実施する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

鈴鹿市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

市内200箇所の個人宅

【事業量】

記念樹：200本×@1,000

【事業実施期間】

平成31年4月13日～平成31年4月21日（4日間配付）

【受益者、参加者、利用者数等】

記念樹を配布した人及びその家族を受益者とした。

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

「植木まつり」のイベントとして生産者自らが記念樹の配布を行うことで、受益者の木に対する愛着がさらに深まることが期待できることに加えて、正しい植栽方法等をレクチャーできることから、長期にわたる適正な管理を促すことができる。また、1万5千人以上の人が集まるイベント会場において実施することにより、直接の受益者以上に、波及効果を見込めると考える。

【事業実施により得られた効果】

身近に緑を感じることができる最適な環境である家庭（庭など）に家族で植樹をすることで、森林に対する親しみを覚え、森林環境教育の効果を期待するとともに、長期にわたって管理していただき、市内の緑化の拡大を図ることができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

整備事業等でなく、該当しない。配布した記念樹は、各家庭で受益者が管理する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

配布者に対し、追跡調査への協力を要請したところ、107名の方から承諾を得ることができた（全体の53.5%）。承諾いただいた方への追跡調査では、自宅で育った樹木の写真を送付いただいたり、「子どもが木に対して興味を持つきっかけになった。」「新芽が出てきて、今後が楽しみ。」「毎日水をやっています。大きな花を咲かせてくれる日を楽しみにしている。」などのたくさんの声をいただいた。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	鈴鹿市
番号	事業名			
3	森に親しむ記念樹贈呈事業			
事業費	200,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			200,000	0
			その他	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
市が購入し、植木まつり期間中に対象者へ配布した。

【実施方法の選定理由】
記念樹に適した木（外来種は除く）を選定し、購入した。

【契約方法と落札率または補助率等】
市の契約規程により、合計金額10万円以上のものは複数者見積を行い、価格の安いところを契約相手として選定した。

【契約相手方の選定理由】
見積合せの結果、安価な業者に決定した。

【事業費の積算根拠】
見積価格を参考とした。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
植木まつりに参加した方すべてに配布するのではなく、新築、入学等の人生の節目の方に限定し、記念樹を配布することで、できるだけ多くの家庭が受益者となるよう工夫している。また、市内全戸及び周辺市にも事業チラシを配布し、多くの方に事業を周知している。

【公的関与の必要性】
公共施設や事業地の緑化は進んでいるが、市民の方の自宅等の緑化を政策的・積極的に進めるためには公的関与が必須であることから妥当である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
個人が所有する森林等の整備ではなく、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
○チラシ配布（配布対象者：約20万部（市内全戸・四日市・亀山・津） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：贈呈会場前）
・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
鈴鹿市民及び周辺市の市民

【情報発信の内容】
イベントチラシ等に、県民税活用事業である旨を記載した。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 森に親しむ記念樹贈呈事業

7. 写真



写真1

H31の様子



写真2

H31の様子



写真3

H31の様子

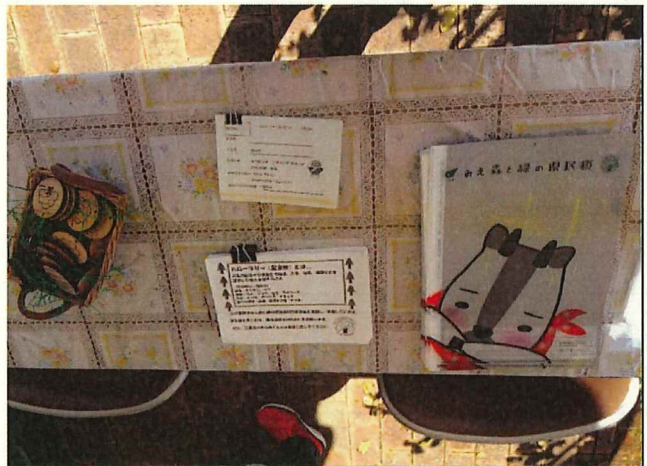


写真4

啓発物品 アンケート

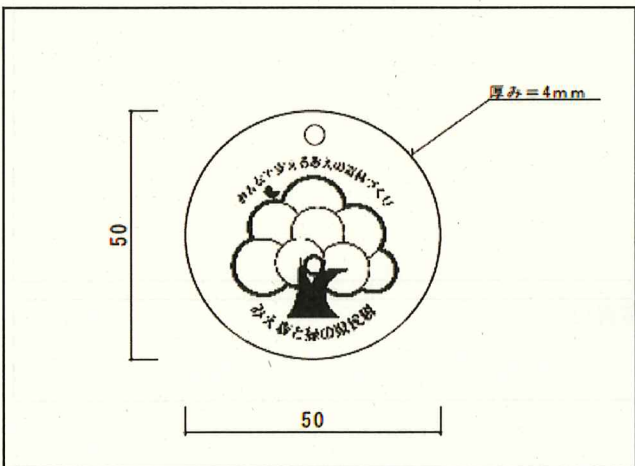


写真5

木製プレート

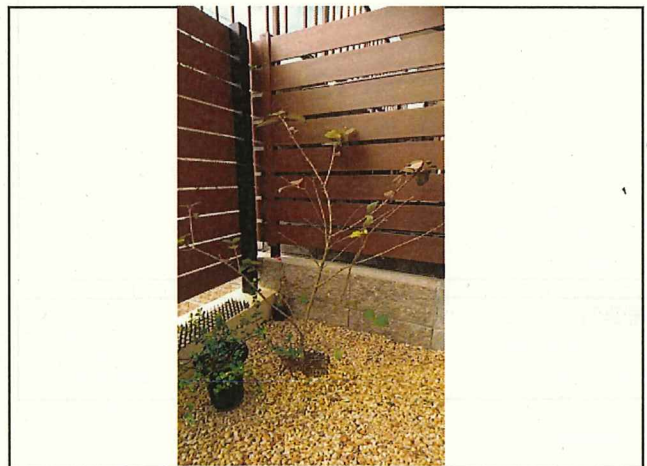


写真6

追跡調査



写真7

追跡調査

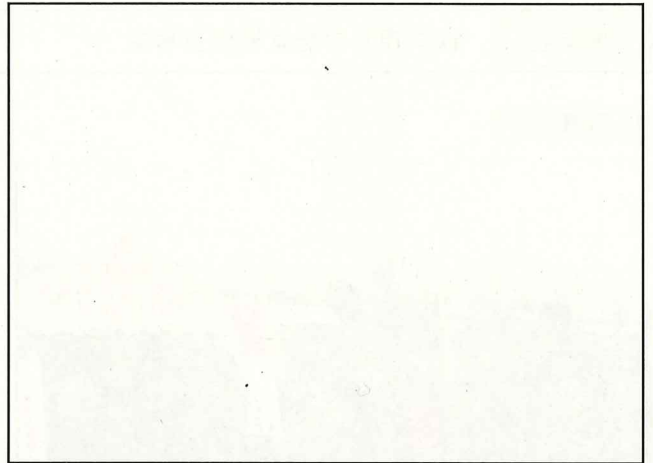


写真8

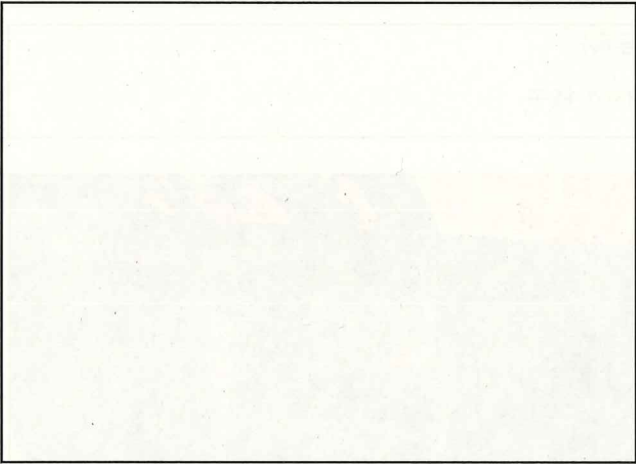


写真9

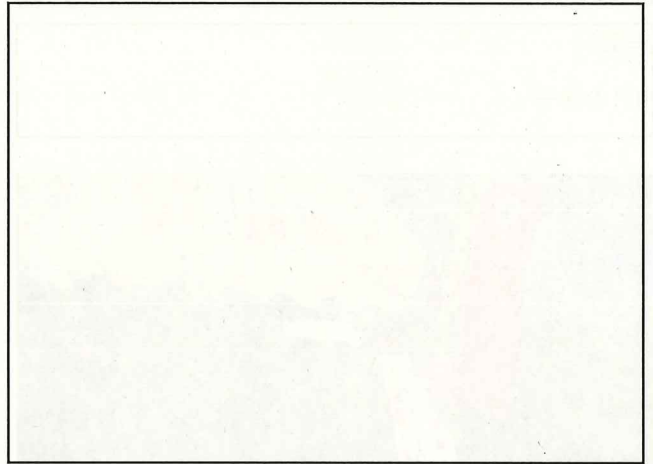


写真10

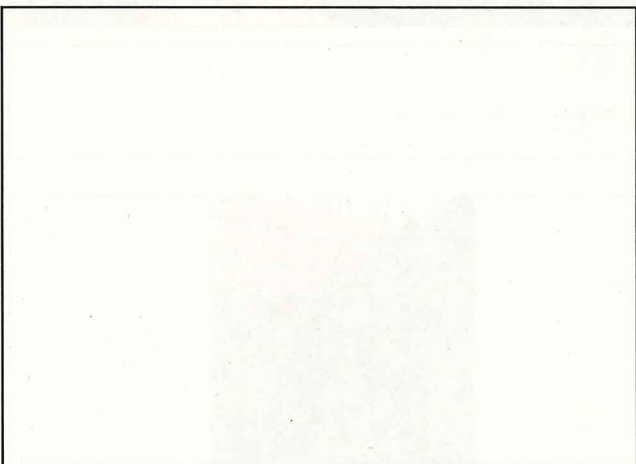


写真11

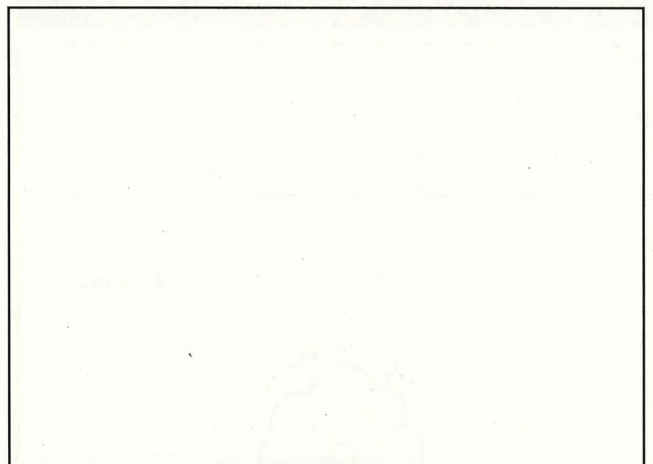


写真12

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	森に親しむ記念樹贈呈事業
-----	--------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
ヒラドツツジ	本	50.00	1,000	50,000	
センリョウ	本	50.00	1,000	50,000	
オオデマリ	本	100.00	1,000	100,000	
事業費				200,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

平成31年度「記念植樹配布事業」におけるみえ森と緑の県民税にかかる市民アンケート結果

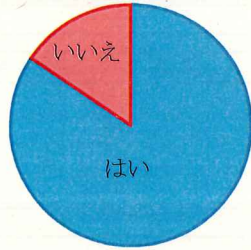
実施年月日：平成31年4月13日、14日、20日、21日 記念樹配布数200本

実施場所：鈴鹿フラワーパーク 「植木まつり」会 アンケート 200枚

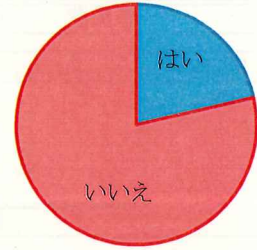
アンケート 173枚 (回収率86.5%)

- 1 ハローツリーのプレゼントを行っていることを知っていた
2 この事業に「みえ森と緑の県民税」を使っていることを知っていた。

回答	人数(人)	割合(%)
はい	146	84.4
いいえ	27	15.6

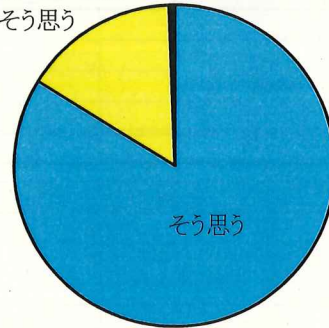


回答	人数(人)	割合(%)
はい	37	21.4
いいえ	136	78.6



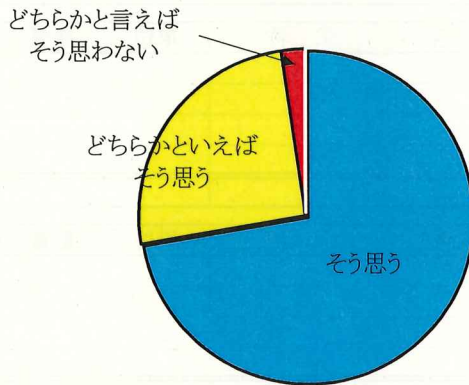
- 3 安全、快適に暮らすためには、森林の手入れが大切だと思う
どちらかといえば そう思う

回答	人数(人)	割合(%)
そう思う	145	83.8
どちらかといえば思う	27	15.6
どちらかといえば思わない	0	0.0
そう思わない	1	0.6



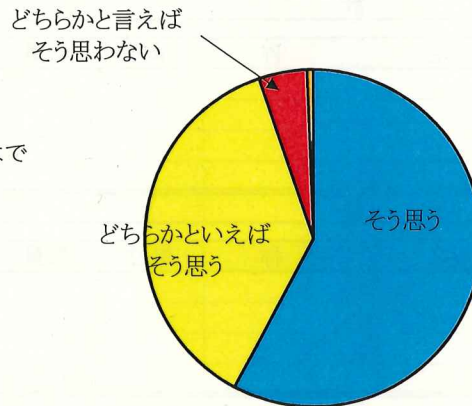
- 4 木を使うことは森林の手入れにつながると思う
どちらかと言えば そう思わない

回答	人数(人)	割合(%)
そう思う	125	72.3
どちらかといえば思う	44	25.4
どちらかといえば思わない	4	2.3
そう思わない	0	0.0



- 5 三重県の森林のために、今後はできるだけ三重県の木で
できたものを買おうと思う
どちらかと言えば そう思わない

回答	人数(人)	割合(%)
そう思う	100	57.8
どちらかといえば思う	64	37.0
どちらかといえば思わない	8	4.6
そう思わない	1	0.6



令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	鈴鹿市
番号	事業名				
4	AGF鈴鹿体育館サブアリーナ床面改修工事				
事業費	19,482,120 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			10,000,000	0	9,482,120

1. 事業の目的	<p>AGF鈴鹿体育館は、日頃から市民のスポーツによる交流や健康増進を図る場所として多くの方に利用されています。また、令和3年度に開催予定の三重とこわか国体のハンドボール競技の競技会場として利用されることが決定しているため、広く市民に県産木材を身近に感じてもらい、県産材利用の大切さを学ぶ場とするため、副体育館アリーナ床面を県産木材を使用して整備する。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 AGF鈴鹿体育館サブアリーナの床面を県産木材を使用して全面的に改修する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所</p> <p>【事業量】 床面積：693㎡</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年1月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 施設を利用する際の申請時に、利用予定者数を報告してもらおう。また、一般公開時には、個人一人ひとりに利用券を販売するため、それらの数で統計をとっている。</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 AGF鈴鹿体育館は、年間で約13万人（平成29年度実績）の利用者が訪れる市内最大の運動施設であり、また、令和3年度に三重とこわか国体ハンドボール競技の競技会場として利用予定で、広く県内外から施設を訪れる方に、当該事業をPR出来るため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 県産材を使用した床フローリング材を採用することで、日常の運動やスポーツを通じて、子供から高齢者まで広く県民に、県産材とふれあう場及び当該事業を知り・学ぶ機会を提供できると思われる。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 鈴鹿市の直営管理施設として、市職員が管理を行います。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 令和2年4月にリニューアルオープンしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5月6日まで利用休止。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------------	-----	-----

番号	事業名				
4	AGF鈴鹿体育館サブアリーナ床面改修工事				
事業費	19,482,120 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			10,000,000	0	9,482,120

<p>4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】</p> <p>【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】</p> <p>市による工事請負契約</p> <p>【実施方法の選定理由】</p> <p>市立体育館であるため。</p> <p>【契約方法と落札率または補助率等】</p> <p>一般競争入札による。（落札率 99%）</p> <p>【契約相手方の選定理由】</p> <p>一般競争入札による。</p> <p>【事業費の積算根拠】</p> <p>建築の単価と歩掛を参考に積算し、予定価格とした。</p>
<p>5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】</p> <p>【事業参加や整備施設等の公益性】</p> <p>当該施設については、市内外から年間約13万人（平成29年度実績）の利用者が訪れる市内最大の運動施設であり、広く県民が当該事業の効用を享受することが出来ると思われる。</p> <p>【公的関与の必要性】</p> <p>本市が所有し管理・運営する公共施設であるため、公的関与の必要性があると判断できる。</p> <p>【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】</p> <p>市立体育館の床材であるため、転用等が想定されず、該当しない。</p>
<p>6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】</p> <p>【情報発信の手段（該当するものに○）】</p> <p>○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映</p> <p>・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）</p> <p>○パネル展示（展示場所：AGF鈴鹿体育館内） ○看板設置（設置場所：AGF鈴鹿体育館工事看板横）</p> <p>・その他（方法： ）（場所： ）</p> <p>【情報発信の対象】</p> <p>施設利用者</p> <p>【情報発信の内容】</p> <p>実際の工事で使用した床材の製造工程をパネルとして設置し、当該事業の活用を施設利用者へPRする。</p>
<p>7. 写真</p> <p>別紙のとおり</p>
<p>8. その他特記事項</p>

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 AGF鈴鹿体育館サブアリーナ床面改修工事

7. 写真



写真1 サブアリーナ全体写真



写真2 サブアリーナ全体写真（2Fより）



写真3 工事現場啓発看板①



写真4 工事現場啓発看板②



写真5 パネル展示①



写真6 パネル展示②

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	AGF鈴鹿体育館サブアリーナ床面改修工事
-----	----------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
県産材を使用した床材の製作及びサブアリーナへの施工	m ²	693.00		19,482,120	
事業費				19,482,120	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	鈴鹿市
番号	事業名				
5	森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業				
事業費	3,800,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,800,000	0	0

1. 事業の目的	
<p>自然（動物・植物）など様々なテーマで創作活動をしている絵本作家を講師に招き講演を実施することで、参加者に自然との関わりに関心を持ち、自然の素晴らしさに気づき、大切さを感じていただき、より一層郷土の森林を身近に考えてもらうきっかけの場とする。また、前年度までに三重県産材を使用した書架・テーブル・イス等の備品を購入し、図書館内は温かみのある空間となってきたため、平成31年度もさらに事業を拡大し、木製品の良さを感じられる空間づくりに努める。</p>	
2. 事業実績概要	
【事業内容】	
<p>自然（木・植物）をテーマに講演を行い、自然の大切さをなどに関心を持っていただく場を提供する。また、木製備品を購入し、図書館内を親しみやすい空間とする。</p>	
【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】	
鈴鹿市	
【補助率等】	
補助事業ではないため、該当しない。	
【箇所数】	
1箇所（講演は鈴鹿市立図書館本館内にて開催。備品は閲覧用椅子、案内板等を購入し、閲覧室・ロビーに設置）	
【事業量】	
<p>講師謝礼 閲覧用椅子20脚（一般用12脚，児童用8脚），木製案内板（2台），木製ガラス戸付DVD棚（1台）， 木製しかけ傾斜絵本棚（1台），木製子育て支援コーナー用本棚（1台），木製文庫用本棚（1台）， 木製おはなし会テーブル（1台），木製掲示板（15台）</p>	
【事業実施期間】	
平成31年4月～令和2年3月	
【受益者、参加者、利用者数等】	
講演会参加者69名（把握方法は受付簿にて確認。）、図書館利用者数	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】	
<p>図書館内に木製備品を設置することにより、多くの利用者に木製備品を使用していただくことができる。また、木製備品に森と緑の県民税のロゴマークを貼り付けることで、交付金が有効に活用されていることを利用者に周知することができるため。</p>	
【事業実施により得られた効果】	
<p>講演会を開催することにより、自然との関わりに関心を持ち、自然の素晴らしさに気づき、自然を大切にすることの大切さを感じてもらい、木の大切さの学びの場となった。</p>	
【整備した場所・施設・備品の今後の活用】	
<p>子ども向けに木工工作イベントを開催し、木にふれあう機会をつくり、その場で講師により森林の働きについて啓発を行う。</p>	
【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】	
<p>講演会は、定員を上回る応募があり、講演会のアンケートも概ね好評の感想をもらった。</p>	

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり		市町名	鈴鹿市	
番号	5				
事業名	森林環境に関する講演事業及び木製品購入事業				
事業費	3,800,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,800,000	0	0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】					
講演会：絵本作家へ講演依頼、 木製品：物品の購入、 いずれも図書館が依頼及び発注を行った。					
【実施方法の選定理由】					
子どもから大人まで幅広く、たくさんの人に啓発するため、発信力のある絵本作家の講演会を選定した。					
【契約方法と落札率または補助率等】					
随意契約（1者随契）					
【契約相手方の選定理由】					
講演会の選定理由は、絵本作家の方の作品には木や動物、植物などが作品のテーマや内容に描かれていたため講師に選定した。					
木製品は、入札の参加者が1者であったことから中止となった。しかし、参加業者に改めて見積を徴取したところ、入札時設定予算内であったことと三重県産木材の取り扱いがあり、本事業において実績がある業者であることから選定した。					
【事業費の積算根拠】					
見積書を徴取したところ、積算資料のとおりであった。					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】					
講演会については、図書館HP、広報誌掲載などの手段によって広く周知することにより、市内及び市外の方にも講演会への参加が可能となり、公益性の面からも受益をうけることができたと考える。					
【公的関与の必要性】					
木製品などの使用については、受益の範囲が不特定多数が対象であり、サービスの対価が徴収できないため、公的関与が必要である。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
森林整備ではないため該当しない。備品は図書館で管理を行う。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】					
○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映					
○チラシ配布（配布対象者：図書館利用者） ○ポスター掲示（掲示場所：図書館、市役所本庁、白子駅前駐輪場）					
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）					
・その他（方法： ）（場所： ）					
【情報発信の対象】					
講演会については、図書館HP、チラシ、ポスターにてイベント開催案内をし、市内及び市外の方に対し情報発信を行った。					
【情報発信の内容】					
図書館HP、チラシ、ポスターにてイベント開催案内し、みえ森と緑の県民税市町交付金事業であることを表示した。またイベント実施後の報告を図書館HPに掲載した。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業

7. 写真



写真1
講演会の様子

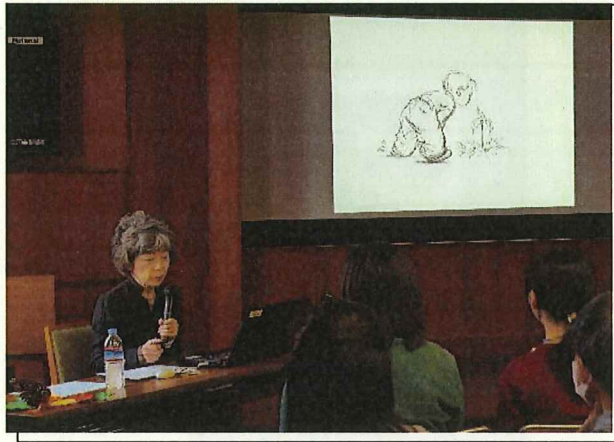


写真2
講演会の様子



写真3
児童閲覧室用椅子



写真4
木製案内板



写真5
木製おはなし会テーブル



写真6
木製掲示板

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業

7. 写真

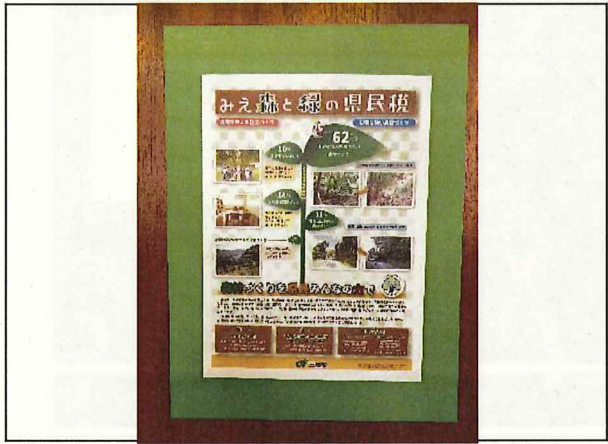


写真7
講演会開場内に森と緑の県民税事業案内ポスターを掲示

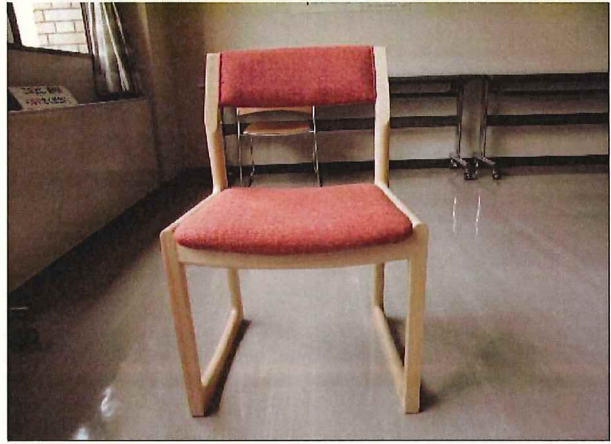


写真8
一般閲覧室用椅子



写真9
木製しかけ傾斜絵本棚

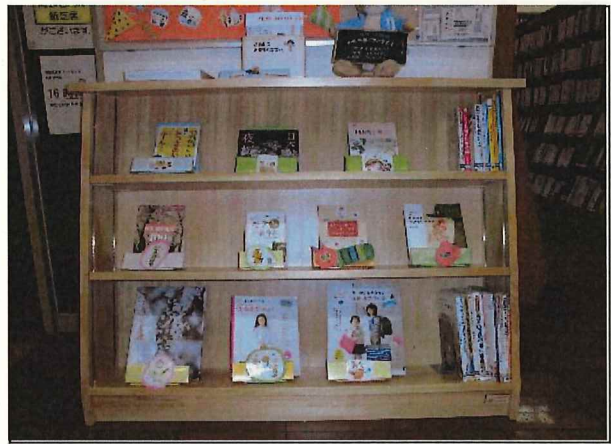


写真10
木製子育て支援コーナー用本棚

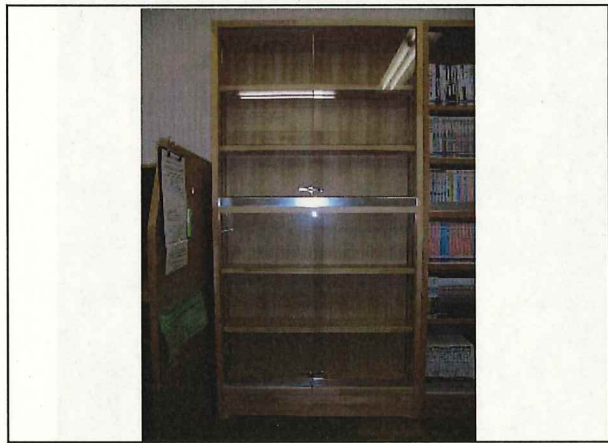


写真11
木製ガラス戸付DVD棚

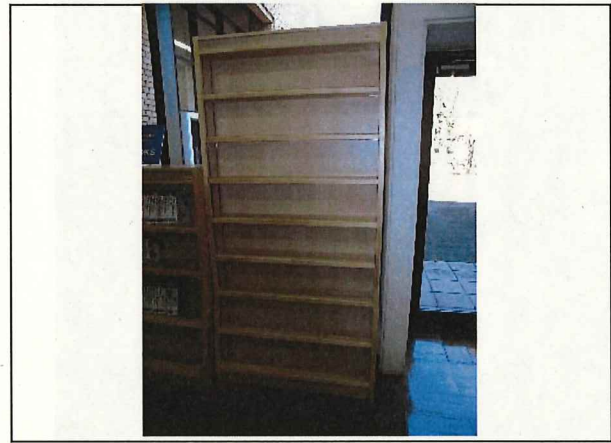


写真12
木製文庫用本棚

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	森林環境に関する講演事業及び木製備品購入事業
-----	------------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
講演会講師謝礼				300,000	
木製備品				3,500,000	
事業費				3,800,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
講演会（11月開催）	講師謝礼				300,000	
					300,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	木製案内板	台	2.00		2,831,400	
	木製ガラス戸付DVD棚	台	1.00			
	木製しかけ傾斜絵本棚	台	1.00			
	木製子育て支援コーナー用本棚	台	1.00			
	木製文庫用本棚	台	1.00			
	木製おはなし会テーブル	台	1.00			
	木製掲示板	台	15.00			
	木製閲覧用椅子	脚	20.00		668,600	
	計		42.00		3,500,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------	-----	-----

番号	事業名				
6	森と緑の生涯学習講座				
事業費	844,941 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			844,941	0	0

1. 事業の目的	小学生を中心とした子どもと保護者が、森や緑の大切さについて学び、ふれあうことにより、多くのあらゆる世代の市民が、森林保全や持続可能な自然環境などの理解を深めることを目的とする。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 市立公民館において、各公民館運営委員会に「森と緑の生涯学習講座」として委託し、小学生を中心とした子どもと保護者が、夏休みなど長期休暇を利用しながら、年3回以上、製材所等の見学、フィールドワーク、間伐材を使用した木工教室等の森林環境学習を実施する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 鈴鹿市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではないため、該当しない。</p> <p>【箇所数】 13公民館（庄内、牧田、石薬師、井田川、庄野、加佐登、神戸、川野、飯野、長太、栄、合川、郡山）</p> <p>【事業量】 13公民館において、年3回以上講座を実施</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月～令和2年2月</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 13館、講座回数延べ41回、延べ参加者数1,256人（実施状況報告より）</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 森林学習について意欲的に取り組み、工夫された企画を実施することにより、森林への理解が深まることが期待される公民館を選定。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 各館において、専門家の森の実情、環境、また、県産材の活用などの講義で基本を学び、木工教室やフィールドワークなどの実技を取り入れた森林学習を通じて、学習参加者が森や緑の大切さを学ぶことができた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備等ではなく、該当しない。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 自然との共生が少し理解できた。</p>

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	鈴鹿市	
番号	事業名					
6	森と緑の生涯学習講座					
事業費	844,941 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他	
			844,941	0	0	
4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】						
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】						
委託						
【実施方法の選定理由】						
生涯学習，地域の交流拠点として地域にある公民館は事業実施に最適な場所であり，「森と緑の生涯学習講座」については，他の公民館事業と同様，地域住民で構成された公民館運営委員会に委託することが必要と考える。						
【契約方法と落札率または補助率等】						
随意契約（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号）						
【契約相手方の選定理由】						
公民館運営委員会が，地域の生涯学習の場，地域の方の交流の拠点でもある公民館の事業運営を行っているため。						
【事業費の積算根拠】						
1館あたり70千円（講師料30千円，材料費等35千円，施設や道具の使用料5千円）						
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】						
【事業参加や整備施設等の公益性】						
森林になじみのない地区の子供たちも経験できる。また，学年の違う子供が教えあったり，高齢者がボランティアで参加することにより幅広い世代の交流が生まれ，お互いが学びあうことができる。						
【公的関与の必要性】						
公民館を通じて幅広い地区の子供や保護者を対象とした森林環境教育活動であり，公的関与が必要と考える。						
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】						
施設整備等ではなく，転用、目的外使用は想定されない。						
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】						
【情報発信の手段（該当するものに○）】						
○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映						
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）						
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）						
・その他（方法： ）（場所： ）						
【情報発信の対象】						
主となる参加者は小学生。地区への回覧では保護者，高齢者も対象としている館もある。						
【情報発信の内容】						
各公民館だよりへの掲載，案内チラシへの掲載，事業実施時の掲示，事業実施報告としてたよりに掲載，また，たよりの市HPへの掲載。						
7. 写真						
別紙のとおり						
8. その他特記事項						

7. 写真

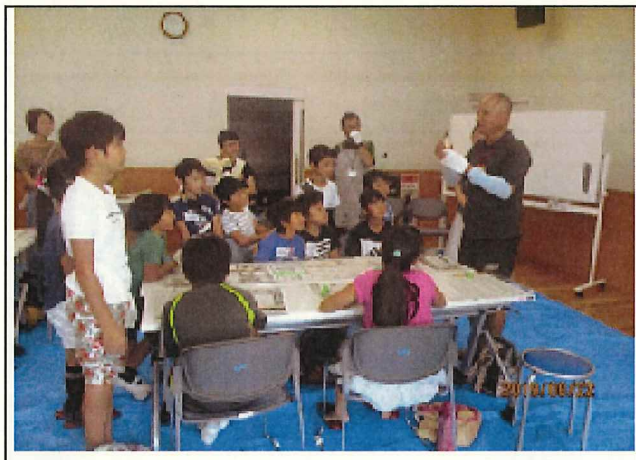


写真1

木のスプーンづくり



写真2

イスBOXを作ろう



写真3

三重の自然について・木のおもちゃ作り



写真4

竹の工作



写真5

ベンチづくり



写真6

ネイチャーゲーム

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	森と緑の生涯学習講座
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
森と緑の生涯学習講座	館	13.00		844,941	
事業費				844,941	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
森と緑の生涯学習講座		館	13.00		844,941	
	計				844,941	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	鈴鹿市
------	-------------------	-----	-----

番号	事業名				
7	鈴鹿市立西条保育所新設工事				
事業費	31,647,116 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,200,000	0	29,447,116

1. 事業の目的	
鈴鹿市立西条保育所の、移転新築を行うにあたり、各保育室の棚に木材を使用することで、温かみがあり、親しみやすい保育室にするとともに、木製品に触れ、良さを感じる機会とする。	
2. 事業実績概要	
【事業内容】	
令和2年4月開園予定の西条保育所（新築）の、各保育室等に設置する保育備品に県産材を使用することで、保育室内を含めた保育空間を木の温かみがあり、親しみやすい空間とする。	
【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】	
鈴鹿市	
【補助率等】	
補助事業ではなく、該当しない。	
【箇所数】	
西条保育所1か所	
【事業量】	
造りつけ棚等の設置数 114台	
【事業実施期間】	
平成30年10月～令和元年10月	
【受益者、参加者、利用者数等】	
新築の西条保育所利用者数 198名（利用児童数133名、職員65名）	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
【実施箇所の選定理由】	
西条保育所は、市内の保育拠点施設と位置付けされていることから、各保育室等の棚に県産材を使用することで、森や緑の大切さについて学び、ふれあうにあたり、適するため。	
【事業実施により得られた効果】	
無機質、画一的な製品でなく、木材の持つ温かさや人工物にはない木製品の良さを幼児期より体感し、心豊かな環境で保育を行うことができることを見込まれる。	
【整備した場所・施設・備品の今後の活用】	
使用する棚のにおいを嗅いで、みんなで感想を言い合う。どのようにして、森林の木から、棚ができるのか過程を学ぶ。	
【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】	
開所後に来園者に対して、使用している棚等が県民税を活用していることを周知していく。また、保育所職員からは、「木の素材に触れることで、室内にいながら自然に触れることができる。」「自然を肌で感じるができる。」といった声や、保護者からも、「温かみがあって良い。」などの声をいただいた。	

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	鈴鹿市
番号	事業名				
7	鈴鹿市立西条保育所新設工事				
事業費	31,647,116 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,200,000	0	29,447,116

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 請負工事

【実施方法の選定理由】
 鈴鹿市条件付一般競争入札実施要綱により条件付一般競争入札を選択

【契約方法と落札率または補助率等】
 一般競争入札

【契約相手方の選定理由】
 一般競争入札

【事業費の積算根拠】
 設置する棚ごとの見積りによる

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 当該施設は、市立保育所であり職員及び児童により、今後200名程度が日々施設を利用すると考えられる。また本市では子育て支援の充実を図る上で「子育て支援総合拠点」として位置付け、活用を図ることからも、公益性の高い施設と考える。

【公的関与の必要性】
 本市の幼児教育・保育は多様化するニーズへの対応として、今後も更なる充実を図る必要があり、市による就学前施設の計画的な整備は必要と考える。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 市立保育所であり、市が管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
 ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ○チラシ配布（配布対象者：在園児保護者） ○ポスター掲示（掲示場所：西条保育所）
 ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
 地元自治会関係者、施工業者
 児童、児童保護者

【情報発信の内容】
 使用している棚等が県民税を活用していることを周知し、森林や木材について学びきっかけとする。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 鈴鹿市

事業名 鈴鹿市立西条保育所新設工事

7. 写真



写真1
施設外観



写真2
設置状況

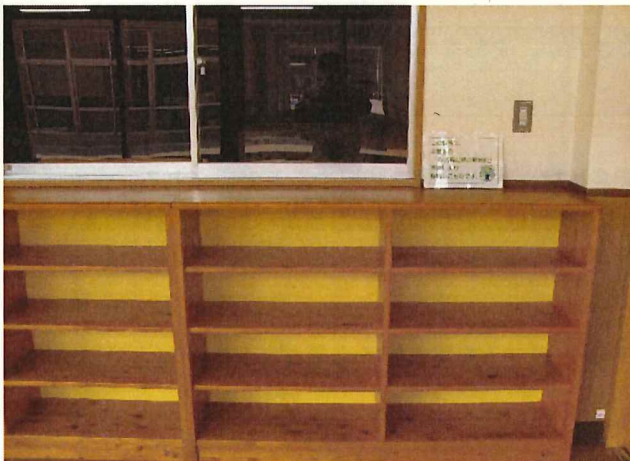


写真3
下駄箱



写真4
教材棚



写真5
園児用ロッカー



写真6
移動式書架

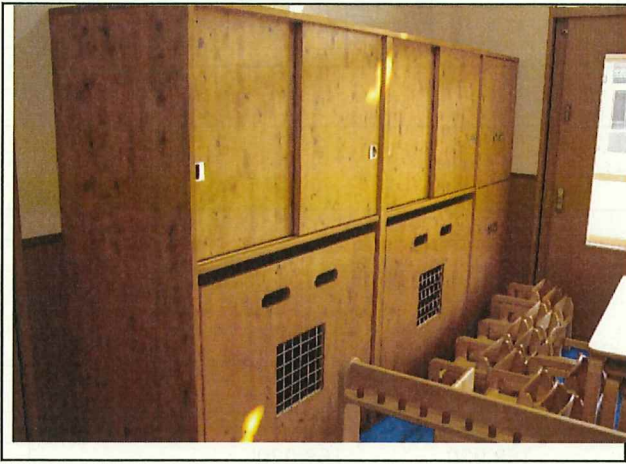


写真7

おもちゃ収納箱



写真8

移動ステージ

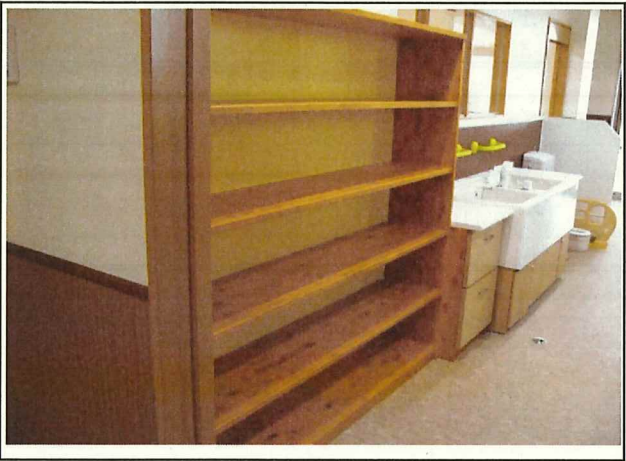


写真9

洗面所戸棚

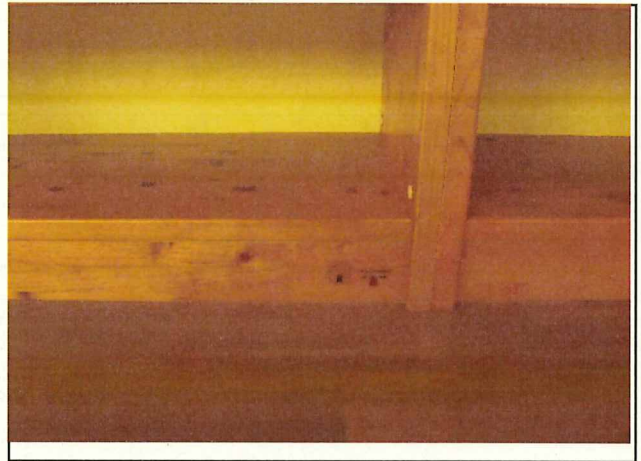


写真10

県民税表示

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	鈴鹿市
-----	-----

事業名	鈴鹿市立西条保育所新設工事
-----	---------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	台	114.00		31,647,116	
事業費				31,647,116	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	下足箱	台	1.00	168,920	168,920	
	下足箱	台	1.00	243,759	243,759	
	下足箱	台	2.00	141,123	282,246	
	下足箱	台	2.00	150,745	301,490	
	下足箱	台	4.00	215,961	863,844	
	下足箱	台	1.00	281,178	281,178	
	下足箱	台	2.00	112,257	224,514	
	下足箱	台	1.00	318,597	318,597	
	計		14.00		2,684,548	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	園児用ロッカー	台	11.00	281,178	3,092,958	
	園児用ロッカー	台	8.00	224,514	1,796,112	
	園児用ロッカー	台	2.00	702,410	1,404,820	
		計		21.00		6,293,890

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	園児用教材棚	台	4.00	150,745	602,980	
	園児用教材棚	台	1.00	224,514	224,514	
	園児用教材棚	台	7.00	103,276	722,932	
		計		12.00		1,550,426

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	教材棚	台	12.00	224,514	2,694,168	
	教材棚	台	1.00	243,759	243,759	
	教材棚	台	1.00	345,325	345,325	
		計		14.00		3,283,252

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	寝具棚	台	21.00	486,448	10,215,408	
		計		21.00		10,215,408

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	職員用戸棚	台	10.00	281,178	2,811,780	
	職員用戸棚	台	1.00	270,486	270,486	
		台			0	
		計		11.00		3,082,266

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木製備品	おもちゃ収納庫	台	7.00	187,095	1,309,665	
		計		7.00		1,309,665

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
木製品	収納戸棚	台	1.00	347,463	347,463	
	収納戸棚	台	1.00	269,417	269,417	
	計		2.00		616,880	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
木製品	入浴バス脇台	台	2.00	188,164	376,328	
	計		2.00		376,328	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
木製品	移動式書架	台	3.00	258,726	776,178	
	計		3.00		776,178	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
木製品	下膳棚	台	1.00	269,417	269,417	
	計		1.00		269,417	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
木製品	配膳棚	台	1.00	341,048	341,048	
	計		1.00		341,048	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
木製品	移動ステージ	台	4.00	136,847	547,388	
	計		4.00		547,388	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
木製品	洗面所戸棚	台	1.00	300,422	300,422	
	計		1.00		300,422	

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

鈴鹿市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	1,815	1,815
2	⑰ 基金積立 (森林整備等)	7,460	7,460
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	9,275	9,275

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

亀山市

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金基本枠事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

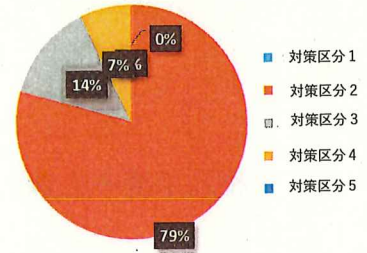
市町名	亀山市	三重県
人口(人)	49,945	1,782,190
年少人口割合(%) * 1	13.8%	12.4%
森林面積(ha)	12,034.48	372,352.55
民有林面積(ha) * 2	11,680.86	348,833.49
森林率(%)	63.0%	64.0%
都市公園面積 (㎡/人口) * 3	13.0	10.1

* 1：全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

* 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区分別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金基本枠事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費(円)	交付金充当額(円)					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	2	暮らしに身近な里山・竹林環境整備事業	947,644	940,810		940,810				940,810
2	2	集落周辺の森林整備事業(危険木の伐採)	8,778,389	8,677,000		8,677,000				8,677,000
3	3	森と木材のふれあい事業(森の講座)	661,806	661,100			661,100			661,100
4	4	森と木材のふれあい事業(木とふれあう)	855,090	855,090				855,090		855,090
5	3	森と木材のふれあい事業(森林づくり協議会)	1,010,417	1,000,000			1,000,000			1,000,000
計			12,253,346	12,134,000	0	9,617,810	1,661,100	855,090	0	12,134,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金(連携枠)事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	市民が里山・竹林の整備が実施できるように機械を導入し貸出すことで、民家周辺の生活環境の向上を図る。また、集落周辺の危険木の伐採を行い、市民が安心して暮らせるように「暮らしに身近な森林づくり」に取り組む。更に、森林環境教育・木育を実施することで、森林や木材について学ぶ機会を幅広い年代に提供し森林と木材の関係を深める。
事業実施により得られた効果	市民自らが里山・竹林の整備を行い生活環境が良くなったことと、危険木を伐採したことから市民の安心・安全に大きく寄与できた。また、協議会を通じて多くのイベントを開催し、幅広い年代が参加され多くの市民等に森林とふれあう場を提供できた。森の講座を開催したことで、参加した方が今後、地域の森林整備に携わるきっかけが作れた。更に、幼稚園・保育園で木育教室を開催し園児たちの豊かな心を育むことができた。
情報発信への取組	市ホームページにイベントや木育に関する開催結果などを掲載。また、行政情報番組で木育などを放送し多くの市民に周知できた。報道機関に取材を依頼し紙面に掲載されたことで県民に対して税事業の取組みを知らせられた。

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	亀山市
番号	事業名				
1	暮らしに身近な里山・竹林環境整備事業				
事業費	947,644 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			940,810		6,834

1. 事業の目的	<p>里山・竹林の整備を行う団体への活動をサポートすることにより、里山・竹林の再生が促進されることで民家周辺の生活環境の向上が図られる。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 市内の里山や竹林の整備を行う団体に、伐採整備の効率化を図るため、ウッドチップターの貸出しを行う。伐採した枝木や竹を粉碎することで少ないスペースで効率的に処理できる。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 亀山市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1ヶ所：亀山市下庄町神向谷 地内</p> <p>【事業量】 伐採本数：約1,500本 体積：380m³</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月17日～令和2年3月31日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 昼生地区：689世帯、1,565人</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組みであるか。	<p>【実施箇所の選定理由】 地域住民から民家周辺の暗く竹等が密集し生活環境のよくない竹林について整備の相談があったため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 竹等を伐採したことで民家周辺が明るくなり生活環境が向上した。また、伐採竹をウッドチップターで粉碎し整備箇所に防草材として活用。また、チップを活用したい地域住民に配布。</p> <p>【整備した場所、施設、備品の今後の活用】 整備した場所は、地権者による管理。備品の今後の活用は、市で管理し市民団体等に貸し出す。</p> <p>【この事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応】 利用者から短時間で効率よく処理ができたと言われている。今後も整備する箇所があれば整備したいと言っている。</p>

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	-----------------	-----	-----

番号	事業名				
1	暮らしに身近な里山・竹林環境整備事業				
事業費	947,644 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			940,810		6,834

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 ウッドチップー購入及び貸出事業

【実施方法の選定理由】
 地域による箇所選定

【契約方法と落札率または補助率等】
 指名競争入札 90.9%

【契約相手方の選定理由】
 市内に登録があり、取扱い可能な業者をすべて選定

【事業費の積算根拠】
 参考見積額の最低額を基準とし事業費を積算

5. 公益性（波及度）【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 地域住民が参加し、地域を整備しているため公益性が図られている。

【公的関与の必要性】
 地区の住民の生活環境に関わる取組であり、市民の安心・安全を確保するため公的関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 土地所有者により適正に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
 ○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ○チラシ配布（配布対象者：利用者）○ポスター掲示（掲示場所：産業振興課カウンター）
 ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
 市民及び県民

【情報発信の内容】
 市HPにウッドチップーの貸出しについて、また活用事例を掲載。広報かめやま9月1日号暮らしの情報BOX内に事業内容を掲載。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	暮らしに身近な里山・竹林環境整備事業
-----	--------------------

7. 写真

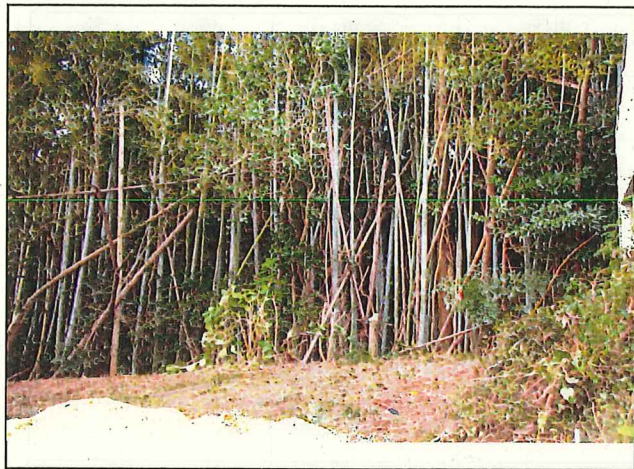


写真1
下庄町神向谷（整備前）

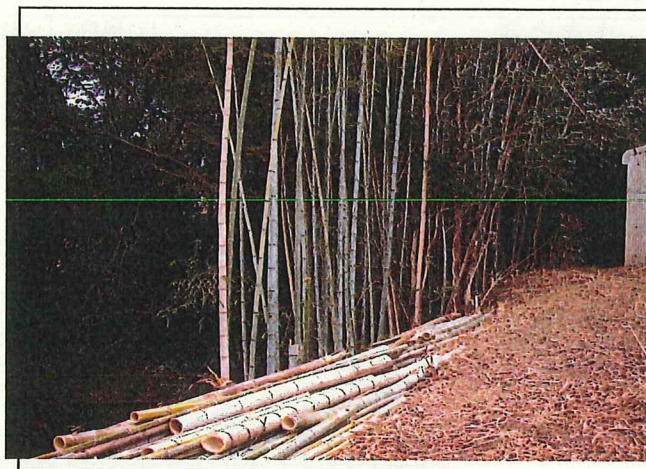


写真2
下庄町神向谷（整備後）

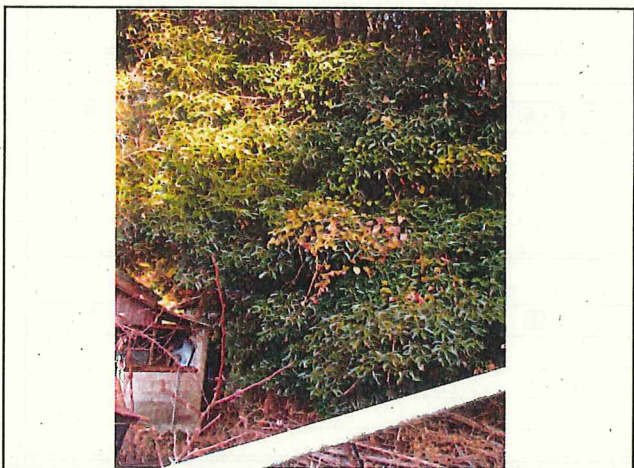


写真3
下庄町神向谷（整備前）

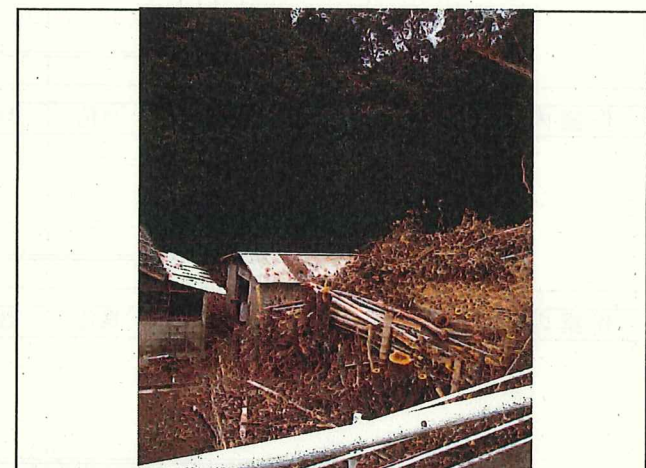


写真4
下庄町神向谷（整備後）

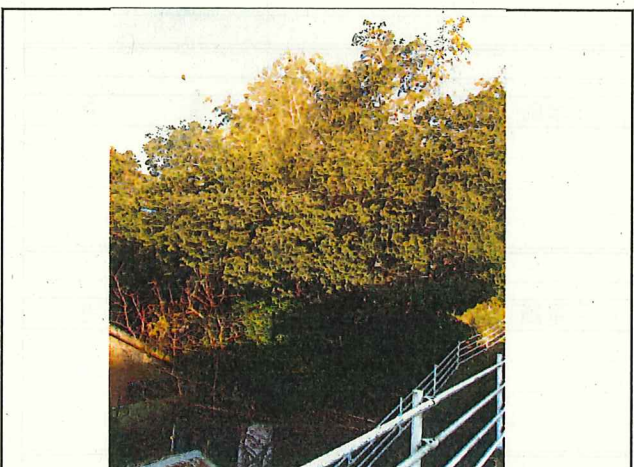


写真5
下庄町神向谷（整備前）

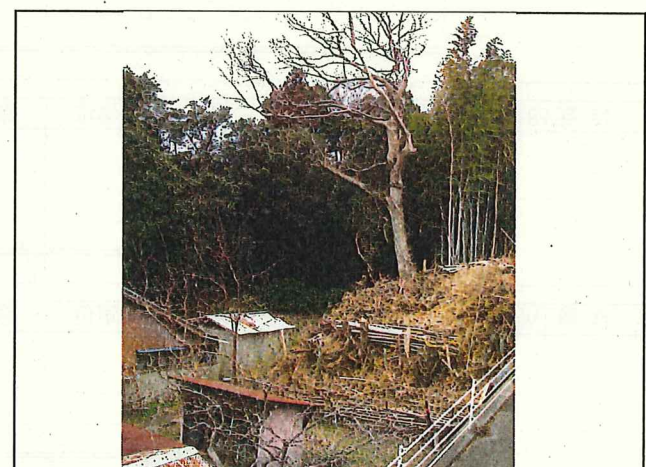


写真6
下庄町神向谷（整備後）

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	暮らしに身近な里山・竹林環境整備事業
-----	--------------------

積算資料 (実績報告参考資料)

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
ウッドチップ購入費	台	1.00		940,680	
グリスガン	箱	1.00		2,080	
フレキシホース	個	1.00		708	
モリブデングリース40	本	1.00		358	
黒シダ ミニホーキ	本	1.00		228	
ガソリン携行缶 (5L)	個	1.00		2,380	
エンジンオイル交換	ℓ	1.20		1,210	
事業費				947,644	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
エンジンオイル交換	エンジンオイル	ℓ	1.20	500	600	
	交換費用		1.00	500	500	
	消費税				110	
	計				1,210	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり		市町名	亀山市	
番号	事業名				
2	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）				
事業費	8,778,389 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,677,000		101,389

1. 事業の目的

自治会や市民から公共施設周辺の倒木の恐れのある危険木の除去や道路に覆いかぶさった枝葉が通行に支障を及ぼすため剪定などの要望が近年多くあることから、伐採や剪定により除去することで市民の安心・安全に寄与する。

2. 事業実績概要

【事業内容】
公共施設周辺の危険木や道路上に覆いかぶさった枝葉を伐採、剪定する。伐採した危険木は放置せずチップ工場へ搬出し木質バイオマスの燃料として活用する。また、伐採後は天然更新または、適宜伐採するなど多様な広葉樹林帯を形成し緑化に努める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
亀山市

【補助率等】
市直営事業のため、該当しない。

【箇所数】
16箇所（市道：平尾15号線、沓掛線、坂下線、西町落針線 緑地：泉ヶ丘緑地2箇所、関ヶ丘緑地5箇所、みどり町緑地、みずほ台緑地2箇所、野村団地緑地 公園：みずほ台第2公園）

【事業量】
0.29ha

【事業実施期間】
平成31年4月1日～令和2年3月31日

【受益者、参加者、利用者数等】
整備箇所住民：5,917人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組みであるか。

【実施箇所の選定理由】
亀山市が管理する市道及び緑地に面する危険木を除去することにより、市民の安心・安全が確保される。

【事業実施により得られた効果】
危険木を除去したことにより市民の安心・安全が確保できた。

【整備した場所、施設、備品の今後の活用】
官地については市で管理を行い、民地については所有者に適切な管理を依頼する。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
「危険木が無くなったため安心して通行できるようになった。」等の意見があった。

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金基本枠事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	-----------------	-----	-----

番号	事業名				
2	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）				
事業費	8,778,389 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			8,677,000		101,389

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市による業務委託（請負）

【実施方法の選定理由】

競争入札によりコストが削減できるため

【契約方法と落札率または補助率等】

(A～C、E地区) 指名競争入札12社・(A～C地区) 落札率93%、(E地区) 落札率96%

【契約相手方の選定理由】

市内において危険木伐採の実績がある事業者

【事業費の積算根拠】

三重県の標準積算基準による。

5. 公益性（波及度）【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

県民の危惧する箇所を整備したことで公共性が図られた。

【公的関与の必要性】

市道管理者は市であり関与が必要。民地については、実施後に土地所有者に適切な管理を依頼する。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

市道については転用の恐れはない。また、民地については適切な管理を依頼する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- HP掲載
- ・広報誌掲載
- ・新聞掲載
- ・テレビ（行政チャンネル）放映
- ・チラシ配布（配布対象者：)
- ・ポスター掲示（掲示場所：)
- ・パネル展示（展示場所：)
- ・看板設置（設置場所：)
- ・その他（方法：)（場所：)

【情報発信の対象】

市民などを対象に市HPにて実施結果の掲載や回覧板にて県民税を活用している事業であると周知した。

【情報発信の内容】

県民税を活用していることと実施結果を発信。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 亀山市

事業名 集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）

7. 写真



写真1 着工前
E地区 No. 3
市道沓掛線



写真2 完成
E地区 No. 3
市道沓掛線



写真3 着工前
E地区 No. 3
市道沓掛線

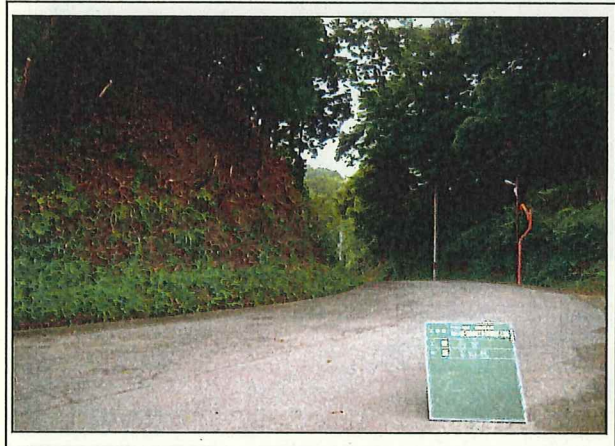


写真4 完成
E地区 No. 3
市道沓掛線



写真5 着工前
C地区 No. 14
市道西町落針線



写真6 完成
C地区 No. 14
市道西町落針線

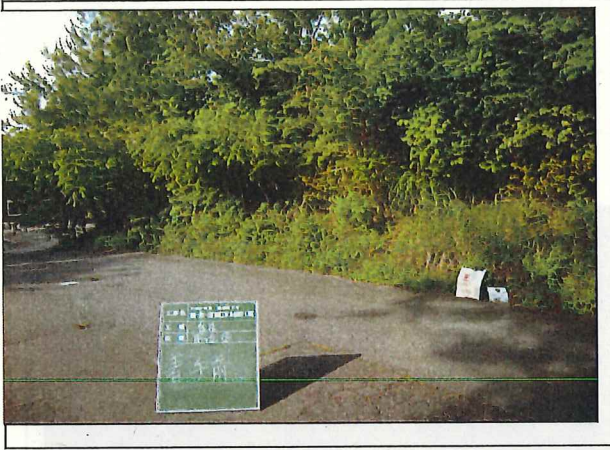


写真7 着工前
E地区 No. 9
関ヶ丘緑地



写真8 完成
E地区 No. 9
関ヶ丘緑地



写真9 着工前
E地区 No. 2
関ヶ丘緑地



写真10 完成
E地区 No. 2
関ヶ丘緑地



写真11 着工前
E地区 No. 2
関ヶ丘緑地



写真12 完成
E地区 No. 2
関ヶ丘緑地

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	亀山市
------	-----------------	-----	-----

事業名	集落周辺の森林整備事業（危険木等伐採）
-----	---------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木等伐採	-	-	-	8,778,389	
事業費				8,778,389	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
平尾15号線	危険木等伐採	時間	7.00	27,043	189,301	A地区 No.43
		時間	3.00	20,764	62,292	
	計				276,752	消費税10%

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
沓掛線	危険木等伐採(フェソソ)	本	9.00	12,692	114,228	E地区 No.3
		本	2.00	31,397	62,794	
		時間	5.00	23,380	116,900	
		時間	6.00	27,332	163,992	
計				494,547	消費税8%	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
坂下線	危険木等伐採	時間	11.00	27,388	301,268	E地区 No.39
		計			331,394	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
西町落針線	危険木等伐採(枝払い)	時間	20.00	27,043	540,860	C地区 No.14
		時間	16.00	24,066	385,056	
計				999,989	消費税8%	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
泉ヶ丘緑地	危険木等伐採	時間	24.00	27,388	657,312	E地区 No.23
		時間	8.00	21,710	173,680	
計				914,091	消費税10%	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
泉ヶ丘緑地	危険木等伐採	時間	8.00	21,710	173,680	E地区 No.30
		計			191,048	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採	時間	8.00	21,710	173,680	E地区 No.27
		計			191,048	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採(枝払い)	時間	2.00	54,108	108,216	E地区 No.9
		時間	6.00	27,388	164,328	
計				294,347	消費税8%	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採(フェンソー)	本	1.00	59,786	59,786	E地区 No.2
	危険木等伐採	時間	3.00	21,710	65,130	
	計				134,909	消費税8%

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採(フェンソー)	本	3.00	12,692	38,076	E地区 No.2
	危険木等伐採(フェンソー)	本	4.00	31,396	125,584	
	危険木等伐採(フェンソー)	本	1.00	59,786	59,786	
	危険木等伐採(枝払い)	時間	4.00	23,380	93,520	
	危険木等伐採	時間	3.00	21,710	65,130	
計				412,664	消費税8%	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
関ヶ丘緑地	危険木等伐採(フェンソー)	本	1.00	31,396	31,396	E地区 No.2
	危険木等伐採(フェンソー)	本	1.00	59,786	59,786	
	危険木等伐採(枝払い)	時間	8.00	21,710	173,680	
	危険木等伐採	時間	3.00	27,388	82,164	
計				374,788	消費税8%	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
みどり町緑地	危険木等伐採(フェンソー)	本	1.00	30,447	30,447	B地区 No.52
	危険木等伐採	時間	46.00	21,054	968,484	
計					1,098,824	消費税10%

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
みずほ台緑地	危険木等伐採	時間	40.00	15,223	608,920	B地区 No.47
	危険木等伐採(枝払い)	時間	8.00	22,997	183,976	
	危険木等伐採(フェンソー)	本	31.00	19,867	615,877	B地区 No.49
	危険木等伐採(フェンソー)	本	5.00	16,233	81,165	
計				1,638,931	消費税10%	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
野村団地緑地	危険木等伐採	時間	5.00	26,867	134,335	C地区 No.13
	計				145,081	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
みずほ台第2公園	危険木等伐採(枝払い)	時間	16.00	22,997	367,952	B地区 No.48
	危険木等伐採(フェンソー)	本	6.00	25,966	155,796	
	危険木等伐採(フェンソー)	本	1.00	19,867	19,867	
	危険木等伐採	時間	32.00	19,375	620,000	
計				1,279,976	消費税10%	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備 考
					0	
	計				0	

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	亀山市
番号	事業名				
3	森と木材のふれあい事業（森の講座）				
事業費	661,806 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			661,100		706

1. 事業の目的

森林とふれあいながら、森林や緑を大切に思い、育む人づくりのため、様々な市民に、森林や木材について学び・ふれあう機会を提供し森林と木材と市民との関係を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

- ・ 森の講座：チェーンソーメンテナンスや間伐体験など
- ・ 木育教室：材木置場や製材工場の見学及び木工工作など

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

亀山市

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

- ・ 森の講座の開催 1回（2日間コース 亀山森林公園他）
- ・ 木育教室の開催 1回

【事業量】

- ・ 森の講座の開催 1回（2日間コース 亀山森林公園他）
- ・ 木育教室の開催 1回

【事業実施期間】

平成31年4月17日から令和2年2月29日

【受益者、参加者、利用者数等】

参加者数：森の講座 4名、木育教室 16名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取り組みであるか。

【実施箇所の選定理由】

亀山森林公園利活用計画に基づき選定

【事業実施により得られた効果】

子どもから年配者まで幅広い年代層に森林の持つ機能や間伐材の有効利用と木材の良さをPRすることができた。森の講座にて、チェーンソーのメンテナンスの方法や実際に間伐を体験できたことで森林整備に携わるきっかけを作れた。

【整備した場所、施設、備品の今後の活用】

工作した作品は、参加者にて利用並びに管理

【この事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

森の講座の受講者からは、チェーンソーの整備方法、伐採技術や知識を習得でき大変良かったと言われた。また、木育教室の参加者からは、普段見れない場所（材木置場・製材工場）が見学できて良かったと言われた。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

番号	事業名			
3	森と木材のふれあい事業（森の講座）			
事業費	661,806 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			661,100	
				その他
				706

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 森の講座：委託 木育教室：直営（市）

【実施方法の選定理由】
 森林の整備に実績のある業者を選定し委託。

【契約方法と落札率または補助率等】
 契約方法：随意契約（見積り）落札率：100%

【契約相手方の選定理由】
 森林の整備に実績のある業者と随意契約。随意契約にあたっては、複数の見積りを徴収し予算の範囲内で実施。

【事業費の積算根拠】
 見積りを徴収したところ、予定価格内であった。

5. 公益性（波及度）【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 参加者数：森の講座 4名、木育教室 16名

【公的関与の必要性】
 広く市民に森林環境教育・木育に関する取組を推進するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【媒体（該当するものに○）】
HP掲載 ・ 広報誌掲載 新聞掲載 テレビ（行政チャンネル）放映
チラシ配布（配布対象者：参加者）ポスター掲示（掲示場所：産業振興課カウンター）
 ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
 市民及び県民

【情報発信の内容】
 県民税のPRや事業の成果等を市HPに森の講座及び木育教室開催報告を掲載。広報かめやま9月1日、2月1日号の暮らしの情報BOX内に募集を掲載。工作キットには、県民税PR用ロゴを焼印。伊勢新聞（令和2年3月1日）掲載。行政チャンネルマイタウンかめやま3月13日から1週間放送。広報かめやま4月1日号トピックスに木育教室掲載。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）
-----	-------------------

7. 写真

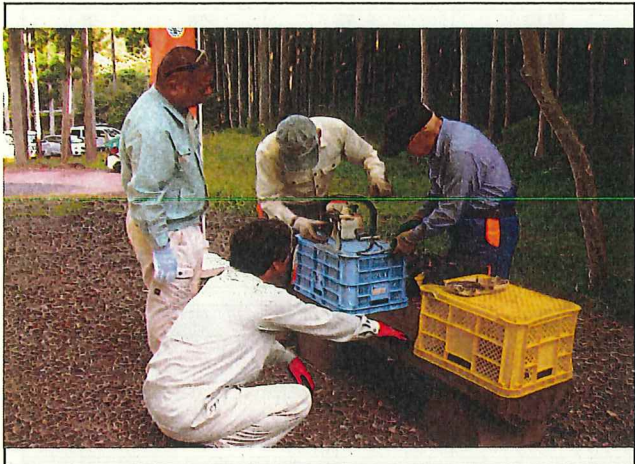


写真1
森の講座（分解整備）

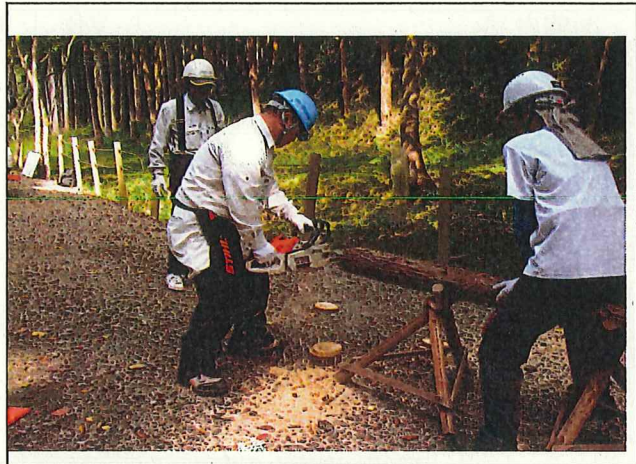


写真2
森の講座（整備後試し切り）



写真3
森の講座（伐倒）



写真4
木育教室（材木置場見学）

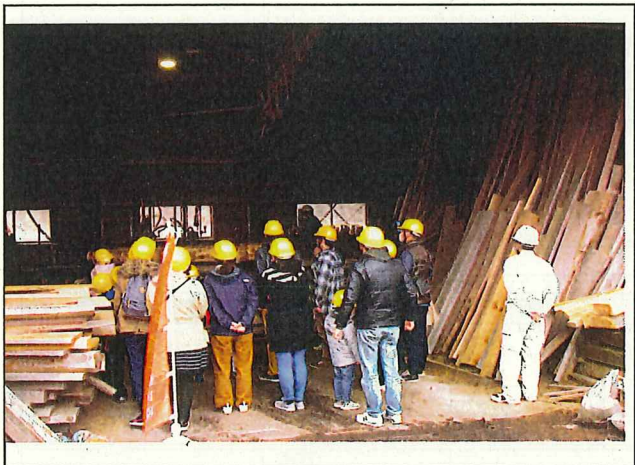


写真5
木育教室（製材工場見学）



写真6
木育教室（木工工作体験）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

事業名	森と木材のふれあい事業（森の講座）
-----	-------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
受講者指導に係る人件費	人	14.00	12,000	168,000	
受講者に係る経費	一式			65,000	
事前準備に係る費用	人	14.00	12,000	168,000	
事務局経費	一式			50,000	
消費税				45,100	
木育教室用（木工工作キット）	個	30.00	5,500	165,000	
木育教室用消耗品（木工ボンド・紙皿）	一式			706	
事業費				661,806	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
受講者指導 （チェーンソーメンテナ ンス・間伐等）に係る人件費	1日目	人	7.00	12,000	84,000	
	2日目	人	7.00	12,000	84,000	
	計		14.00	12,000	168,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
受講者に係る費用	受講者用テキスト	冊	10.00	1,000	10,000	
	燃料・オイル等消耗品	一式			4,000	
	資材消耗費	一式			50,000	
	計				65,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
事前準備に係る費用	間伐地事前準備費用	人	14.00	12,000	168,000	7人×2日
	計				168,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
事務局経費	間伐地借用費等	一式			50,000	
	計				50,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
消費税	消費税				45,100	
	計				45,100	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木育教室用（木工工作キット）	木工工作キット	個	30.00	5,000	150,000	
	消費税				15,000	
	計				165,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
木育教室用消耗品	木工用ボンド	個	1.00	558	558	
	紙皿	袋	1.00	148	148	
	計				706	

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
------	-------------------	-----	-----

番号	事業名				
4	森と木材のふれあい事業 (木とふれあう)				
事業費	855,090 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			855,090		

1. 事業の目的	園児たちが、日頃から木材や木製品をふれられる環境をつくり、木への親しみや木の文化への理解を深めて、木材の良さや利用の意義を学ぶ。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 各園に必要な園児たちが遊べる木製玩具などの導入や遊具の組み立てなどを行う。 金づちなどの道具を使う体験を行う。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】 亀山市</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 2 園：亀山市立第一愛護園 (令和元年10月15日開催)、亀山市立亀山幼稚園 (令和2年1月27日開催)</p> <p>【事業量】 ・亀山市立第一愛護園：木工工作キット (テーブル3台、丸イス3台、四角イス3台、2人用ベンチ3台、衝立7台、箱イス25個) ・亀山市立亀山幼稚園：木工工作キット (入卒園花台6個、絵本棚1台、ままごとキッチン1台、ままごと冷蔵庫2台)</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月17日～令和2年1月27日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 参加者：43名 (園児)</p> <p>【実施箇所の選定理由】 森と木材のふれあい事業 (木とふれあう) の趣旨等について園長会で説明。園長会にて開催スケジュール (順番) を決定。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 園児たちが製品をつくり、自らふれる環境をつくったことで、木への親しみが深まり、木材の良さや利用の意義が学べた。</p> <p>【整備した場所、施設、備品の今後の活用】 各園が日常管理を行う。</p> <p>【この事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応】 園から工作した作品にふれることで木に親しむきっかけとなったとの声をいただいた。</p>

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	亀山市
------	-------------------	-----	-----

番号	事業名				
4	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）				
事業費	855,090 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			855,090		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
見積合わせにより製作者を決定。また、杉材は亀山市産材、桧材は県産材を使用するよう指定。

【実施方法の選定理由】
市内に登録があり、杉材は亀山市産材、桧材は県産材を使用して工作キット化できる業者をすべて選定。

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約：2社による見積合わせ。落札率：94%

【契約相手方の選定理由】
複数社の見積りを徴収し予算の範囲内で実施。

【事業費の積算根拠】
見積りによる積算。

5. 公益性（波及度）【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
工作した作品を毎年入園してくる園児たちが活用する。

【公的関与の必要性】
広く市民に森林環境教育・木育に関する取組を推進するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
工作作品のため、転用が想定されないの当該しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
○HP掲載 ○広報誌掲載 ・新聞掲載 ○テレビ（マイタウンかめやま）放映
○チラシ配布（配布対象者：5歳児・4歳児の保護者） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
市民及び県民

【情報発信の内容】
県民税のPRや事業の成果等を市HPに各園での取組み内容を掲載。広報かめやま11月1日号トピックス(10月15日開催)に掲載。行政情報チャンネル（マイタウンかめやま）にて1月27日開催の様子を2月7日～13日に放送。また、5歳児（43名）と4歳児（48名）の保護者にパンフレットや啓発物品を配布。その他、県民税PR用ロゴを工作作品すべてに焼印。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項
なし

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 亀山市

事業名 森と木材のふれあい事業（木とふれあう）

7. 写真

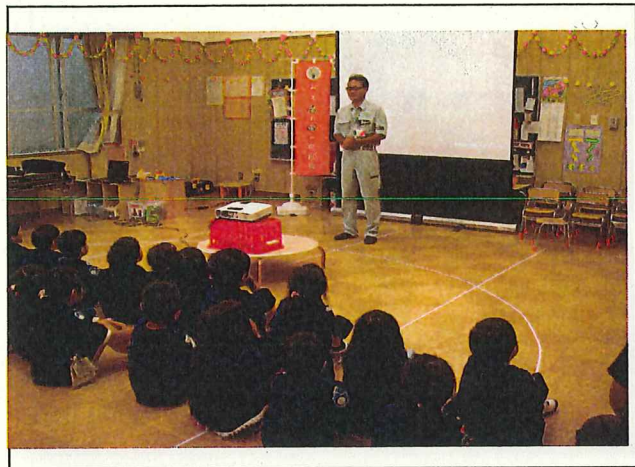


写真1
第一愛護園（令和元年10月15日開催）

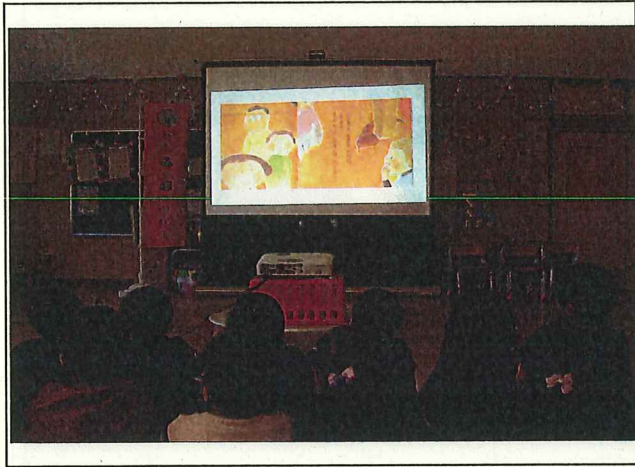


写真2
第一愛護園（令和元年10月15日開催）



写真3
第一愛護園（令和元年10月15日開催）



写真4
第一愛護園（令和元年10月15日開催）



写真5
第一愛護園（令和元年10月15日開催）



写真6
第一愛護園（令和元年10月15日開催）

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 亀山市

事業名 森と木材のふれあい事業（木とふれあう）

7. 写真



写真1
亀山幼稚園（令和2年1月27日開催）



写真2
亀山幼稚園（令和2年1月27日開催）



写真3
亀山幼稚園（令和2年1月27日開催）



写真4
亀山幼稚園（令和2年1月27日開催）



写真5
亀山幼稚園（令和2年1月27日開催）



写真6
亀山幼稚園（令和2年1月27日開催）

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	森と木材のふれあい事業（木とふれあう）
-----	---------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
第一愛護園（工作キット）				442,590	
亀山幼稚園（工作キット）				412,500	
事業費				855,090	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
第一愛護園工作 キット	テーブル	台	3.00	8,000	24,000	
	丸イス	台	3.00	3,500	10,500	
	四角イス	台	3.00	3,500	10,500	
	2人用ベンチ	台	3.00	4,500	13,500	
	消費税	%	1.08		4,680	
	杉ついたて	台	7.00	38,880	272,160	税込
	箱イス	個	25.00	3,900	97,500	
	消費税	%	1.10		9,750	
	計				442,590	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
亀山幼稚園工作 キット	ままごとキッチン	点	1.00	84,000	84,000	
	ままごと冷蔵庫	点	2.00	67,500	135,000	
	絵本棚	点	1.00	48,000	48,000	
	入卒園花台	点	6.00	18,000	108,000	
	消費税	%	1.10		37,500	
	計				412,500	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	亀山市
番号	事業名				
5	森と木材のふれあい事業 (森林づくり協議会)				
事業費	1,010,417 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		10,417

1. 事業の目的	<p>地域の宝である「地域資源 (森林等)」をみんなで守るため、多様な主体が森林とふれあう場を創出し次世代につなげる。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 地域や市民団体が取り組むイベントや講座、行政が取り組む森林や農地、自然の保全活動等に参加・協力するとともに、協議会独自にイベントや講座などを開催する。</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】 鈴鹿川等源流の森林づくり協議会</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 イベント3回開催</p> <p>【事業量】 第4回サマーフォレストinやまびこ (8月11日開催)、東海自然歩道清掃活動 (10月27日開催)、リースづくりと棚田米でおにぎりを作ろう (12月14日開催)</p> <p>【事業実施期間】 平成31年4月17日～令和元年12月14日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 イベント参加者 第4回サマーフォレストinやまびこ 約200人、東海自然歩道清掃活動 50人、リースづくりと棚田米でおにぎりを作ろう 50人</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取り組みであるか。	<p>【実施箇所の選定理由】 鈴鹿川等源流の森林づくり協議会役員会にて協議し実施箇所を決定した。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 産・学・官・民にて構成する協議会がイベントを開催したことで、多種多様な方々が参加した。参加者が森林の大切さなどについて学んだことで、参加者以外の方々に伝えることができた。</p> <p>【整備した場所、施設、備品の今後の活用】 今後も協議会が継続して活動していく。</p> <p>【この事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 参加者から森林に対する関心が深まり、森林の大切さが分かったとの声を多数いただいた。</p>

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

番号	事業名				
5	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）				
事業費	1,010,417 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,000,000		10,417

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

森林づくり協議会の事業費に負担金として支出。

【実施方法の選定理由】

森林づくり協議会に参画している、坂下・加太・野登（まちづくり協議会）の各地域で開催することを協議会総会にて決定している。

【契約方法と落札率または補助率等】

負担金のため該当しない。

【契約相手方の選定理由】

鈴鹿川等源流の森林づくり構想を実現するための事業を実施する協議会を選定。

【事業費の積算根拠】

協議会総会議案書により積算。

5. 公益性（波及度）【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

幅広い年代が参加できる内容を実施した。

【公的関与の必要性】

広く市民に森林環境教育・木育に関する取組を推進するため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設や東海自然歩道のため、転用が想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- HP掲載 ○広報誌掲載 ○新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
- チラシ配布（配布対象者：100人） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
- ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
- ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】

全ての市民及び県民

【情報発信の内容】

亀山市HPにイベント開催状況を掲載。広報かめやま9月1日号に第4回サマーフォレストinやまびこを掲載。伊勢新聞8月12日、10月28日に記事掲載。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	亀山市
-----	-----

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）
-----	-----------------------

7. 写真



写真1
サマーフォレストinやまびこ（8月11日開催）



写真2
サマーフォレストinやまびこ（8月11日開催）



写真3
東海自然歩道清掃（10月27日開催）



写真4
東海自然歩道清掃（10月27日開催）



写真5
リース作り（12月14日開催）



写真6
リース作り（12月14日開催）

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	亀山市
------	-------------	-----	-----

事業名	森と木材のふれあい事業（森林づくり協議会）
-----	-----------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
第4回Sマーフォレストinやまびこ				345,302	
東海自然歩道清掃活動				373,887	
リース作りと棚田米でおにぎりを作ろう！				291,228	
事業費				1,010,417	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
第4回サマーフォレストinやまびこ 実施に関する活動 経費	木の団扇	枚	50.00	400	20,000	
	杉オリジナルコースター	枚	70.00	200	15,120	
	杉板	枚	100.00	150	15,000	
	竹ひきのこぎり	個	1.00	1,080	1,080	
	ゼットソー替刃	袋	1.00	2,280	2,280	
	腐葉土14ℓ	袋	15.00	198	2,970	
	水切りネット（35枚入り）	袋	4.00	98	392	
	手提げ袋（250枚）	袋	1.00	3,200	3,456	
	ポリ袋	袋	1.00	323	348	
	レクリエーション保険	日	1.00	10,000	10,000	
	森林の風イベント業務委託	一式			274,656	274,656
計				345,302		

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
東海自然歩道清掃 活動に関する活動 経費	ヘルメット大50小50	一式			280,000	
	竹ぼうき	16	本	248	4,364	
	炭（バームクーヘン焼き用）	5	箱	1,280	6,400	
	軍手	一式		3,108	3,108	
	コンロレンタル代	一式		44,000	48,400	
	資材	一式		10,133	10,133	着火剤等
	講師御礼	一式		10,000	10,000	正調鈴鹿馬子唄保存会
	炭（バームクーヘン焼き用）	箱	2.00	898	1,796	追加購入
	ぼうき、ラベルシート	一式		1,166	1,166	
	啓発物品配布用袋	P	1.00	3,200	3,520	
	レクリエーション保険	日	1.00	5,000	5,000	
計				373,887		

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
リースづくりと棚 田米でおにぎり を作ろう！に関する 活動経費	ラッカー Sprey缶	本	8.00	558	4,464	
	グルーガン	個	20.00	918	18,360	
	グルーガン用スイッチ付タッパ	個	5.00	1,180	5,900	
	会場使用料	一式		6,600	6,600	
	講師御礼	一式		10,000	10,000	
	リース材料費等	一式		60,640	66,704	
	木製団扇	枚	100.00	400	40,000	
	木製ストラップ（ボールチェーン付）	個	240.00	330	79,200	
	杉コースター	枚	100.00	200	22,000	
	杉板	枚	200.00	150	33,000	
	レクリエーション保険	日	1.00	5,000	5,000	
計				291,228		

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

亀山市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	① 意向調査の準備作業	3,596	3,596
2	② 意向調査	2,794	2,794
3	② 意向調査	2,970	2,970
4	② 意向調査	2,277	2,277
5	① 意向調査の準備作業	862	862
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	12,499	12,499

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

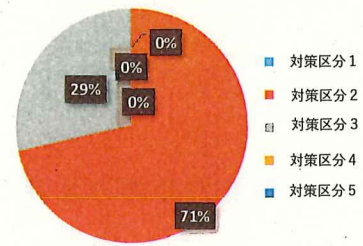
いなべ市

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	いなべ市	三重県
人口（人）	45,345	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	12.3%	12.4%
森林面積(ha)	12,808.21	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	11,738.79	348,833.49
森林率(%)	58.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	8.1	10.1

対策区別別事業費割合



- * 1：全人口に占める15歳未満の人の割合
- * 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）
- * 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	3	中学校卒業記念品配布事業	871,750	871,750			871,750			871,750
2	2	危険木の除去事業	2,183,930	2,183,930		2,183,930				2,183,930
3		みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	8,796,320	0						8,796,320
4										
5										
6										
7										0
計			11,852,000	3,055,680	0	2,183,930	871,750	0	0	11,852,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
森林再生力強化対策事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	木のぬくもりに触れる機会を作り、身近な森林について目を向けてもらう。 豊富な森林資源を活用しつつ、手入れの遅れた森林の整備をすすめ、自然と調和した環境づくりを目指す。
事業実施により得られた効果	住民自らが危険木除去の要望をすることで、身近な危険木の認識とその除去についての意識向上につながった。 また、間伐材を活用した箸の配布を行うことで、森林資源の活用と日常的に木に触れる機会を作り出すことが出来た。
情報発信への取組	市HPにおいてみえ森と緑の県民税の概要を伝えるとともに、本事業の事業効果を写真とともにわかりやすくPRしている。また、中学校卒業記念品配布事業では、生徒にはメッセージカードを配布し、県産材を利用する大切さを伝えている。

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
------	-------------	-----	------

番号	事業名				
1	中学校卒業記念品配布事業				
事業費	871,750 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			871,750		

1. 事業の目的

県民税の基本方針である『県民全体で森林を支える社会づくり』のなかの『森を育む人づくり』の一環として、いなべ市産材を利用して木製箸の製作配布を行う。
 中学校の卒業記念として、箸という肌で触れるもので『木の良さ』を子どもたちに知ってもらう機会とする。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 原木調達・加工作業は、【認定林業事業体】に委託する。
 箸製作は【市民団体】に委託する。
 箸入れ袋製作・製品梱包作業は、【障害者支援施設】に委託する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
 いなべ市

【補助率等】
 補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】
 いなべ市内各中学校（北勢中学校、員弁中学校、大安中学校、藤原中学校：計4校）の卒業生を対象に配布。

【事業量】
 中学校卒業生を配布対象にした箸製作。（箸500膳・箸袋500袋を製作。）

【事業実施期間】
 令和元年6月26日～令和2年2月28日

【受益者、参加者、利用者数等】
 受益者 中学校卒業生約500名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
 中学校を卒業し、昼食等弁当を持参する機会も増えると思われる。その中で使用が見込める箸を通じて、木の良さと木材（いなべ市産材）の利用意識を実感してもらう。

【事業実施により得られた効果】
 毎日使用する箸から、木のぬくもり等を感じてもらうことが出来た。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
 施設整備等でなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
 卒業記念品として定着してきており、期待されている。

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	いなべ市
------	-------------	-----	------

番号	事業名			
1	中学校卒業記念品配布事業			
事業費	871,750 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			871,750	
			その他	

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
委託

【実施方法の選定理由】
原木調達・素材加工については市内唯一の林業事業体に、箸製作についてはいなべ市内の地域資源を活用した取り組みを行っている市民団体へ、箸袋製作については社会的貢献度を踏まえて障がい者施設に委託した。

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約

【契約相手方の選定理由】
上記の選定理由のとおり

【事業費の積算根拠】
原木調達・加工費 297,000円（委託料）委託先：認定林業事業体
箸製作費 275,000円（委託料）委託先：市民団体
箸袋制作費 299,750円（委託料）委託先：障害者支援施設
事業費計 871,750円

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
毎年中学校卒業生を対象としており、受益対象は年々増加している。

【公的関与の必要性】
卒業記念品を配布することにより、生徒が三重の木に触れる機会をつくり、森林の大切さを伝える森林環境教育活動であり、公的関与は必要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
HP閲覧可能者

【情報発信の内容】
市HPにおいてみえ森と緑の県民税の概要を伝えるとともに、本事業の実施内容を写真とともにPRしている。
また、生徒にはメッセージカードを配布し、県産材を利用する大切さを伝えている。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 いなべ市

事業名 中学校卒業記念品配布事業

7. 写真



写真1
箸原木調達



写真2
箸

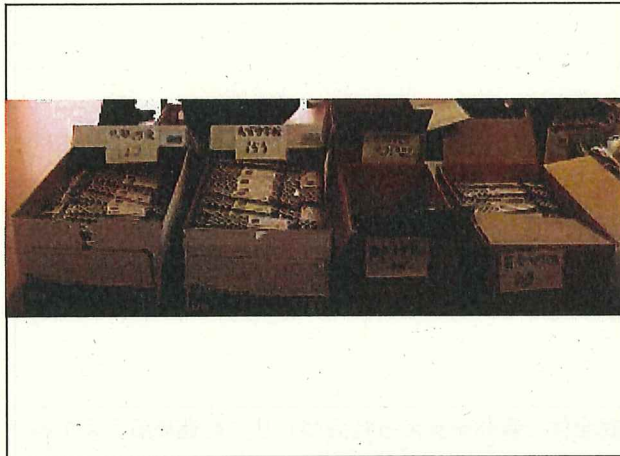


写真3
箸袋



写真4
完成品



写真5

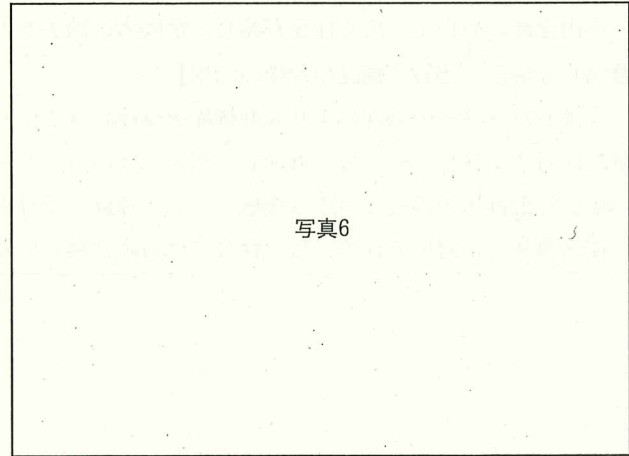


写真6

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2.暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
------	----------------	-----	------

番号	事業名			
2	危険木の除去事業			
事業費	2,183,930 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			2,183,930	
			その他	

1. 事業の目的	<p>意欲ある自治会には危険木除去のための補助メニューを用意し、自治会単位で取り組むことにより、通学路や人家裏等きめ細かな森林整備が行える。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 意欲ある自治会に対し、危険木の除去についての補助メニューを用意する。特殊機材については市内業者から借り入れてもらい、補助の対象とする。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 いなべ市</p> <p>【補助率等】 100%</p> <p>【箇所数】 いなべ市内34箇所</p> <p>【事業量】 2,103本</p> <p>【事業実施期間】 2019.7.12～2020.3.30</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 市内34箇所の地区住民</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 自治会等の地元住民の要望による。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 市内全域において、広く住民が感じる危険木の除去を行うことが出来た。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 今後も自治会等の管理により森林機能を継続させていく。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 幅広く危険木の除去に対する機械リースの補助が受けられるため、利用しやすく継続して事業を行いやすい。従来事業では対応できず、自己資金では対応が難しいため継続してもらいたい。</p>

令和 元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	いなべ市
------	-----------------	-----	------

番号	事業名				
2	危険木の除去事業				
事業費	2,183,930 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,183,930		

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 補助

【実施方法の選定理由】
 市内全域について、よりきめ細かな危険木の除去をするため。

【契約方法と落札率または補助率等】
 100%

【契約相手方の選定理由】
 要望による。

【事業費の積算根拠】
 補助金 34件 （計 2,183,930円）

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 いなべ市全住民約45,000人

【公的関与の必要性】
 道路支障木の他、住民生活の支障となる木竹の伐採における費用の負担が難しく、放置されている現状の中、幅広く危険木を除去し、周辺住民の生活の安全を確保するものであり、公的関与の必要性がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 なし。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
 ○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
 ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
 HP閲覧可能者

【情報発信の内容】
 市HPにおいてみえ森と緑の県民税の概要を伝えるとともに、危険木の伐採前、伐採後の写真を掲載するなど事業効果を分かりやすく伝えるよう工夫している。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 いなべ市

事業名 危険木の除去事業

7. 写真

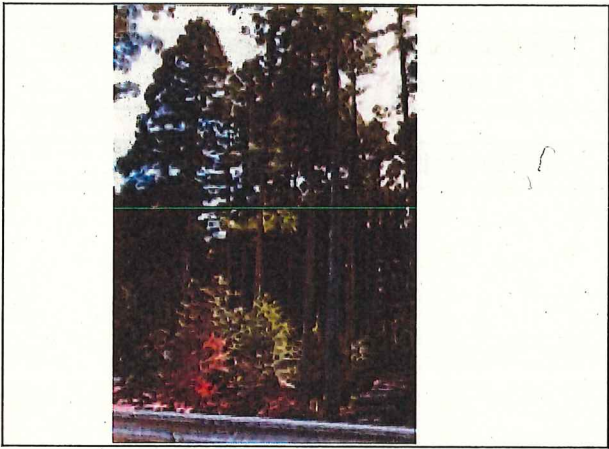


写真1
実施前



写真2
実施中

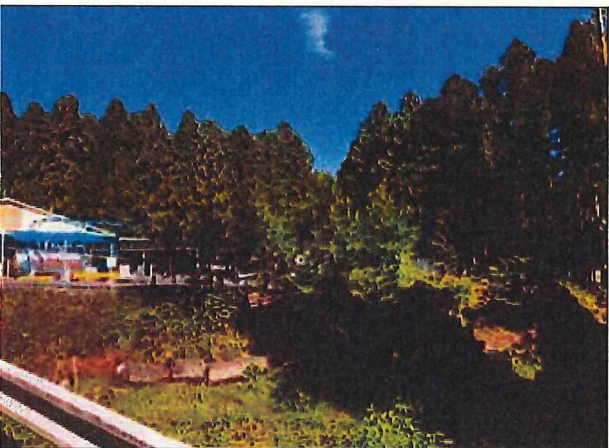


写真3
実施後

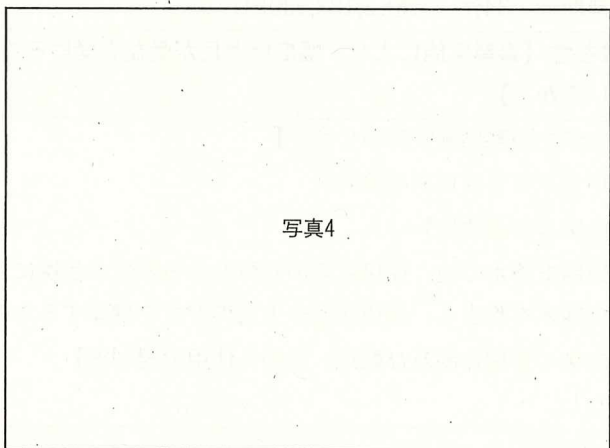


写真4

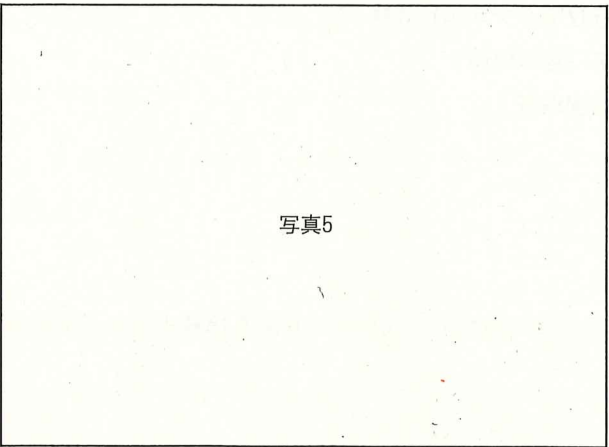


写真5

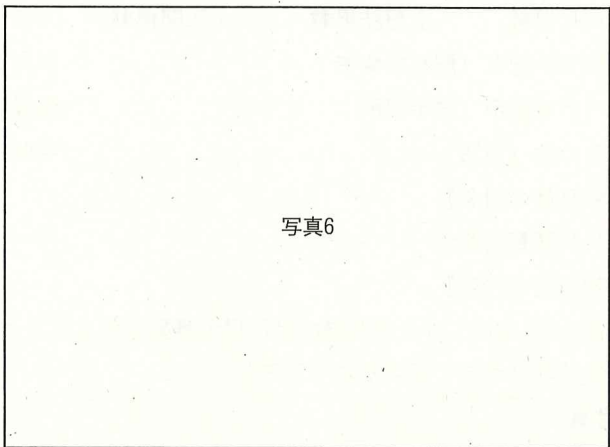


写真6

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

いなべ

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑩ 基金積立（森林整備等）	7,318	7,318
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	7,318	7,318

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

木曾岬町

木曾岬町

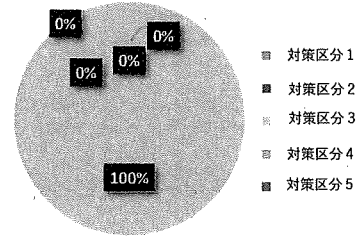
第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	木曾岬町	三重県
人口(人)	6,151	1,782,190
年少人口割合(%) * 1	9.7%	12.4%
森林面積(ha)	0.00	372,352.55
民有林面積(ha) * 2	0.00	348,833.49
森林率(%)	0.0%	64.0%
都市公園面積(m ² /人口) * 3	11.0	10.1

対策区分別事業費割合



* 1：全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

* 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費(円)	交付金充当額(円)					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	3	森林環境教育事業	912,148	912,148			912,148			912,148
2		みえ森と緑の県民税基金積立	4,493,852	0						4,493,852
3										0
4										0
5										0
6										0
7										0
計			5,406,000	912,148	0	0	912,148	0	0	5,406,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	当町は1級河川「木曾川」の最下流部に位置し、この河川から水田をはじめとする農作物の栽培に際し大きな恩恵を受けている。しかしながら、上流部どのつながりや水源である山間地域の特徴や生活について知る機会を持っていないのが現状である。このことから、木曾川の源となる山間地域を訪れ、森林とのふれあいにより、河川の恵みは森林から授かっていることを認知する機会を作り、森林環境教育を実施。
事業実施により得られた効果	当町は1級河川「木曾川」の最下流部に位置し、本町中学生がこの河川の源流となる長野県木曾郡木祖村を訪れ、森や緑の恵みを実際に体験することで、改めて山間地域と本町とのつながりを認識できると共に、森林からの恵みを体感することにより、森林の必要性や大切さを実感させることができた。 また、現地の中学生と互いの町を紹介し合うことで、山間地域の特徴や生活の工夫などの理解も深まった。
情報発信への取組	「学校だより」にて保護者へ発信すると共に、学校昇降口エントランスに木祖中との交流学習のまとめを掲示し、来校者へ発信。

令和元 年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	木曾岬町
------	-------------	-----	------

番号	事業名			
1	森林環境教育事業			
事業費	912,148 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			912,148	
			その他	

1. 事業の目的	
<p>当町は、1級河川「木曾川」の最下流部に位置し、この河川から水田をはじめとする農作物の栽培に際し大きな恩恵を受けている。しかしながら、上流部とのつながりや水源である山間地域の特徴や生活について知る機会を持っていないのが現状である。このことから、木曾川の源となる山間地域を訪れ、森林とのふれあいにより、河川の恵みは森林から授かっていることを認知する機会を作り、森林環境教育を実施した。</p>	
2. 事業実績概要	
<p>【事業内容】</p> <p>○木曾川の源流となる長野県木曾郡木祖村を訪れ、森や緑に触れる体験学習等を行った。</p> <p>○木祖中学校の生徒と互いの町を紹介し合うなどの交流学習を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】</p> <p>木曾岬町、木曾岬町教育委員会</p> <p>【補助率等】</p> <p>補助事業ではなく該当しない。</p> <p>【箇所数】</p> <p>1箇所 木曾岬中学校</p> <p>【事業量】</p> <p>体験学習（一泊） 【天然林散策、ダム見学、現地中学生との交流 等】</p> <p>【事業実施期間】</p> <p>令和元年6月6日～7日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】</p> <p>中学1年生の生徒数（51人）とした。</p>	
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	
<p>【実施箇所の選定理由】</p> <p>当町は、1級河川「木曾川」の最下流部に位置し、本町中学生がこの河川の源流となる長野県木曾郡木祖村を訪れ、森や緑の恵みを実際に体験することで、改めて山間地域と本町とのつながりを認識できた。</p> <p>【事業実施により得られた効果】</p> <p>森林からの恵みを体感することにより、森林の必要性や大切さを実感させることができた。また、現地の中学生と互いの町を紹介し合うことで、山間地域の特徴や生活の工夫などの理解も深まった。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】</p> <p>生徒の体験学習のため、当項目には該当しない。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】</p> <p>参加した生徒からは「交流学習が勉強になった。」等が、先生からは「普段体験できないような体験学習を行うことで、生徒にも喜んでもらった。」等の感想が得られた。</p>	

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 木曾岬町

事業名 森林環境教育事業

7. 写真



写真1 水木沢天然林トレッキング



写真2 味噌川ダム管理所による水源説明



写真3 木祖中との交流学习



写真4 こだまの森入村



写真5 自然体験学習（飯盒炊さん）

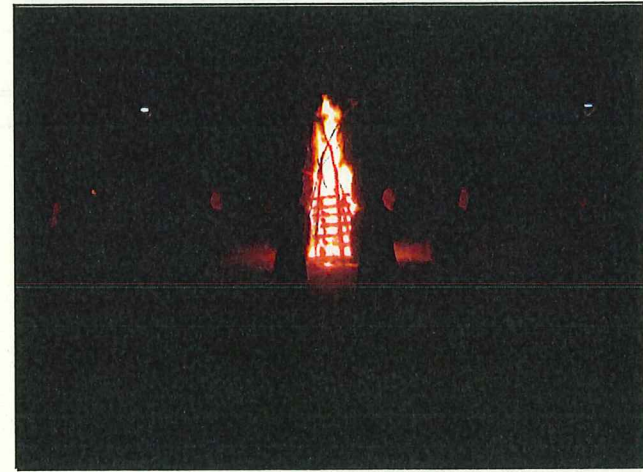


写真6 キャンプファイヤー

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	木曾岬町
-----	------

事業名	森林環境教育事業
-----	----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
バス等の諸費用	式	1.00	491,300	491,300	
野外体験活動に係る諸経費	式	1.00	24,948	24,948	
宿泊に係る諸経費	式	1.00	395,900	395,900	
事業費				912,148	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
バス等の諸費用	有料道路通行料（湾岸弥富－伊那）	台	2.00	5,250	10,500	
	三重交通貸切バス	台	2.00	205,200	410,400	
	有料道路通行料	台	2.00	25,480	50,960	
	乗務員経費	人	2.00	9,720	19,440	
	計				491,300	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
野外体験活動に係る諸経費	水木沢天然林ガイド料等	式	1.00	10,000	10,000	
	キャンプファイヤー諸経費	式	1.00	8,800	8,800	
	傷害・旅行傷害保険	式	1.00	6,148	6,148	
	計				24,948	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
宿泊に係る諸経費	宿泊に係る諸経費（生徒分）	式	1.00	334,100	334,100	
	宿泊に係る諸経費（引率分）	式	1.00	61,800	61,800	
	計				395,900	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

木曾岬町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑩ 基金積立（木材利用等）	240	240
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	240	240

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

東員町

東員町

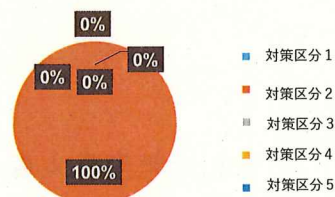
第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	東員町	三重県
人口（人）	25,538	1,782,190
年少人口割合（％）＊1	13.2%	12.4%
森林面積(ha)	177.13	372,352.55
民有林面積(ha)＊2	177.13	348,833.49
森林率(%)	8.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）＊3	15.7	10.1

対策区別事業費割合



＊1：全人口に占める15歳未満の人の割合

＊2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

＊3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	2	みえ森と緑の県民税市町交付金事業危険木伐倒等業務	1,698,000	1,698,000		1,698,000				1,698,000
2		みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	5,000,000	0						5,000,000
計			6,698,000	1,698,000	0	1,698,000	0	0	0	6,698,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	平成26年度に実施した危険木の調査に基づき、人家裏や通学路沿いなど、これまで整備が進みにくく荒廃が進んでいる緑地帯や森林地帯を対象として、倒木になる恐れのある危険木の除去・間伐を計画的に行い安心・安全なまちづくりを図る。
事業実施により得られた効果	森林環境の保全及び地域住民の意識の醸成が図られた。現地（民家裏等）での調査や作業の際、県民税や事業について詳細に説明する機会が多く、好意的な反応を示していただき、県民税への理解及び森林への関心を高めることができた。
情報発信への取組	工事看板に「みえ森と緑の県民税市町交付金事業」にて実施していることを表記。また、自治会への施工周知回覧に事業の概要についても掲載。 その他、町のHP・広報誌に事業の成果を掲載し、県民税を活用し事業を実施した旨を周知。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	東員町
------	-----------------	-----	-----

番号	事業名			
1	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）			
事業費	1,723,700 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			1,698,000	0
			その他	25,700

1. 事業の目的	暮らしに身近な森林を整備することにより、生活環境の保全や向上を図る。
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 人家裏や通学路沿いなど、これまで整備が進みにくく荒廃が進んでいる緑地帯や森林地帯を対象として、倒木になる恐れのある危険木の除去・間伐を行った。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 東員町</p> <p>【補助率等】 該当なし</p> <p>【箇所数】 東員町笹尾西一丁目地内</p> <p>【事業量】 危険木伐倒 37本</p> <p>【事業実施期間】 令和2年2月5日～令和2年3月27日</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 周辺住民（約400戸 約1,000人）</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 住宅地周辺において平成26年度に実施した危険木の調査に基づき計画的に伐採等を行っている。また、地域や住民要望等により現地調査の結果、危険と判定した危険木も対象としている。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 森林環境の保全及び地域住民の意識の醸成が図られた。現地（民家裏等）での調査や作業の際、県民税や事業について詳細に説明する機会が多く、好意的な反応を示していただき、県民税への理解及び森林への関心を高めることができた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 再び荒廃が進まないよう町において適切な管理を行う。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 地域住民としては、危険木が撤去された状況に大変喜んでいただき、感謝の声を直接いただくこともあります。また、この県民税を活用した事業について周辺住民に十分認知されたことから、要望をいただく機会も増加しています。</p>

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 東員町

事業名 みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）

7. 写真

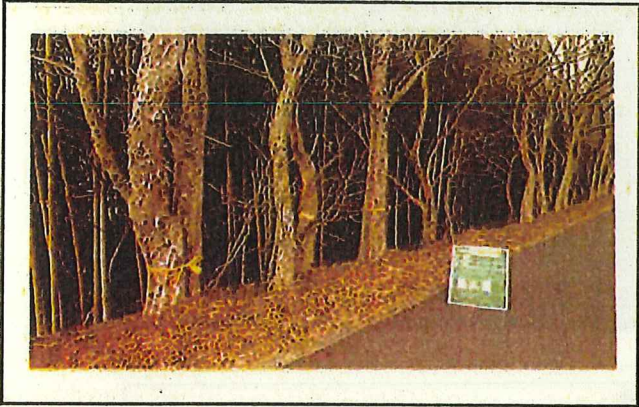


写真1
施工前

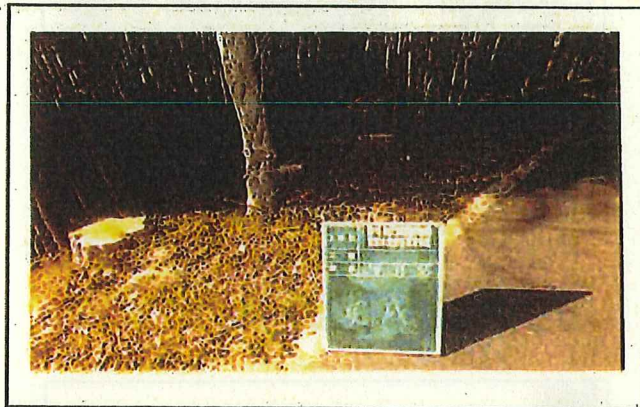


写真2
施行後

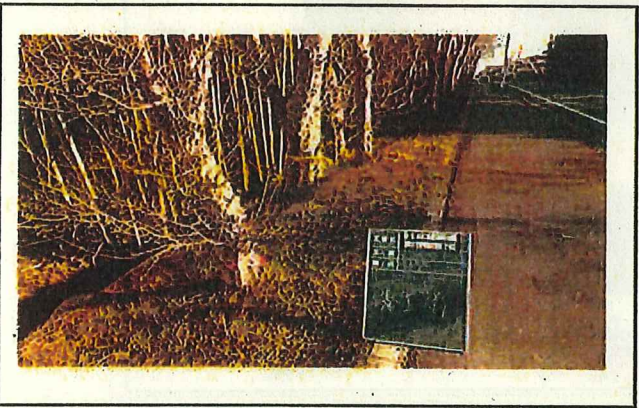


写真3
施工前

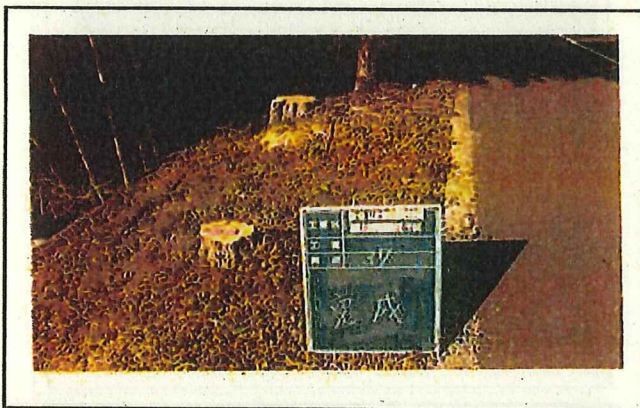


写真4
施行後



写真5
施工前



写真6
施行後

対策区分 2. 暮らしに身近な森林づくり

市町名 東員町

事業名 みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）

7. 写真



写真7

施工前

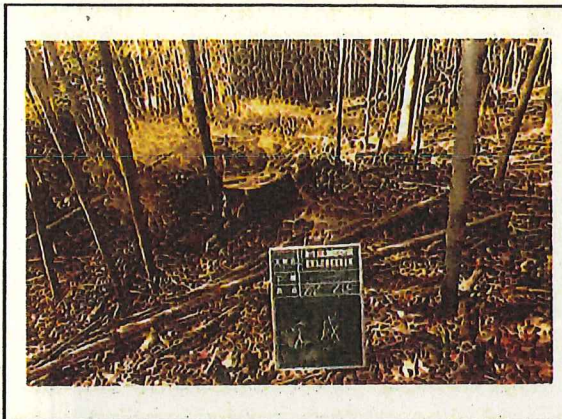


写真8

施工後

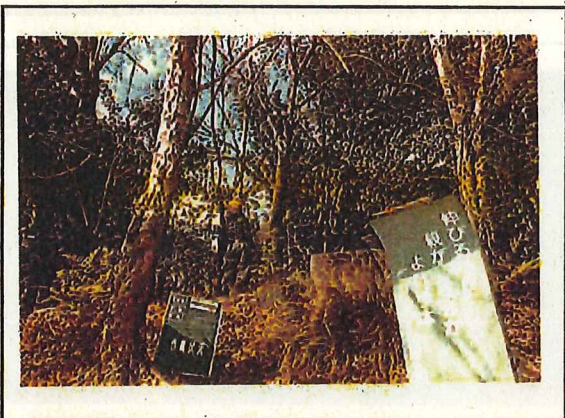


写真9

作業状況

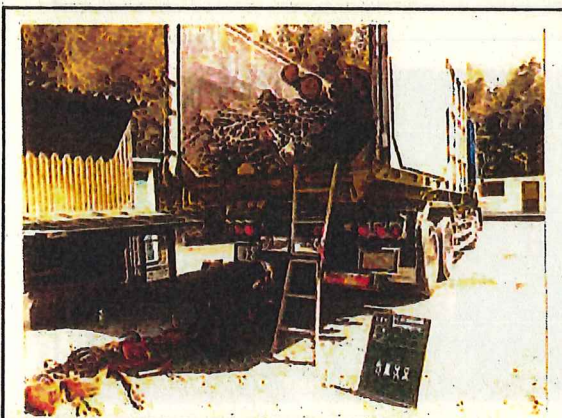


写真10

作業状況

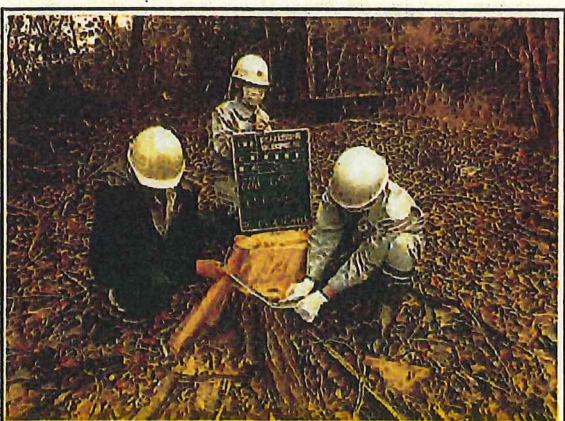


写真11

検査状況



写真12

検査状況

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	東員町
-----	-----

事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業（危険木伐倒等業務）
-----	----------------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
危険木伐倒	本	37.00		1,723,700	平均落札率 63.65%
事業費	本	37.00		1,723,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
みえ森と緑の県民 税市町交付金事業 危険木伐倒等業務	当初契約	本	25.00		913,000	落札率 54.32%
	変更契約（追加発注分）	本	5.00		249,700	
	計	本	30.00		1,162,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
みえ森と緑の県民 税市町交付金事業 危険木伐倒等業務 （その2）	当初契約	本	5.00		462,000	落札率 96.33%
	変更契約（追加発注分）	本	2.00		99,000	
	計	本	7.00		561,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

東員町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	㊹ 基金積立（木材利用等）	1,100	1,100
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	1,100	1,100

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

菰野町

菟野町

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

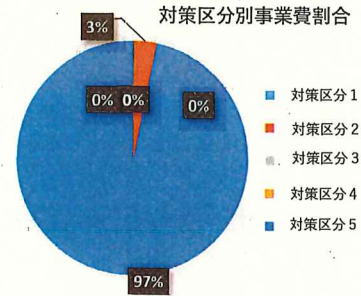
1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	菟野町	三重県
人口（人）	40,463	1,782,190
年少人口割合（％）*1	14.2%	12.4%
森林面積(ha)	5,348.67	372,352.55
民有林面積(ha)*2	5,272.74	348,833.49
森林率(%)	50.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）*3	4.3	10.1

*1：全人口に占める15歳未満の人の割合

*2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

*3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	2	病虫害被害木伐採撤出事業	312,500	156,000		156,000				156,000
2	5	菟野富士ふるさとの山環境整備事業	4,910,400	4,774,000					4,774,000	4,774,000
3		みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業	4,447,000	0						4,447,000
計			9,669,900	4,930,000	0	156,000	0	0	4,774,000	9,377,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業				
森林再生力強化対策事業				

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	菟野町では、「災害に強い森林づくり」及び「県民全体で森林を支える社会づくり」を推進するという「みえ森と緑の県民税」の趣旨に則り、「災害に強い森林づくり」では防災・減災の観点から病虫害被害により倒木の危険が高まっている危険木を伐採する事業を行い、「県民全体で森林を支える社会づくり」では菟野町民にとって身近な山である菟野富士を活用し、バリアフリー木道を設置し、誰もが森林と緑に親しむことのできる環境整備を行い、自然体験や自然学習を通じて自然とのふれあいを深めるため整備を行っている。
事業実施により得られた効果	公共の道路に倒木の可能性がある危険木を事前伐採することにより、通行者に対する安全の確保及び電線断線の危険の排除ができた。また、病虫害による被害拡散を防止することができた。
情報発信への取組	伐採作業時はのぼり旗を使うことにより、みえ森と緑の県民税を使って作業していることを通行者にPRした。また、町のホームページで事業報告を行う。菟野富士の現場では、さらに立て看板を設置することにより、PRを行っている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	菰野町
番号	事業名				
1	病虫害被害木伐採搬出事業				
事業費	312,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			156,000	0	156,500

1. 事業の目的

菰野町内において、病虫害被害により公共の道路へ倒木の恐れがある樹木の伐採を行い、住民の生命や財産を守ることを目的にする。

また、病虫害被害木を伐採することにより被害の拡散防止に努める。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 国道、県道及び町道沿道から20m以内の病虫害による松枯れやナラ枯れ被害木の伐採、搬出、処理に対して助成を行う。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
 森林を維持管理する団体及び所有者。

【補助率等】
 対象経費は伐採費、搬出費、処分費（上限額は1本当たり100千円）とし、交付率は対象経費の50/100。

【箇所数】
 町内全域 合計2箇所

【事業量】
 病虫害被害木3本の伐採、搬出、処分

【事業実施期間】
 令和元年5月～令和2年3月

【受益者、参加者、利用者数等】
 約2,000世帯 6,000人程度

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
 土地所有者からの申出により、現地を確認し、選定を行う。

【事業実施により得られた効果】
 公共の道路に倒木の可能性がある危険木を事前伐採することにより、通行者に対する安全の確保及び電線断線の危険の排除ができた。また、病虫害による被害拡散を防止することが出来た。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
 森林所有者に適切な森林管理を引き続きお願いしている。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
 危険木を伐採するにあたり、補助が出ることによって土地所有者が危険木を伐採する決断に繋がった。また、区長からは区民の通行の安全が確保でき、助かったとの意見があった。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	菰野町
番号	事業名				
1	病虫害被害木伐採搬出事業				
事業費	312,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			156,000	0	156,500

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
補助事業

【実施方法の選定理由】
森林の所有者が責任を持って行うべきものであると考えるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
実施主体である森林所有者に選定してもらう。

【契約相手方の選定理由】
実施主体である森林所有者に選定してもらう。

【事業費の積算根拠】
見積もりによる。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
地元住民等が通行する生活道路であり、多くの地元住民が受益できる取り組みである。

【公的関与の必要性】
所有者の責ですべきことであるが、地域住民の安全な生活環境に関わる取組であるため、公的関与が必要。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
○チラシ配布（配布対象者：森林所有者 ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
○その他（方法： 施行中、のぼり旗を設置しPRした）（場所： ）

【情報発信の対象】
菰野町ホームページを通して全体へ広報すると共に、通行者に対しても事業が県民税によって行われていることをのぼり旗でPRした。

【情報発信の内容】
町ホームページで、みえ森と緑の県民税の事業目的を掲載し、その年の成果も掲載している。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名 菰野町

事業名 病虫害被害木伐採搬出事業

7. 写真

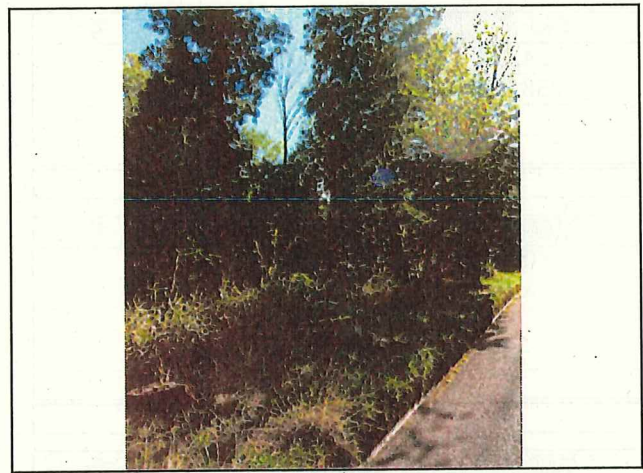


写真1
施行地A 被害木 伐採前



写真2
施行地A 被害木 伐採後



写真3
施行地B 被害木 伐採前



写真4
施行地B 被害木 伐採後



写真5
施行地A 被害木 伐採中 PR

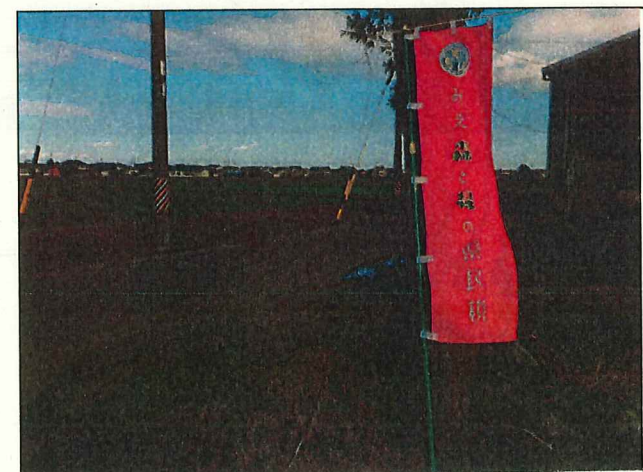


写真6
施行地B 被害木 伐採中 PR

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり
------	-----------------

市町名	菰野町
-----	-----

事業名	病虫害被害木伐採搬出事業
-----	--------------

積算資料(実績報告参考資料)

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
施行地A	式	1.00	54,000	54,000	
施行地B	式	1.00	258,500	258,500	
事業費				312,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
施行地A	立木伐採搬出処分	式	1.00	50,000	50,000	
	消費税	式	1.00	4,000	4,000	消費税率8%
	計				54,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
施行地B	一般世話役	人	1.00	22,200	22,200	
	普通作業員	人	5.00	18,000	90,000	
	処理運搬工	式	1.00	40,000	40,000	
	高所作業車	日	1.00	25,000	25,000	
	諸経費	式	1.00	57,800	57,800	
	消費税	式	1.00	23,500	23,500	
計					258,500	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	菰野町
番号	事業名				
2	菰野富士ふるさとの山環境整備事業				
事業費	4,910,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,774,000	0	136,400

1. 事業の目的

身近でなじみのある菰野富士において、誰もが森林と緑に親しむことのできる環境整備を行い、自然体験や自然学習を通じて自然とのふれあいを深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】
森林と緑の中を誰もが散策できるバリアフリー木道の遊歩道等を整備し、森林の中での癒し、健康づくりのための自然とのふれあいゾーンを創出する。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
菰野町

【補助率等】
補助事業でない。

【箇所数】
1 箇所（菰野富士）

【事業量】
木道 L = 6.4m

【事業実施期間】
令和元年 5 月～令和 2 年 3 月

【受益者、参加者、利用者数等】
菰野町観光入込客数：約255万人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
菰野富士は標高369mあり富士山そっくりの姿をしている山であり、菰野富士の裾野に広がる高原は昭和58年に朝日新聞社と森林文化協会が広く読者から募った「21世紀に残したい日本の自然100選」に選ばれている。菰野富士には登山道が整備されており、山頂には石で造られたイスと机も設置されていて山頂からの眺めも良く憩いの場となっている。
桜やツツジの植樹、アジサイの植栽も行っており観光の要所として力を入れている場所である。
その身近な菰野富士において誰もが森林と緑に親しむことのできるよう環境整備を行うため選定した。

【事業実施により得られた効果】
令和4年度の完成を目指し、施行中である。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
障がいがある方にも楽しめる遊歩道とし、多くの観光客を呼び込む憩いの場とする。また、企業の森活動も行われており、町や各種団体が実施する森林ウォークなどの健康づくりや自然観察などの体験型プログラムを活用した利用に資することで森林環境教育に取り組む。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
土地所有者である財産区からは遊歩道の早期開通を求められており期待されている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	菟野町
------	--------------------	-----	-----

番号	事業名				
2	菟野富士ふるさとの山環境整備事業				
事業費	4,910,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			4,774,000	0	136,400

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 請負工事

【実施方法の選定理由】
 直営の施設であるため。

【契約方法と落札率または補助率等】
 一般競争入札により行った。落札率は86.03%である。

【契約相手方の選定理由】
 一般競争入札において、落札額が最低価格であった業者による、くじ引きにて確定。

【事業費の積算根拠】
 別紙設計積算の通り。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 施工中であり共用を開始していないが、開始すれば新たな観光場となり、また地元住民も気軽に散策できる場となる。また、バリアフリー遊歩道であるため、障がいがある方にも楽しむことができる。

【公的関与の必要性】
 新たな憩いの場を整備する事業であり、公的機関が関与して整備していく必要がある。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 町が管理を行うため、転用のおそれはない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
 ○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
 ・パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：木道入口に設置 ）
 ・その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
 現在施工中であり通行できないため、町ホームページで工事状況を公開するだけだが、工事完成の際は大きくアピールするため検討している。

【情報発信の内容】
 看板を設置することにより、みえ森と緑の県民税を活用している事業であることをアピールしている。通行できないため、工事の状況を町ホームページで公開する。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 菰野町

事業名 菰野富士ふるさとの山環境整備事業

7. 写真



写真1
施工前①



写真2
施工前②

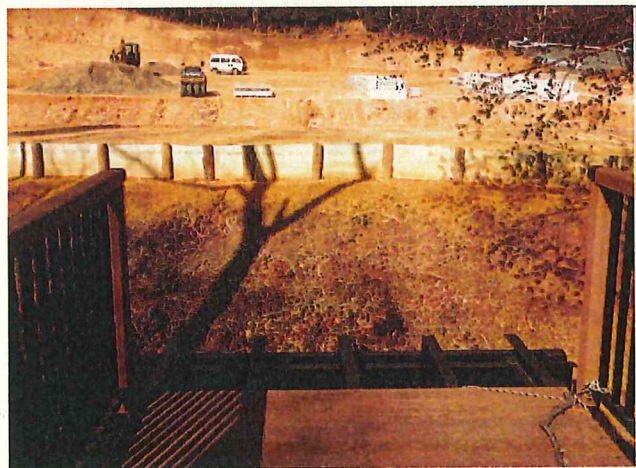


写真3
施工前③



写真4
施工後① (のぼり旗にてPR)



写真5
施工後②



写真6
施工後③ (完成検査終了後 看板にてPR)

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	菰野町
-----	-----

事業名	菰野富士ふるさとの山環境整備事業
-----	------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
純工事費	式	1.00	2,885,800	2,885,800	
現場管理費	式	1.00	1,224,000	1,224,000	
一般管理費等	式	1.00	935,200	935,200	
消費税	式	1.00	504,500	504,500	
事業費計	式	1.00	5,549,500	5,549,500	
落札率	%	86.03	-	4,774,000	千円止め
変更契約	式	1.00	136,400	136,400	契約変更による追加分
事業費	式	1.00	-	4,910,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

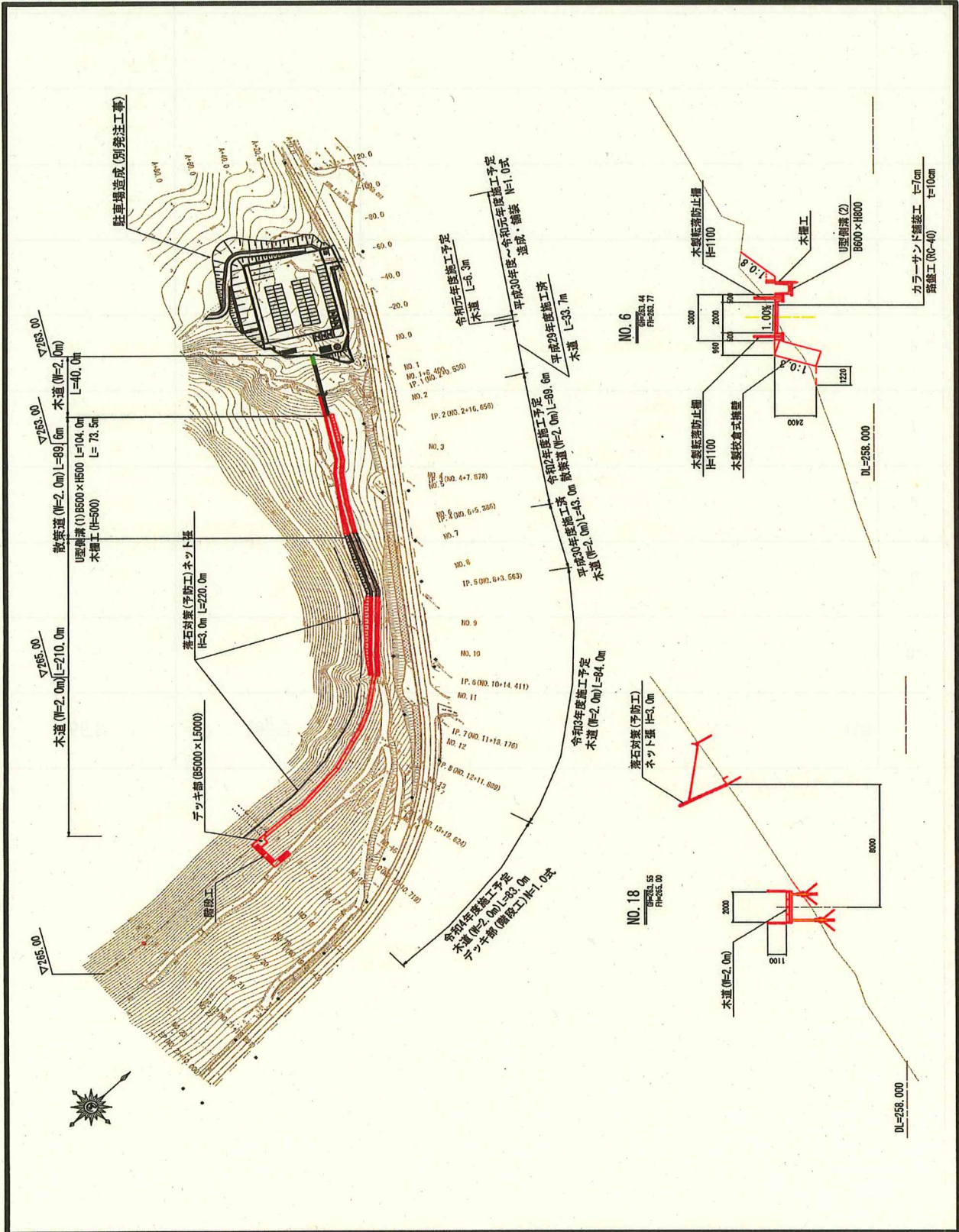
作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

全体計画図



(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

菰野町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	⑰ 基金積立 (森林整備等)	3,991	3,991
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	3,991	3,991

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

朝日町

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業 市町別総合評価シート

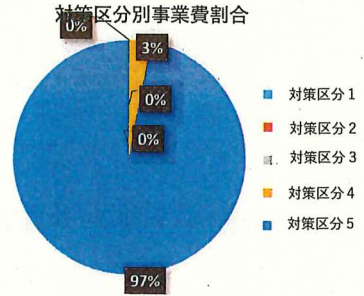
1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	朝日町	三重県
人口（人）	10,963	1,782,190
年少人口割合（%）*1	19.5%	12.4%
森林面積（ha）	63.21	372,352.55
民有林面積（ha）*2	63.21	348,833.49
森林率（%）	11.0%	64.0%
都市公園面積（㎡/人口）*3	2.1	10.1

*1：全人口に占める15歳未満の人の割合

*2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

*3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	5	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設、ふれあいパーク）	1,435,219	1,200,000					1,200,000	1,200,000
2	5	森と緑とふれあう環境づくり事業（ふれあいパーク）	3,685,000	2,700,000					2,700,000	2,700,000
3	4	森と緑を大切に思う人づくり事業	126,500	121,000				121,000		121,000
4	2	里山再生整備事業（みえ森と緑の県民税市町交付金積立事業）	1,700,000	0						1,700,000
計			6,946,719	4,021,000	0	0	0	121,000	3,900,000	5,721,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量（ha）	事業費（円）	内交付金充当額（円）	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
森林再生力強化対策事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	当町は町の面積が小さく森林面積も小さいが、人口が急増しており年少人口割合が三重県一高いことから、年少者やその親を意識した事業を展開している。子ども・親子を対象とした事業は他市町でも実施されていると思われるが、当町では上記の理由から同様の事業であっても三重県一効率的、効果的な事業実施に繋がっていると思われる。また、他の事業（東海道まちなみ整備など）との連携を図り、相乗効果に繋がるよう事業展開をしている。
事業実施により得られた効果	就学前の幼児に対する施策（園庭整備、木のおもちゃ）、就学後の学童に対する施策（まちなみ将棋）、親子が集まる施設での施策（ふれあいパーク整備）により、幼少期から小学校低学年まで継続的に緑や木に触れる機会の提供に繋がっており、子どもやその親を中心に町民の緑・木に対する関心が高まっている。
情報発信への取組	看板、備品への焼き印、ホームページ等でみえ森を使った取組であることを周知している。また、他の事業（東海道まちなみ整備）と連携することでそれらの参加者等に対しても効果的な情報発信につながっている（ワークショップ参加者に対してまちなみ将棋を周知するなど）。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠) 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	朝日町
------	--------------------	-----	-----

番号	事業名				
1	森と緑とふれあう環境づくり事業 (幼保一体化施設、ふれあいパーク)				
事業費	1,435,219 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,200,000		235,219

1. 事業の目的

公共施設 (あさひ園、ふれあいパーク) の園庭などを緑化することにより、幼児教育の場において園児が緑にふれあい、森や草木を大切にすることを養うための環境をつくります。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 ふれあいパークの芝生の維持管理 (平成26~27年度みえ森と緑の県民税市町交付金を活用して緑化した芝生)
 あさひ園の芝生の維持管理 (平成28~30年度みえ森と緑の県民税市町交付金を活用して緑化した芝生)

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】
 朝日町

【補助率等】
 補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】
 2箇所

【事業量】
 芝生面積 (あさひ園) 延べ1,286㎡
 芝生面積 (ふれあいパーク) 延べ1,602㎡

【事業実施期間】
 H31.4.1~R2.3.31

【受益者、参加者、利用者数等】
 あさひ園園児数約500名、ふれあいパーク年間来訪者数延べ約3,000名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
 あさひ園は当町唯一の幼保一体施設として町内の乳幼児が多数在籍しており、幼児期からの緑とのふれあいに繋げることができる場所である。ふれあいパークは当交付金を活用して整備した施設であり、教育文化施設に隣接し住宅地にも近いことから来訪者が多く、多数の町民に対して緑に触れる機会を提供できる場所である。

【事業実施により得られた効果】
 芝生を維持することで、子どもたちや町民に対して最も身近な緑とのふれあいに繋がっている。また、ふれあいパークは地域住民の憩いの場としても効果的に活用されている。さらに、芝生に囲まれ恵まれた環境であることから、地域の商工会青年部による冬季イルミネーション事業の場所となり、多くの住民の目を楽ませることもつながった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
 両施設とも引き続き緑化を維持し、子どもたちや町民に対して緑に触れる機会を提供していく。また、芝生の上での朗読会など、芝生化されたメリット等を活かした事業を検討していく。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
 あさひ園の園児や保育士からは芝生で気持ちがいいという声が上がっており、裸足で芝生を走り回るといった光景も見られる。ふれあいパークは人気が高く、老若男女問わず幅広い層の町民の憩いの場となっている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	朝日町
番号	事業名				
1	森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設、ふれあいパーク）				
事業費	1,435,219 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			1,200,000		235,219

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 工事請負契約（幼保一体化施設）
 消耗品購入等（ふれあいパーク）

【実施方法の選定理由】
 町有施設の整備であるため

【契約方法と落札率または補助率等】
 随意契約（落札率94%）

【契約相手方の選定理由】
 町の規定（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、130万円以下）に基づき随意契約としており、随意契約にあたっては複数者の見積り合わせにより最低価格の者と契約した。

【事業費の積算根拠】
 参考見積書を徴収し積算した。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 あさひ園は当町唯一の幼保一体化施設として町内の乳幼児が多数在籍しており、幼児期からの緑とのふれあいに繋げることができる場所である。ふれあいパークは当交付金を活用して整備した施設であり、教育文化施設に隣接し住宅地にも近いことから来訪者が多く、多数の町民に対して緑に触れる機会を提供できる場所である。

【公的関与の必要性】
 町有施設の整備であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 町有施設の整備であるため、今後も引き続き担当課により適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
 ○HP掲載 ・ 広報誌掲載 ・ 新聞掲載 ・ テレビ（行政チャンネル）放映
 ・ チラシ配布（配布対象者： ） ・ ポスター掲示（掲示場所： ）
 ・ パネル展示（展示場所： ） ○看板設置（設置場所：両施設の入り口）
 ・ その他（方法： ）（場所： ）

【情報発信の対象】
 町民

【情報発信の内容】
 あさひ園では入口付近にみえ森を活用して芝生整備をしている旨を記載した看板を掲示している。
 ふれあいパークでは施設の案内看板にロゴマークを入れみえ森を活用して整備した施設である旨を明記している。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 朝日町

事業名 森と緑とふれあう環境づくり事業（幼保一体化施設、ふれあいパーク）

7. 写真



写真1
案内看板（あさひ園：みえ森を活用していることを明記）



写真2
芝生（あさひ園）



写真3
芝生（ふれあいパーク）



写真4
芝生（ふれあいパーク）作業中

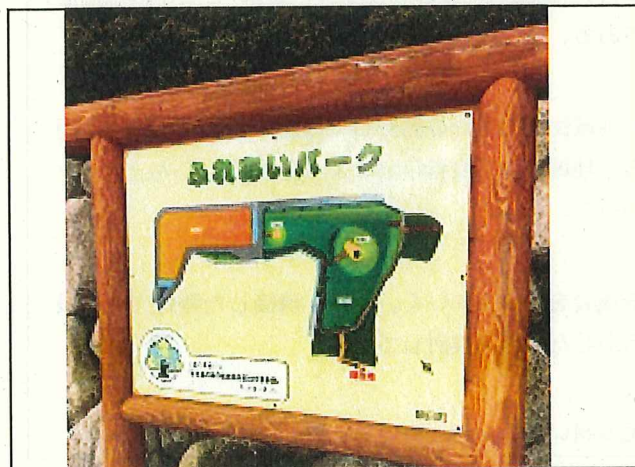


写真5
案内看板（ふれあいパーク：みえ森を活用していることを明記）

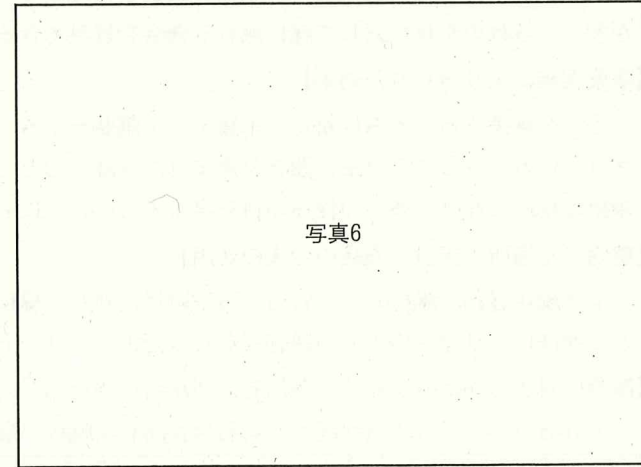


写真6

写真6

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠) 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり		市町名	朝日町	
番号	事業名				
2	森と緑とふれあう環境づくり事業 (ふれあいパーク)				
事業費	3,685,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,700,000	0	985,000

1. 事業の目的	<p>朝日町大字柿地区のふれあいパークは、隣接する朝日町教育文化施設の来館者や地域住民などが、花の苗を植えてその後の成長が見られる花エリアと、植栽された樹木の中を散策する遊歩道や樹木の木陰で休憩できて芝生に触れられる森と緑エリアが中心となる施設です。この施設を含む周辺に緑と親しむ環境を整備することで、身近な緑と住民との関係を深めます。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 芝生化整備等</p> <p>【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】 朝日町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない</p> <p>【箇所数】 1箇所</p> <p>【事業量】 芝生面積 70㎡、木質チップ舗装 120㎡</p> <p>【事業実施期間】 R1.11.15~R2.3.13</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 ふれあいパーク年間来訪者数延べ約3,000名</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 ふれあいパークは当交付金を活用して整備した施設であり、教育文化施設に隣接し住宅地にも近いことから来訪者が多く、多数の町民に対して緑に触れる機会を提供できる場所である。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 芝生を維持するとともに新たに木質チップ舗装をすることで、地域住民の憩いの場として機能が増し効果的に活用されている。さらに、芝生に囲まれ恵まれた環境であることから、地域の商工会青年部による冬季イルミネーション事業の場所となり、多くの住民の目を楽しませることもつながった。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 引き続き緑化を維持し、子どもたちや町民に対して緑に触れる機会を提供していく。また、隣接した教育文化施設との連携により芝生の上での朗読会など、芝生のメリット等を活かした事業を検討していく。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 ふれあいパークは人気が高く、老若男女問わず幅広い層の町民の憩いの場となっている。</p>

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	朝日町
番号	事業名				
2	森と緑とふれあう環境づくり事業（ふれあいパーク）				
事業費	3,685,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			2,700,000	0	985,000

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
 工事請負契約

【実施方法の選定理由】
 町有施設の整備であるため

【契約方法と落札率または補助率等】
 指名競争入札（落札率94%）

【契約相手方の選定理由】
 町の規定に基づき指名競争入札としており、契約にあたっては複数者の入札の結果、最低価格の者と契約した。

【事業費の積算根拠】
 公共積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
 当施設は、教育文化施設に隣接し住宅地にも近いことから来訪者が多く、老若男女問わず多数の町民が無償で利用でき、緑に触れる機会を提供できる場所である。

【公的関与の必要性】
 町有施設の整備であるため

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
 町有施設の整備であるため、今後も引き続き担当課により適切に管理する。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・HP掲載
- ・広報誌掲載
- ・新聞掲載
- ・テレビ（行政チャンネル）放映
- ・チラシ配布（配布対象者：)
- ・ポスター掲示（掲示場所：)
- ・パネル展示（展示場所：)
- 看板設置（設置場所：入口2箇所)
- ・その他（方法：)（場所：)

【情報発信の対象】
 町民

【情報発信の内容】
 当施設の案内看板にロゴマークを入れみえ森を活用して整備した施設である旨を明記している。

7. 写真
 別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 朝日町

事業名 森と緑とふれあう環境づくり事業（ふれあいパーク）

7. 写真



写真1

張芝工 (70㎡)



写真2

木質チップ舗装 (120㎡) ①



写真3

木質チップ舗装 (120㎡) ②



写真4

木質チップ舗装 (120㎡) ③



写真5

木質チップ舗装 (120㎡) ④



写真6

案内看板 (みえ森を活用していることを明記)

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠) 事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町
------	-------------------	-----	-----

番号	事業名			
3	森と緑を大切に思う人づくり事業			
事業費	126,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			121,000	
			その他	5,500

1. 事業の目的

幼保一体化施設の園児たちに対し幼い頃から木製のおもちゃ等で遊ぶ機会を提供します。また、東海道まちなみ整備事業と連携し、朝日まちなみ将棋を作成し、地域の学童保育などへの貸し出し等を通じて朝日町の東海道の歴史を知るとともに木の肌触りや温もりを感じ森林や緑を大切に思う心を育むことにつなげます。

2. 事業実績概要

【事業内容】
あさひ園に県産材を使用した木のおもちゃを配置する。
東海道まちなみ整備事業と連携した朝日まちなみ将棋を作成し、地域の学童保育等に貸し出す。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】
朝日町

【補助率等】
補助事業ではなく、該当しない

【箇所数】
2箇所

【事業量】
ままごと棚 1基
朝日まちなみ将棋 3基

【事業実施期間】
R1.7.26~R2.1.22

【受益者、参加者、利用者数等】
園児約500名、学童約100名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
あさひ園は当町唯一の幼保一体施設として町内の乳幼児が多数在籍しており、幼児期からの緑とのふれあいに繋げることができる場所である。町内の学童保育は数か所の拠点があり、年々入所する学童数が増えており、遊びを通じる形で効果的に施策を展開できる場所である。

【事業実施により得られた効果】
園児たち、学童の児童たち、いずれに対しても遊びを通して木を知るきっかけに繋がっており、「手触りがいい」「匂いが好き」などの声も聞こえており木への親しみの醸成に繋がっている。また、併わせて地域の東海道について知る機会ともなっており、東海道まちなみ整備事業との連携により一層事業効果が高まっていると思われる。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
引き続きそれぞれのおもちゃを活用し、子どもたちに対して木に触れる機会を提供していく。まちなみ将棋については、まちなみ整備事業と連携し、学童のみならず大人も巻き込んだ活用を検討しており、令和2年3月に東海道ウォークラリー企画と併わせて活用予定であったがコロナウイルス感染拡大防止の観点から残念ながら延期となった。コロナウイルスの状況を見据えつつ令和2年度中の開催を目指しているが未定である。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
あさひ園の園児たちは木の手触りなどを学びながら木のおもちゃで楽しく遊んでいる。まちなみ将棋は学童保育の児童や担当者の評価は高く、楽しみながら木を知り地域の東海道について知る機会となっている。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり	市町名	朝日町
------	-------------------	-----	-----

番号	事業名				
3	森と緑を大切に思う人づくり事業				
事業費	126,500 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			121,000		5,500

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】					
物品購入					
【実施方法の選定理由】					
物品を購入し、設置する事業であるため					
【契約方法と落札率または補助率等】					
随意契約 落札率100%					
【契約相手方の選定理由】					
町の規定（地方自治法施行令第167条の2第1項第2号）に基づき随意契約としており、随意契約にあたっては特注品により1者見積りにより契約した。					
【事業費の積算根拠】					
参考見積書を基に予定価格を設定し見積書を徴収した。					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】					
園児約500名 学童約100名。その家族にも波及効果がある。					
【公的関与の必要性】					
町有施設に備品設置をする事業であるため（あさひ園）。					
また、町の信用のもと地域の学童保育と連携する事業であるため（まちなみ将棋）。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
あさひ園の備品については、あさひ園において適切に管理している。					
まちなみ将棋については、学童保育からの要望に応じて貸し出している。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】					
<ul style="list-style-type: none"> ・HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映 ○チラシ配布（配布対象者：学童、指導者 ） ・ポスター掲示（掲示場所： ） ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ） ○その他（方法：本体にみえ森ロゴマークの焼き印を入れた）（場所： ） 					
【情報発信の対象】					
児童、学童やその親					
【情報発信の内容】					
みえ森を活用して作成したものであることを示すロゴマークを入れた説明書を作成し、利用する学童の目に触れるようにした。また、本体にみえ森ロゴマークの焼き印を入れた。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 朝日町

事業名 森と緑を大切に思う人づくり事業

7. 写真



写真1

ままごと棚



写真2

ままごと棚

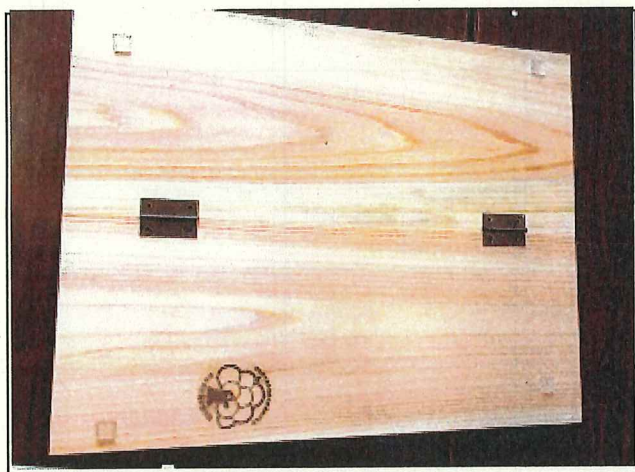


写真3

まちなみ将棋 箱外観 (みえ森の焼き印あり)

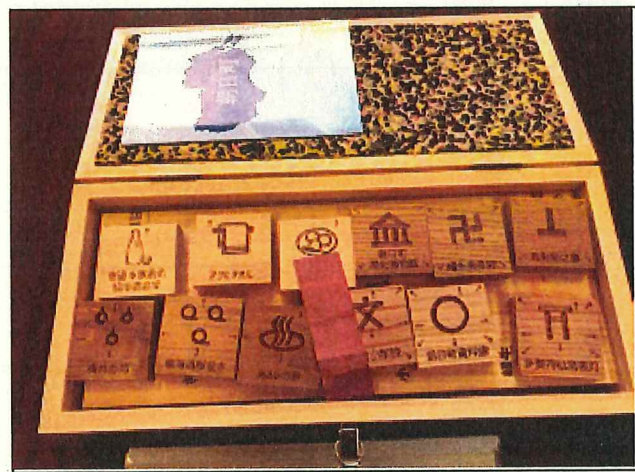


写真4

まちなみ将棋 箱の中



写真5

まちなみ将棋使用シーン① (学童保育イベント)



写真6

まちなみ将棋使用シーン② (学童保育イベント)

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

朝日町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	⑰ 基金積立 (森林整備等)	466,000	466,000
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	466,000	466,000

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

川越町

川越町

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

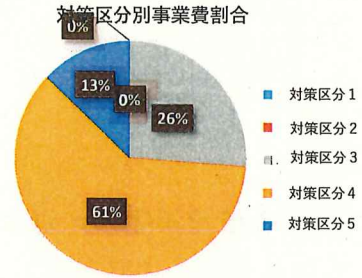
1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

市町名	川越町	三重県
人口(人)	14,888	1,782,190
年少人口割合(%) * 1	15.0%	12.4%
森林面積(ha)	0.00	372,352.55
民有林面積(ha) * 2	0.00	348,833.49
森林率(%)	0.0%	64.0%
都市公園面積(m ² /人口) * 3	0.3	10.1

* 1：全人口に占める15歳未満の人の割合

* 2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

* 3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費(円)	交付金充当額(円)						
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4	対策区分5	内当年度交付金額
1	3	川越中学校自然教室	1,065,696	701,236			701,236			701,236
2	3	川越北小学校自然教室	760,408	559,960			559,960			559,960
3	3	川越南小学校自然教室	662,258	511,780			511,780			511,780
4	4	川越中学校美術室・技術室・机・椅子整備事業	3,591,000	3,591,000				3,591,000		3,591,000
5	5	川越北小学校シンボルツリー樹形整形事業	880,000	880,000					880,000	880,000
6	4	ふれあい広場ベンチ整備事業	594,000	525,024				525,024		525,024
7										0
計			7,553,362	6,769,000	0	0	1,772,976	4,116,024	880,000	6,769,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	0	0	0	
森林再生力強化対策事業	0	0	0	

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	川越町には森林が無いため、直接的事業ではなく、木との触れ合いを通じて、木について学ぶきっかけや、森林や木材への理解を深めるた、自然教室や学校及び公共施設の木質化を重点に進める。
事業実施により得られた効果	自然教室において、自然と触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ習慣が身に付きました。また、木製品に触れることにより、温かみや木の肌触りと香りを感じることができ、木材利用に対する理解が深まった。
情報発信への取組	当町HPを活用し町民への情報提供を行いました。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
1	川越中学校自然教室				
事業費	1,065,696 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			701,236	0	364,460

1. 事業の目的	<p>野外体験活動を通じて、自然に親しみ自ら自然体験を求めていくきっかけをつくるとともに、集団生活の中で人間的な触れ合いを深めることで、心身ともに健全な青少年の育成を図る。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 中学1年生を対象に、県立鈴鹿青少年センター等で1泊2日の集団生活を送る中で、オリエンテーリング、ネイチャーゲーム。飯盒炊飯等、自然と触れ合う活動を実施した。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所（三重県立鈴鹿青少年センター）</p> <p>【事業量】 自然教室1回 令和元年6月14日（金）～令和元年6月15日（土）の1泊2日</p> <p>【事業実施期間】 令和元年6月14日（金）～令和元年6月15日（土）</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 138名</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 野外活動を通じて、自然に親しみ自ら自然体験を求めていくきっかけを作るため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 緑豊かな環境の中で、集団生活を通じて、社会性を育むことができ、さらに自然と触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ習慣が身についた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備等ではなく、該当しない。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 指導した教員より生徒が自然の中で普段では体験できない活動を通じて、生き生きとした表情で学習に取り組んでおり、学習効果が向上したという意見がありました。</p>

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
1	川越中学校自然教室				
事業費	1,065,696 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			701,236	0	364,460

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
交付金として支出

【実施方法の選定理由】
公立の中学校であるため、町が交付金を支出しました。

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約にて執行。

【契約相手方の選定理由】
町の会計規則（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、規則で定める額を超えないもの）に基づき、随意契約とした。

【事業費の積算根拠】
見積りを徴収したところ、予定価格以内であった。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
中学1年生138名が参加。

【公的関与の必要性】
中学校の授業の一環であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

○HP掲載 ・ 広報誌掲載 ・ 新聞掲載 ・ テレビ（行政チャンネル）放映
 ・ チラシ配布（配布対象者： ） ・ ポスター掲示（掲示場所： ）
 ・ パネル展示（展示場所： ） ・ 看板設置（設置場所： ）
 ○その他（方法：学校だより ）（場所：川越中学校 ）

【情報発信の対象】
町民、在校生とその保護者

【情報発信の内容】
交付金を活用した事業について、当町HPを活用し町民への情報提供を行う。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項
特になし。

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 川越町

事業名 川越中学校自然教室

7. 写真

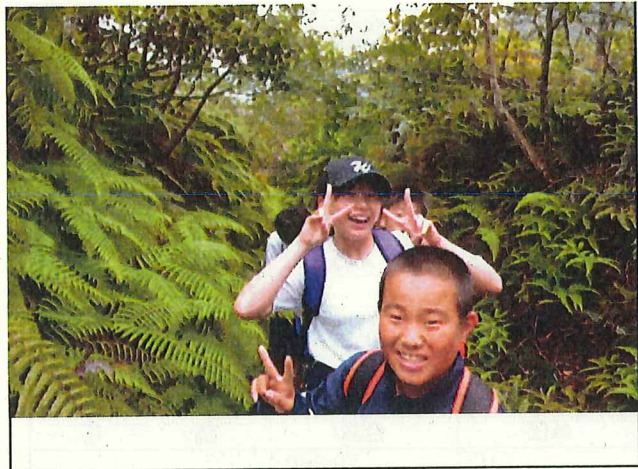


写真1 自然教室での登山の様子

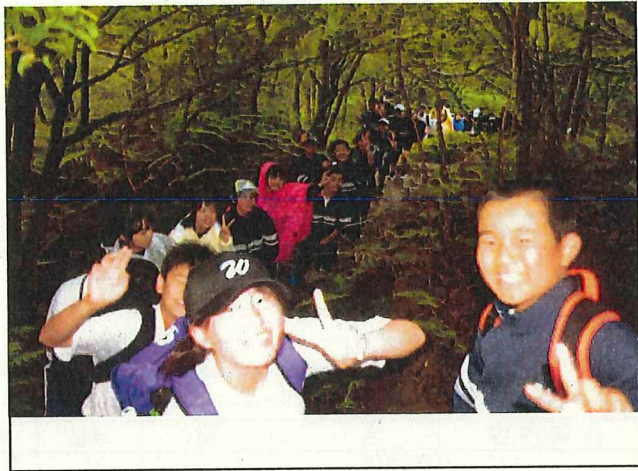


写真2 自然教室での登山の様子

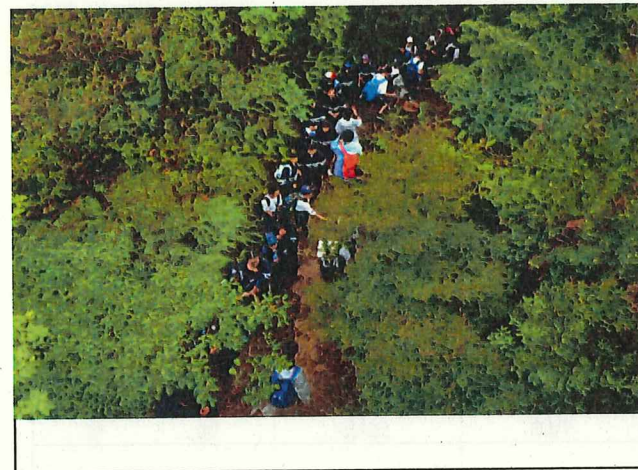


写真3 自然教室での登山の様子



写真4 自然教室での登山の様子



写真5 自然教室での登山の様子



写真6 自然教室での登山の様子

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	川越町
-----	-----

事業名	川越中学校自然教室
-----	-----------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
交通費	式	1.00	475,200	475,200	
施設利用料	式	1.00	111,480	111,480	
活動費	式	1.00	141,186	141,186	一部交付金対象外
その他	式	1.00	337,830	337,830	交付金対象外
事業費				1,065,696	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
交通費	バス代	台	4.00	118,800	475,200	
	計				475,200	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
施設利用料	宿泊代	人	138.00	510	70,380	
	リネン代	人	137.00	137	41,100	
	計				111,480	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
活動費	施設利用料	式	1.00		28,000	
	活動新聞作成費	式	1.00		72,756	
	保険料	人	138.00	100	13,800	
	その他消耗品	式	1.00		26,630	交付金対象外
	計				141,186	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
その他	食糧費	式	1.00		335,562	交付金対象外
	振込手数料	式	1.00		2,268	交付金対象外
	計				337,830	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
2	川越北小学校自然教室				
事業費	760,408 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			559,960	0	200,448

1. 事業の目的	<p>自然に親しみ、自然を大切にする気持ちを育てる。 集団生活の中で、自分の役割を果たし、互いに協力し合うことにより、仲間どうしのつながりを深める。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 小学5年生を対象に、菟野町で1泊2日の集団生活を送る中で、登山やオリエンテーリングなど自然と触れ合う活動を実施した。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所（朝明溪谷 朝明茶屋）</p> <p>【事業量】 自然教室1回 令和元年10月3日（木）～令和元年10月4日（金）の1泊2日</p> <p>【事業実施期間】 令和元年10月3日（木）～令和元年10月4日（金）</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 79名</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 野外活動を通じて、自然に親しみ自ら自然体験を求めていくきっかけ作するため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 緑豊かな環境の中で、集団生活を通じて、社会性を育むことができ、さらに自然と触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ習慣が身についた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備等ではなく、該当しない。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 指導した教員より、児童が自然の中で普段では体験できない活動を通じて、生き生きとした表情で学習に取り組んでおり、学習効果が向上したという意見がありました。</p>

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 川越町

事業名 川越北小学校自然教室

7. 写真

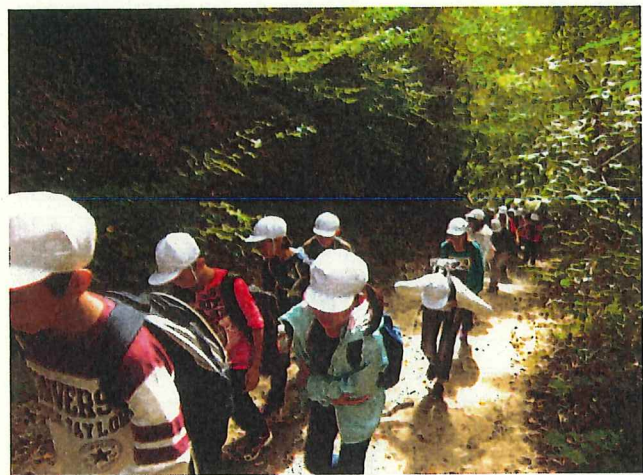


写真1
自然教室での登山の様子



写真2
森のアドベンチャー



写真3
森のアドベンチャー

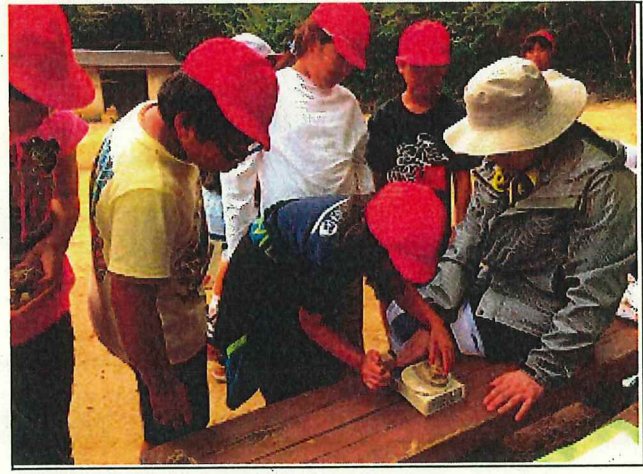
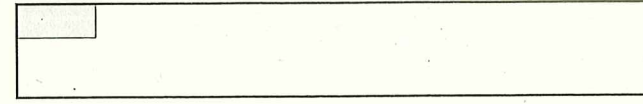
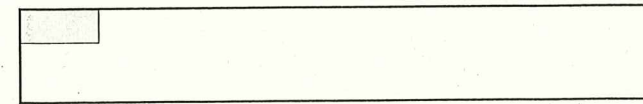
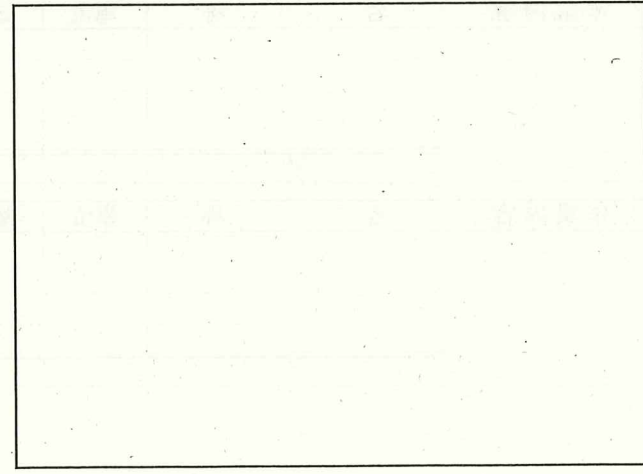
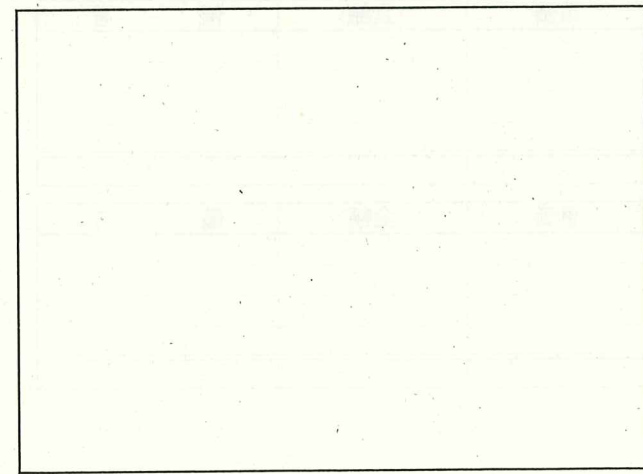


写真4
森のアドベンチャー



対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	川越町
-----	-----

事業名	川越北小学校自然教室
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
交通費	式	1.00	165,690	165,690	
施設利用料	式	1.00	170,640	170,640	
活動費	式	1.00	223,630	223,630	
その他	式	1.00	200,448	200,448	交付金対象外
事業費				760,408	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
交通費	バス代	式	1.00		162,690	
	駐車代	式	1.00		3,000	
	計				165,690	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
施設利用料	宿泊費	式	1.00		170,640	
	計				170,640	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
活動費	野外活動講師費用	式	1.00		74,720	
	登山指導者費用	式	1.00		10,680	
	キャンプファイ等活動費	式	1.00		130,230	
	保険料	人	80.00	100	8,000	
	計				223,630	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
その他	食糧費	式	1.00		200,448	交付金対象外
	計				200,448	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
3	川越南小学校自然教室				
事業費	662,258 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			511,780	0	150,478

1. 事業の目的	<p>自然に触れ、野外活動を経験する中で、自然のすばらしさ、大切さを感じ、集団生活の中で、助け合い、きまりを守って活動する。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 小学5年生を対象に、菰野町で1泊2日の集団生活を送る中で、登山やオリエンテーリングなど自然と触れ合う活動を実施した。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所（朝明溪谷 朝明茶屋）</p> <p>【事業量】 自然教室1回（令和元年9月26日（木）～令和元年9月27日（金）の1泊2日）</p> <p>【事業実施期間】 令和元年9月26日（木）～令和元年9月27日（金）</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 60名</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 野外活動を通じて、自然に親しみ自ら自然体験を求めていくきっかけを作るため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 緑豊かな環境の中で、集団生活を通じて、社会性を育むことができ、さらに自然と触れ合うことで、身近な木や緑に親しむ習慣が身についた。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 施設整備等ではなく、該当しない。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 指導した教員より、児童が自然の中で普段では体験できない活動を通じて、生き生きとした表情で学習に取り組んでおり、学習効果が向上したという意見がありました。</p>

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	川越町	
番号	事業名				
3	川越南小学校自然教室				
事業費	662,258 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			511,780	0	150,478

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
交付金として支出

【実施方法の選定理由】
公立の中学校であるため、町が交付金を支出しました。

【契約方法と落札率または補助率等】
随意契約にて執行

【契約相手方の選定理由】
町の会計規則（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、規則で定める額を超えないもの）に基づき、随意契約とした。

【事業費の積算根拠】
見積りを徴収したところ、予定価格以内であった。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
小学5年生60名が参加

【公的関与の必要性】
小学校の授業の一環であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
施設整備等ではなく、転用や目的外使用は想定されない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
○その他（方法：学校だより ）（場所：川越南小学校 ）

【情報発信の対象】
町民、在校生とその保護者

【情報発信の内容】
交付金を活用した事業について、当町HPを活用し町民への情報提供を行う。

7. 写真
別紙のとおり

8. その他特記事項
特になし。

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 川越町

事業名 川越南小学校自然教室

7. 写真



写真1
目隠しトレイル



写真2
ナイトハイキング

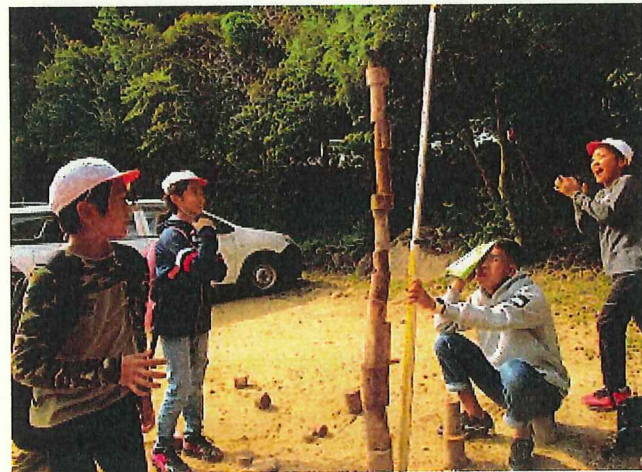
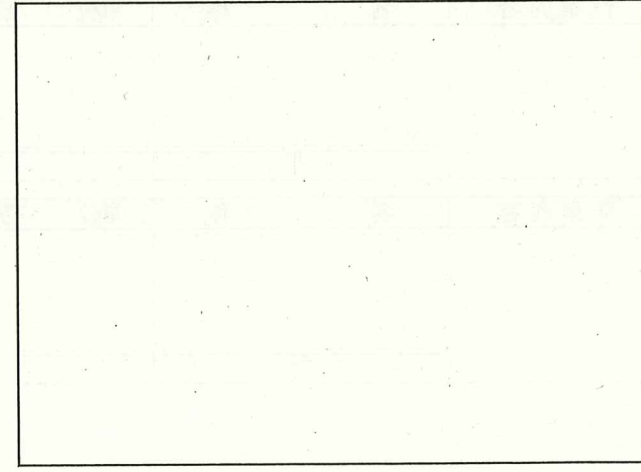
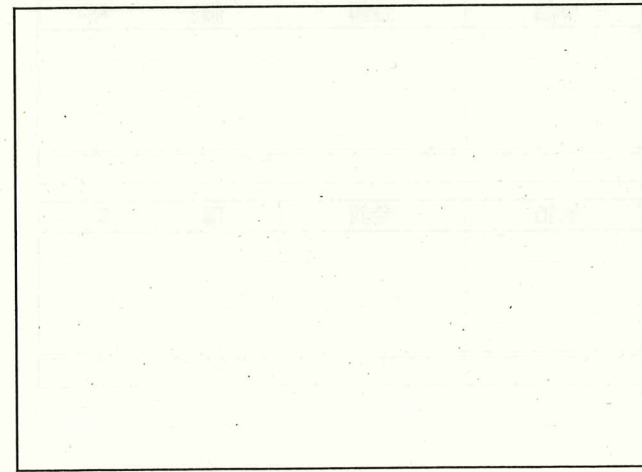


写真3
森のアドベンチャー



写真4
森のアドベンチャー



対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	川越町
-----	-----

事業名	川越南小学校自然教室
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
交通費	式	1.00	162,804	162,804	
施設利用料	式	1.00	129,600	129,600	
活動費	式	1.00	219,376	219,376	
その他	式	1.00	150,478	150,478	交付金対象外
事業費				662,258	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
交通費	バス代	式	1.00		159,804	
	駐車代	式	1.00		3,000	
	計				162,804	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
施設利用料	宿泊費	60	人	2,160	129,600	
	計				129,600	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
活動費	講師費用	式	1.00		109,116	
	キャンプファイ等活動費	式	1.00		104,260	
	保険料	人	60.00	100	6,000	
計					219,376	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
その他	食糧費	式	1.00		150,478	交付金対象外
	計				150,478	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
計						

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
4	川越中学校美術室・技術室・机・椅子整備事業				
事業費	3,591,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			3,591,000	0	0

1. 事業の目的	<p>中学校の美術室・技術室の机・椅子を木製品にて整備し、改めて木の良さを感じさせ、木について学ぶきっかけをつくり、森林や木材についての理解を深める。</p>
2. 事業実績概要	<p>【事業内容】 美術室に机40台・椅子40脚、技術室に机10台を整備する。</p> <p>【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】 川越町</p> <p>【補助率等】 補助事業ではなく、該当しない。</p> <p>【箇所数】 1箇所（川越中学校）</p> <p>【事業量】 美術室 机 40台、美術室 椅子 40脚、技術室 机 10台</p> <p>【事業実施期間】 令和元年6月5日（水）～令和元年9月30日（月）</p> <p>【受益者、参加者、利用者数等】 408名</p>
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】	<p>【実施箇所の選定理由】 中学校の美術室・技術室の机・椅子を木製品で整備することにより、木材のすばらしさを体験してもらい、森林についての理解を深めるため。</p> <p>【事業実施により得られた効果】 学校生活の中で、木製品に触れることにより、木について学ぶきっかけや、森林や木材への理解が深まった。</p> <p>【整備した場所・施設・備品の今後の活用】 丈夫で耐久性が高く、実用性にも優れた木製品の机椅子を使用することで、木の特性などを学ぶことに活用していきたい。</p> <p>【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】 指導している技術・美術の教員より、真新しい木製品に触れることで、木の温もりを肌で感じ、学習意欲が向上したという声がありました。。</p>

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 川越町

事業名 川越中学校美術室・技術室 机・椅子整備事業

7. 写真



写真1
技術室 机



写真2
技術室 机



写真3
技術室 机

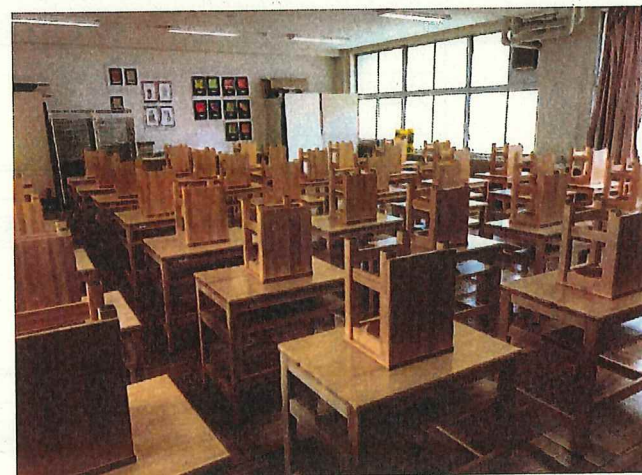


写真4
美術室 机・椅子



写真5
美術室 机・椅子

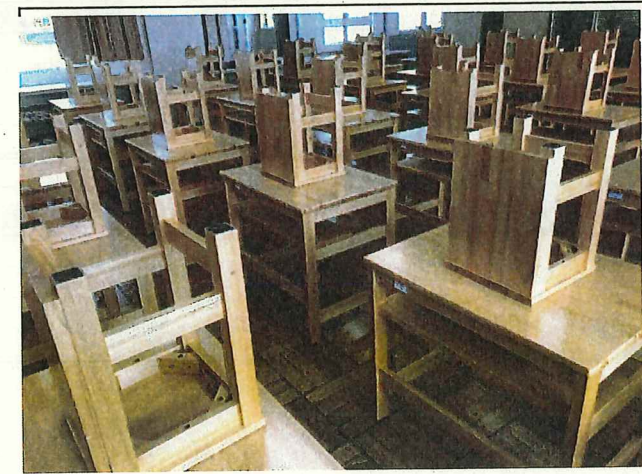


写真6
美術室 机・椅子

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	川越町
-----	-----

事業名	川越中学校美術室・技術室 机・椅子整備事業
-----	-----------------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
美術室 机 750×500×700mm	台	40.00	36,100	1,444,000	
美術室 椅子 300×300×460mm	脚	40.00	11,400	456,000	
技術室 机 1,400×1,200×770mm	台	10.00	142,500	1,425,000	
消費税	式	1.00	266,000	266,000	
事業費				3,591,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
5	川越北小学校シンボルツリー樹形整形事業				
事業費	880,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			880,000	0	0

1. 事業の目的

シンボルツリーの樹形を整形することで、木についての愛着・理解を深めるとともに、育った町への愛着を図る。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 校庭の南側で青空に向かって伸びるメタセコイアは、昭和30年代前半に植樹され、今日まで子供たちを温かく見守るシンボルツリーであり、学校だよりのタイトルにもなっている。このメタセコイアが子供たちにとって、より一層親しみを感じ、育った町のシンボルとして今後も成長し続けるように樹形の整形を行い、これに合わせてシンボルツリーの由来やメタセコイアの特徴を学習する等取り組む。

【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】
 川越町

【補助率等】
 補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】
 1箇所 (川越北小学校)

【事業量】
 メタセコイア5本

【事業実施期間】
 令和2年2月12日 (水) ~ 令和2年3月31日 (火)

【受益者、参加者、利用者数等】
 513名+α (北小学校卒業生)

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
 学校のシンボルツリーの樹形を整形することで、木についての愛着・理解を深めるとともに、郷土への愛着を図るため。

【事業実施により得られた効果】
 木に対して親しみを感じ、学校や町へ愛着がわくとともに豊かな感受性を育むことができた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
 施設整備等ではなく、該当しない。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
 生徒より、学校の顔である、シンボルツリーがきれいに整形されたことで、シンボルツリーの由来やメタセコイアの木の特征を知ることができたという声がありました。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり	市町名	川越町
番号	事業名		
5	川越北小学校シンボルツリー樹形整形事業		
事業費	880,000 円	(財源内訳)	当年度交付金
			880,000
			市町基金
			0
			その他
			0

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

町による工事請負契約

【実施方法の選定理由】

町が管理する施設であるため、町が発注しました。

【契約方法と落札率または補助率等】

建設工事請書の締結

【契約相手方の選定理由】

町の会計規則（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、規則で定める額を超えないもの）に基づき、随意契約とした。

【事業費の積算根拠】

見積りを徴収したところ、予定価格以内であった。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

513名+α（北小学校卒業生）

【公的関与の必要性】

公共施設であるため。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
 ・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
 ・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
 ○その他（方法：学校だより ）（場所：川越北小学校 ）

【情報発信の対象】

町民、在校生とその保護者

【情報発信の内容】

交付金を活用した事業について、当町HPを活用し町民への情報提供を行う。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

特になし。

対策区分	5. 地域の身近な水や緑の環境づくり
------	--------------------

市町名	川越町
-----	-----

事業名	川越北小学校シンボルツリー樹形整形事業
-----	---------------------

7. 写真



写真1
着工前



写真2
作業中



写真3
作業中

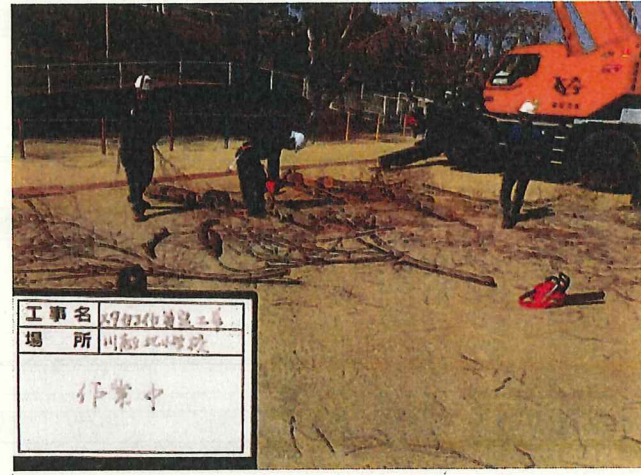


写真4
作業中



写真5
作業中

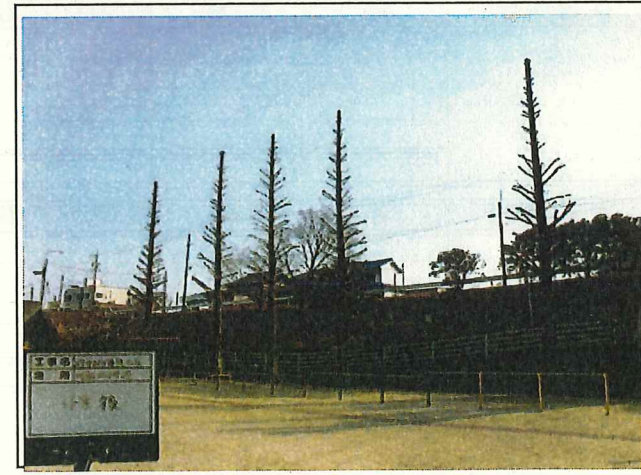


写真6
完成

対策区分 5. 地域の身近な水や緑の環境づくり

市町名 川越町

事業名 川越北小学校シンボルツリー樹形整形事業

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
樹形整形	本	5.00	160,000	800,000	
消費税	式	1.00	80,000	80,000	
事業費				880,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
6	ふれあい広場ベンチ整備事業				
事業費	594,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			525,024	0	68,976

1. 事業の目的

ふれあい広場を木質化し、直接木材に触れることで木材や森林について理解を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】

地産地消の野菜等販売所「ふれあい広場」に木製ベンチを7台設置して、地元町民及び町外の方々に直接木材に触れることによって木材や森林について理解を深める。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】

川越町

【補助率等】

補助事業ではなく、該当しない。

【箇所数】

1箇所（ふれあい広場）

【事業量】

県産材木製ベンチ 7台設置

【事業実施期間】

令和2年1月29日（水）～令和2年3月31日（火）

【受益者、参加者、利用者数等】

週1回開催（20人）×5週＝年100人

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】

ふれあい広場に木製ベンチを設置することにより、自然の良さを身近に感じてもらい、木材利用に対する理解を深め木材の利用促進を図る。

【事業実施により得られた効果】

県産の木材を使用することにより、温かみや木の肌触りと香りを感じることができ、木材利用に対する理解が深まった。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】

実施箇所は町が所有する施設であり、今後も引き続き町が管理します。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】

利用者の1人は、「ベンチに木材を使用したことにより、温かみや木の肌触りと香りを感じ、壁の木質化ともマッチし感じが良くなった。」別の利用者は、「座り心地も良くまた高さも程良く立ち上がりやすく良いベンチを設置してもらった。地域の公民館にも是非設置してほしい。」との声がありました。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり			市町名	川越町
番号	事業名				
6	ふれあい広場ベンチ整備事業				
事業費	594,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			525,024	0	68,976

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】					
【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】					
町による工事請負契約					
【実施方法の選定理由】					
町が管理する施設であるため、町が発注しました。					
【契約方法と落札率または補助率等】					
建設工事請書の締結					
【契約相手方の選定理由】					
町の会計規則（地方自治法施行令第167条の2第1項第1号、規則で定める額を超えないもの）に基づき、随意契約とした。					
【事業費の積算根拠】					
見積りを徴収したところ、予定価格以内であった。					
5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】					
【事業参加や整備施設等の公益性】					
週1回開催（20人）×5週＝年100人					
【公的関与の必要性】					
公共施設であるため。					
【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】					
公共施設であるため、転用等が想定されず、該当しない。					
6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】					
【情報発信の手段（該当するものに○）】					
○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映					
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）					
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）					
・その他（方法： ）（場所： ）					
【情報発信の対象】					
町民					
【情報発信の内容】					
交付金を活用した事業について、当町HPを活用し町民への情報提供を行う。					
7. 写真					
別紙のとおり					
8. その他特記事項					
特になし。					

対策区分 4. 森と人をつなぐ学びの場づくり

市町名 川越町

事業名 ふれあい広場ベンチ整備事業

7. 写真

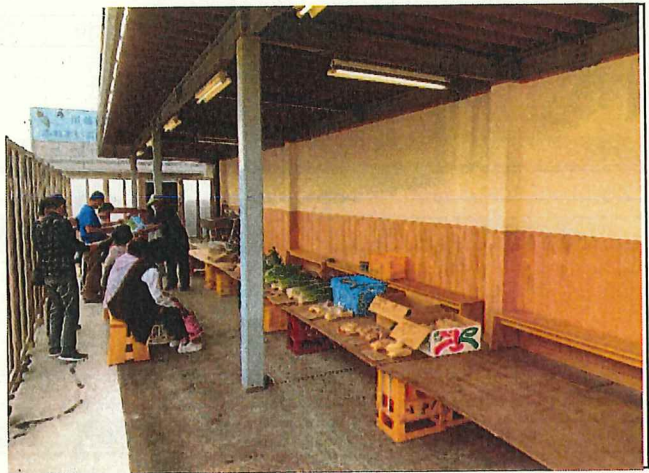


写真1
P R 状 況

写真2
P R 状 況

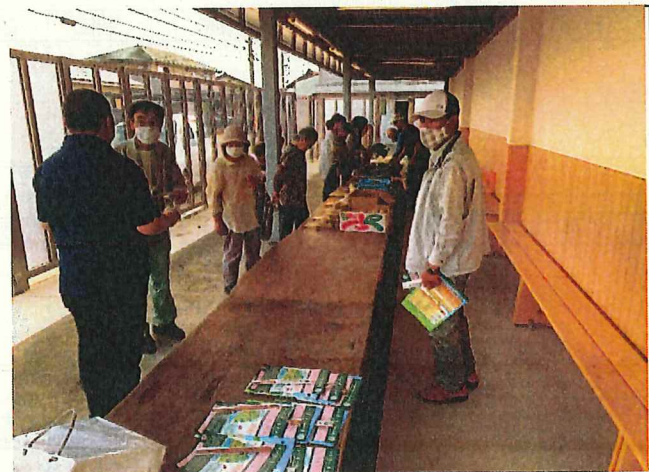
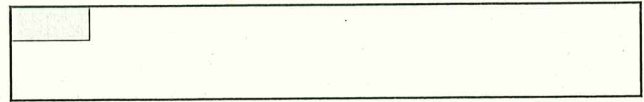
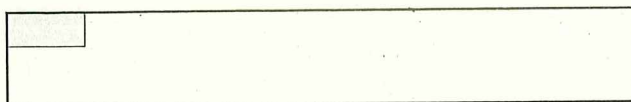
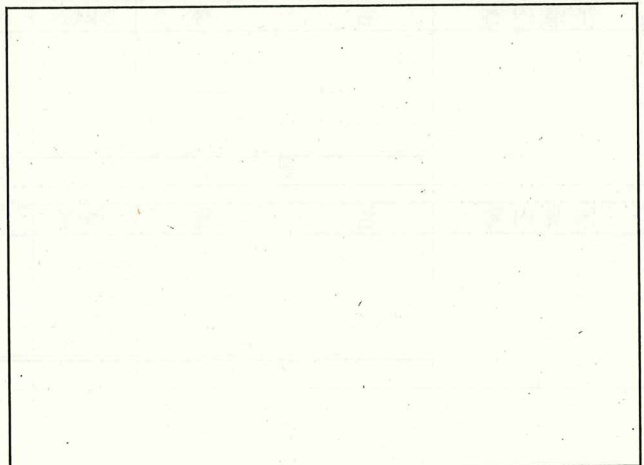
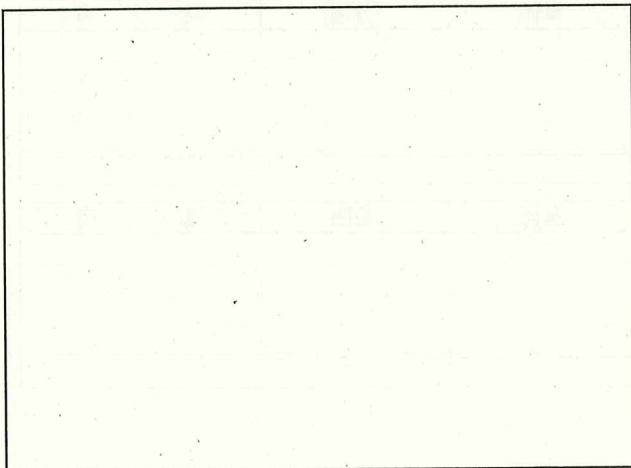


写真3
P R 状 況

写真4
P R 状 況



対策区分	4. 森と人をつなぐ学びの場づくり
------	-------------------

市町名	川越町
-----	-----

事業名	ふれあい広場ベンチ整備事業
-----	---------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
ベンチ政策・設置	台	7.00	65,000	455,000	
諸経費	式	1.00	85,000	85,000	
消費税	式	1.00		54,000	
事業費				594,000	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(別紙)

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

川越町

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(円)	内、譲与税
1	⑬ 木造公共建築物の整備等	756,000	756,000
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	756,000	756,000

令和元年度みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業

津市

第16号様式

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業 市町別総合評価シート

1. 基礎情報：「三重県市町要覧（令和元年度版）」、「平成30年度版森林・林業統計」による

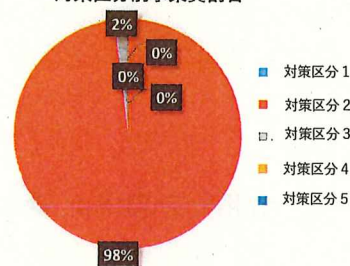
市町名	津市	三重県
人口（人）	275,223	1,782,190
年少人口割合（%）*1	12.4%	12.4%
森林面積(ha)	41,560.61	372,352.55
民有林面積(ha)*2	40,820.03	348,833.49
森林率(%)	58.0%	64.0%
都市公園面積（m ² /人口）*3	7.6	10.1

*1：全人口に占める15歳未満の人の割合

*2：国有林以外の森林（個人や法人が所有する私有林のほか、都道府県や市町村が所有する公有林も含まれます。）

*3：都市公園法に基づき国または地方公共団体が設置する都市公園及び都市計画区域外において都市公園に準じて設置されている特別地区公園

対策区別事業費割合



2. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠・加算枠）事業実績

番号	対策区分	事業名	事業費（円）	交付金充当額（円）					内当年度交付金額	
				小計	対策区分1	対策区分2	対策区分3	対策区分4		対策区分5
1	2	林地残材搬出促進事業	35,849,400	35,815,400		35,815,400				35,815,400
2	3	津市森林環境教育事業	493,600	493,600			493,600			493,600
3	3	美里水源の森「林業体験」事業	250,000	250,000			250,000			250,000
										0
										0
										0
										0
計			36,593,000	36,559,000	0	35,815,400	743,600	0	0	36,559,000

3. 令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（連携枠）事業実績

事業区分	事業量(ha)	事業費(円)	内交付金充当額(円)	事業概要
流域防災機能強化対策事業	48.71ha	37,202,000	37,201,000	災害緩衝林事業地周囲の間伐
森林再生力強化対策事業	9,438m	6,438,000	6,438,000	獣害柵設置に対する助成

4. 事業方針及び事業実施により得られた効果、情報発信への取組

事業方針	<ul style="list-style-type: none"> 間伐等で発生する林地残材等を搬出し、木質バイオマスとして利用を図ることで、林地残材の減少を図り、河川等への流出を防ぐことで流木を出さない森林づくりを進める。 木のぬくもりや良さを知ってもらい、森林や木材について学び、林業の現場での体験を通して正しく理解してもらい、自らが進んで森林環境教育に取り組める人材を育てていく。
事業実施により得られた効果	<ul style="list-style-type: none"> 林地残材の減少により河川への流出危険性が減少し、減災効果が得られた。また、バイオマス発電燃料として未利用材の有効活用が進んだ。 直接木に触れることや、森林のはたらきについて学ぶことで、循環可能な資源である木材を利用する意義を知るとともに、森林の持つ公益的機能の理解を深めることができ、森を育む人としてのきっかけづくりの場を提供することができた。
情報発信への取組	<p>事業実施箇所については、税ののぼり旗により啓発を行った。 県民税の活用についてホームページや広報紙等に掲載した。</p>

*評価の参考として、別紙「森林環境譲与税事業の実績」を添付すること。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり			市町名	津市
番号	事業名				
1	林地残材搬出促進事業				
事業費	35,849,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			35,815,400		34,000
1. 事業の目的					
<p>間伐等で発生する林地残材等について、採算の合にくい林地からの搬出・運搬に関し、間伐施業地から山土場、山土場からチップ工場への搬出経費を支援することで、森林所有者・林業事業者への意識啓発と再生可能バイオマスエネルギー資源としての有効利用を図る。また、林地残材の減少を図り、河川等への流出を防ぐことで流木を出さない森林づくりを進める。</p>					
2. 事業実績概要					
【事業内容】					
間伐施業地から山土場まで、又は、山土場からチップ工場までの搬出経費の一部を支援する。					
【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】					
認定事業者（津市内の木質バイオマス発電証明ガイドライン認定事業者13業者）					
【補助率等】					
定額（間伐施業地から山土場まで：上限6,400円/㎡、山土場からチップ工場まで：上限1,200円/㎡）					
【箇所数】					
森林組合	津市美杉町太郎生地内ほか	10箇所			
林業事業者	津市美杉町八手俣地内	1箇所			
NPO法人	津市美杉町上多気地内ほか	2箇所			
【事業量】					
林地残材搬出材積	5127.87㎡				
森林組合	3,447.87㎡				
林業事業者	1,200.00㎡				
NPO法人	480.00㎡				
【事業実施期間】					
平成31年4月2日から令和2年3月19日					
【受益者、参加者、利用者数等】					
流域居住者（不特定）、バイオマスエネルギー利用者（不特定）					
3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】					
【実施箇所の選定理由】					
林地残材が多く発生している間伐実施箇所を優先的に選定。					
【事業実施により得られた効果】					
林地残材の減少により河川への流出危険性が減少し、減災効果が得られた。					
また、バイオマス発電燃料として未利用材の有効活用ができた。					
【整備した場所・施設・備品の今後の活用】					
森林の持つ多面的機能が発揮されるよう、維持していく。					
搬出した林地残材は、バイオマス発電用の燃料として活用している。					
【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】					
流域住民からは、「安心感が増した。」「当事業により木材資源の有効利用が進んだ。」との反応があった。					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	2. 暮らしに身近な森林づくり	市町名	津市
------	-----------------	-----	----

番号	事業名				
1	林地残材搬出促進事業				
事業費	35,849,400 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			35,815,400		34,000

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
搬出経費に対する補助

【実施方法の選定理由】
災害時の林地残材に対する不安を軽減してほしいという地域住民の声と木質バイオマス発電燃料の供給促進が、林地残材の搬出という行為でマッチングしたため。

【契約方法と落札率または補助率等】
定額助成（間伐施業地→山土場6,400円/m²、山土場→チップ工場1,200円/m²）

【契約相手方の選定理由】
補助金交付申請方式であり、該当なし

【事業費の積算根拠】
津市林地残材搬出促進事業補助金交付要綱に基づき積算

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
事業の参加資格については補助金交付申請書で確認している。

【公的関与の必要性】
林内に残される林地残材を放置することにより予見される林野災害を防止し、地域住民の不安解消という観点においても非常に重要な取り組みである。
また、津市バイオマス都市構想におけるバイオマスエネルギー原料として有効活用することでCO₂排出量の削減に寄与している。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
規制は設けていないが、森林所有者が引き続き適切な管理を行う。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】
○HP掲載 ・広報誌掲載 ・新聞掲載 ・テレビ（行政チャンネル）放映
・チラシ配布（配布対象者： ） ・ポスター掲示（掲示場所： ）
・パネル展示（展示場所： ） ・看板設置（設置場所： ）
○その他（方法： のぼり旗の設置 ）（場所：事業箇所 ）

【情報発信の対象】
市民

【情報発信の内容】
事業実施箇所において、税ののぼり旗により啓発を行った。
県民税の活用についてホームページに掲載した。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 2.暮らしに身近な森林づくり

市町名

津市

事業名

林地残材搬出促進事業

7. 写真



写真1

林地残材除去前の森林



写真2

林地残材の集積状況（山土場）



写真3

林地残材の積込状況（山土場）



写真4

林地残材の運搬状況（チップ工場）



写真5

林地残材の搬入状況（チップ工場）



写真6

林地残材除去後の森林

対策区分	1. 土砂や流木による被害を出さない森林づくり
------	-------------------------

市町名	津市
-----	----

事業名	林地残材搬出促進事業
-----	------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
林地残材搬出材積(施業地から工場)	m ³	2000.00	7,600	15,200,000	森林組合
林地残材搬出材積(山土場から工場)	m ³	487.87	1,200	585,400	森林組合
林地残材搬出材積(施業地から工場)	m ³	960.00	7,600	7,296,000	森林組合
林地残材搬出材積(施業地から工場)	m ³	1200.00	7,600	9,120,000	事業体
林地残材搬出材積(施業地から工場)	m ³	80.00	7,600	608,000	NPO
林地残材搬出材積(施業地から工場)	m ³	160.00	7,600	1,216,000	NPO
林地残材搬出材積(施業地から工場)	m ³	240.00	7,600	1,824,000	NPO
事業費		5127.87		35,849,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
林地残材搬出材積 (施業地から工場) 森林組合	林地残材搬出促進事業	m ³	2000.00	6,400	12,800,000	施業地→山土場
	林地残材搬出促進事業	m ³	2000.00	1,200	2,400,000	山土場→チップ工場
	計				15,200,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
林地残材搬出材積 (山土場から工場) 森林組合	林地残材搬出促進事業	m ³	487.87	1,200	585,444	山土場→チップ工場
					-44	100円以下切捨
	計				585,400	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
林地残材搬出材積 (施業地から工場) 森林組合	林地残材搬出促進事業	m ³	960.00	6,400	6,144,000	施業地→山土場
	林地残材搬出促進事業	m ³	960.00	1,200	1,152,000	山土場→チップ工場
	計				7,296,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
林地残材搬出材積 (施業地から工場) 林業事業体	林地残材搬出促進事業	m ³	1200.00	6,400	7,680,000	施業地→山土場
	林地残材搬出促進事業	m ³	1200.00	1,200	1,440,000	山土場→チップ工場
	計				9,120,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
林地残材搬出材積 (施業地から工場) NPO法人	林地残材搬出促進事業	m ³	80.00	6,400	512,000	施業地→山土場
	林地残材搬出促進事業	m ³	80.00	1,200	96,000	山土場→チップ工場
	計				608,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
林地残材搬出材積 (施業地から工場) NPO法人	林地残材搬出促進事業	m ³	160.00	6,400	1,024,000	施業地→山土場
	林地残材搬出促進事業	m ³	160.00	1,200	192,000	山土場→チップ工場
	計				1,216,000	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
林地残材搬出材積 (施業地から工場) NPO法人	林地残材搬出促進事業	m ³	240.00	6,400	1,536,000	施業地→山土場
	林地残材搬出促進事業	m ³	240.00	1,200	288,000	山土場→チップ工場
	計				1,824,000	

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金 (基本枠、加算枠) 事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	事業名				
2	津市森林環境教育事業				
事業費	493,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			493,600		

1. 事業の目的

夏休み森と緑の親子塾 (美杉町上多気 木材加工処理施設)
 木のぬくもりや、木の良さを知ってもらうため、市内在住・在学の小学生と保護者を対象に「夏休み森と緑の親子塾」を開催し、森林や木材について学び、ふれあう場を提供する。
 まるごと林業体験 (津市美里水源の森)
 津市に在住・在勤・在学の中学生以上方を対象に、普段なかなか身近に感じることでできない森林のはたらきや林業という仕事を、現場での体験を通して正しく理解してもらい、自らが進んで森林環境教育に取り組める人材を育てていく。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 夏休み森と緑の親子塾： 木工体験 (プランター・本立て等)、林業体験 (丸太の鋸切・丸太皮むきなど)、座学
 まるごと林業体験： 間伐体験 (手ノコによる伐倒体験)・木工体験 (間伐材を利用した木工作品作り)、座学
 【実施主体 (補助事業の場合は補助事業実施主体)】
 津市
 【補助率等】
 補助事業ではないので該当しない。
 【箇所数】
 夏休み森と緑の親子塾：1箇所、まるごと林業体験：1箇所
 【事業量】
 夏休み森と緑の親子塾：1回、まるごと林業体験：1回
 【事業実施期間】
 夏休み森と緑の親子塾：令和元年7月5日～令和元年8月9日 (募集期間含む)
 まるごと林業体験：令和元年10月1日～令和元年12月2日 (募集期間含む)
 【受益者、参加者、利用者数等】
 夏休み森と緑の親子塾：親子16組44名、まるごと林業体験：20名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
 夏休み森と緑の親子塾：森林や林業をより身近に感じてもらうながら、森林環境教育を促進させる体験活動型のイベントの開催場所としては、林業が盛んな美杉地域が適切な場所であり、中でも道の駅周辺は利便性に優れている。
 まるごと林業体験：実際に林業の作業が行われている地域の中で、今回の事業内容を考慮し、集合場所や施設見学が可能な施設や林業現場までの移動時間等を勘案し選定。
 【事業実施により得られた効果】
 夏休み森と緑の親子塾：木工細工等により、直接木に触れることで、木のぬくもりと物を作ることの楽しさを認識していただき、森林のはたらきについて学ぶことで親子で森林に対する理解を深めることができた。森林環境教育として、森を育む人としてのきっかけづくりの場を提供することができた。
 まるごと林業体験：間伐体験や木工作品作りをすることで参加者が林業に対する理解を深め、循環可能な資源である木材を利用する意義を知るとともに、森林の持つ公益的機能の理解が深り森を育む人づくりに寄与することができた。
 【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
 体験学習の開催であり該当しない。※平成26年度から毎年実施しており、今後も継続して開催したい。
 【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
 夏休み森と緑の親子塾：木工細工では物を作る楽しさと木への関心を高めることができた。丸太切りや木の皮むき体験では生の木に触れ、作業の大変さやうまくできたときの面白さを驚きや興味を持って体験してもらうことができた。
 また【森林のはたらき】についてのパネル展示や講習で森林多面的機能について関心を持っていただくことができた。(参加者アンケートを実施、高評価だった)
 まるごと林業体験：森林の役割や林業について学習した後、手ノコによる伐倒体験によって、間伐の大切さと作業の大変さを理解し、チェーンソー体験では、機械による作業の効率性と安全作業について理解していただいた。木工作品作りでは、津市産の間伐材を使うことで、木材利用の重要性を学んでもらえた。(参加者アンケートを実施、高評価だった)

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり		市町名	津市
番号	事業名			
2	津市森林環境教育事業			
事業費	493,600 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			493,600	
			その他	

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】

市広報や市ホームページ上で、参加者を募集。
事業は委託により実施。

【実施方法の選定理由】

森林や林業をより身近に感じてもらいながら、森林環境教育を促進させるには、木工細工や林業体験などの体験活動型のイベントをすることが効果的なため。

【契約方法と落札率または補助率等】

夏休み森と緑の親子塾：地方自治法施行令第167条の2第1項第2号の規定に基づく随意契約 落札率 97.20%
まると林業体験：地方自治法施行令第167条の2第1項第1号の規定に基づく随意契約 落札率 99.73%

【契約相手方の選定理由】

夏休み森と緑の親子塾：地域の実情に精通しており、森林・林業に関する経験や知識が豊富で、木材加工にも技術的な指導などにも優れている会員が多く所属する団体であるため。
まると林業体験：津市競争入札参加資格者名簿において森林に関する希望を出している者のうち、認定林業事業体である2者から選定。

【事業費の積算根拠】

夏休み森と緑の親子塾：木工細工及び森林教室に関する労務費を委託業務として市の積算システムにより積算。
まると林業体験：林業体験及び木工細工に関する労務費を委託業務として市の積算システムにより積算。

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】

参加申し込みが必要なイベントであり参加者の把握が可能である。

【公的関与の必要性】

森林の公的価値や機能を学ぶ森林環境教育は、人材育成だけでなく、国土の2/3を占める森林を身近で大切な資産であり、守り育てることの大切さを理解してもらう上で、非常に重要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】

体験学習の開催であり、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- HP掲載 ・ 広報誌掲載 ・ 新聞掲載 ○テレビ（行政チャンネル）放映
○チラシ配布（配布対象者：農林水産祭に訪れた市民） ・ ポスター掲示（掲示場所： ）
○パネル展示（展示場所：会場内） ・ 看板設置（設置場所： ）
○その他（方法：のぼり旗や横断幕を設置）（場所：会場）

【情報発信の対象】

夏休み森と緑の親子塾：津市内に在学の小学生とその保護者
まると林業体験：津市内在住、在勤、在学の中学生以上

【情報発信の内容】

開催中は会場の壁面に横断幕を掲げるとともにのぼり旗等を設置し、県民税の事業として開催されていることを周知。
マスコミによる取材もあり、まると林業体験については、新聞記事で紹介された。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 津市

事業名 津市森林環境教育事業

7. 写真



写真1 夏休み森と緑の親子塾（集合写真）

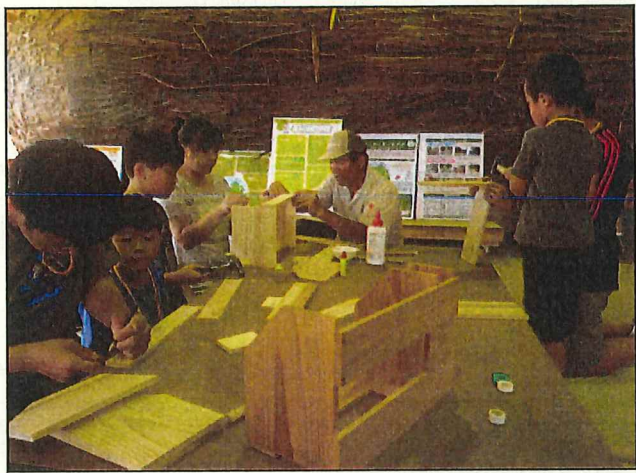


写真2 夏休み森と緑の親子塾（木工体験）



写真3 夏休み森と緑の親子塾（丸太切り体験）



写真4 まるごと林業体験（間伐体験）



写真5 まるごと林業体験（チェーンソー体験）

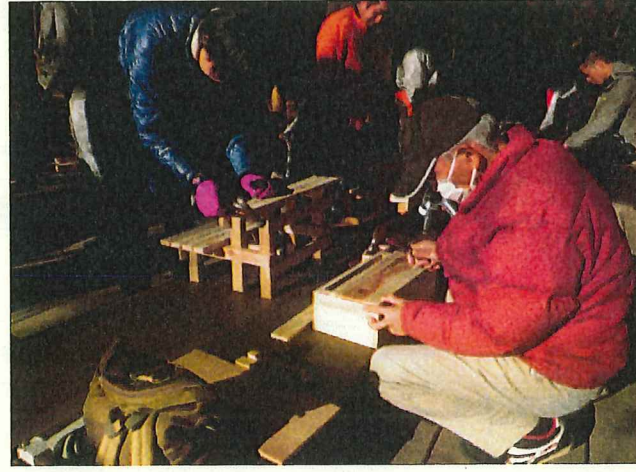


写真6 まるごと林業体験（木工作品作り）

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	津市
-----	----

事業名	津市森林環境教育事業
-----	------------

積算資料(実績報告参考資料)

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
夏休み森と緑の親子塾	式	1.00	194,400	194,400	
まるごと林業体験	式	1.00	299,200	299,200	
事業費				493,600	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
夏休み森と緑の親子塾	開催業務委託	式	1.00	180,000	180,000	
	消費税(8%)				14,400	
	計		1.00		194,400	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
まるごと林業体験	開催業務委託	式	1.00	272,000	272,000	
	消費税(10%)				27,200	
	計		1.00		299,200	

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名 称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	事業名				
3	美里水源の森「林業体験」事業				
事業費	250,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金	その他
			250,000		

1. 事業の目的
 美里水源の森の水源涵養林等を活かしながら、自然や環境保全を学べる場として市内の小学生を対象に、野外体験や林業体験を通して自然や森林・林業の魅力を感じてもらい、森林に対する理解を深める。

2. 事業実績概要

【事業内容】
 平成26年度から平成30年度にかけて市町交付金を活用して整備した美里水源の森をフィールドとして自然に親しむ市民の憩いの場、青少年の自然・環境体験学習の場として、市内在学の小学生を対象に野外体験（樹種銘板づくり）、林業体験（シイタケ菌打ち）を実施。

【実施主体（補助事業の場合は補助事業実施主体）】
 長野川流域環境保全協議会

【補助率等】
 補助事業ではないので該当しない。

【箇所数】
 美里水源の森「林業体験」：2回

【事業量】
 美里水源の森「林業体験」：2回

【事業実施期間】
 平成31年4月1日から令和2年3月31日
 「銘板づくり」11月10日開催、「シイタケ菌打ち」2月16日開催
 「巣箱づくり」3月15日を予定していたが、新型コロナ関連の影響により延期

【受益者、参加者、利用者数等】
 「銘板づくり」市内在学の小学生と保護者11名
 「シイタケ菌打ち」市内在学の小学生と保護者34名

3. 有効性【2つの基本方針である「災害に強い森林づくり」「県民全体で森林を支える社会づくり」を進めるうえで有効な取組であるか。】

【実施箇所の選定理由】
 美里水源の森は、津市総合計画後期基本計画に位置付けられており、当該森林を水源かん養機能を保全しつつ住民に安らぎを与える憩いの場・交流の場、そして子育ての場として整備した箇所であるため。

【事業実施により得られた効果】
 銘板づくり：森林インストラクターが講師となり、水源の森を親子で散策し、木々にふれあい観察等の学習を行った後に樹木の銘板を作成、取り付けました。主体的に考え、また自然に触れ合うことを通じて森林の大切さについて理解を深める事業とすることができました。
 シイタケ菌打ち：菌打ち体験を通じて、森のはたらきや、森と人との関わり、林業や産業への理解を深めることができました。
 また、当日は植樹体験を実施し、山の恵みを感じるきっかけづくりにつなげた。

【整備した場所・施設・備品の今後の活用】
 体験学習の開催であり該当しない。※今後も継続して開催したい。

【事業に対する住民や受益者、参加者、利用者等の反応と対応】
 銘板づくり：親子で森林内をゆっくり散策できたこと、いろいろな植物の観察ができ、普段体験できないことができ、貴重な時間を過ごすことができたなどの感想をいただいています。
 シイタケ菌打ち：親子で体験学習に取り組むことで、森と人との関わりや林業等への理解を深められ、有意義な時間を過ごすことができたなどの感想をいただいています。

令和元年度 みえ森と緑の県民税市町交付金（基本枠、加算枠）事業別実績書

対策区分	3. 森を育む人づくり	市町名	津市
------	-------------	-----	----

番号	事業名			
3	美里水源の森「林業体験」事業			
事業費	250,000 円	(財源内訳)	当年度交付金	市町基金
			250,000	
			その他	

4. 効率性【事業実施に要した経費は、コストをかけ過ぎることなく、効率的に執行されたか。】

【実施方法（委託（請負）、補助、その他）】
長野川流域環境保全協議会への負担金

【実施方法の選定理由】
協議会が主体となって行う森林環境教育事業の費用を市が一部負担して、協議会が実施することで、水源の森の活用を進めてきており、令和元年度においても、同様に実施した。

【契約方法と落札率または補助率等】
負担金

【契約相手方の選定理由】
負担金のため、該当なし

【事業費の積算根拠】
別紙のとおり

5. 公益性【事業実施により、幅広い県民が受益を受けることができたか。また多くの県民に受益があるような工夫がされているか。】

【事業参加や整備施設等の公益性】
長野川流域環境保全協議会が主催者であることことから、事前打ち合わせを行い、市内の小学校すべてに案内を行い、参加者を募集している。

【公的関与の必要性】
森林の公益的価値や機能を学ぶ森林環境教育は、人材育成だけでなく、国土の2/3を占める森林を身近で大切な資産であり、守り育てることの大切さを理解していただく上で、非常に重要である。

【実施後の管理体制及び転用、目的外使用の規制等】
体験学習の開催であり、該当しない。

6. 情報発信度【みえ森と緑の県民税の事業成果や事業効果についての周知活動を通じて、みえ森と緑の県民税を活用した「災害に強い森林づくり」や「社会全体で森林を支える社会づくり」について県民の理解が深められたか。】

【情報発信の手段（該当するものに○）】

- ・HP掲載
- ・広報誌掲載
- ・新聞掲載
- テレビ（行政チャンネル）放映
- チラシ配布（配布対象者：市内の小学校すべて）
- ・ポスター掲示（掲示場所：）
- ・パネル展示（展示場所：）
- ・看板設置（設置場所：）
- その他（方法：のぼり旗を設置）（場所：会場）

【情報発信の対象】
津市内に在学の小学生とその保護者（津市教育委員会後援）
（銘板作り 市内小学生5～6年生向けに4,869枚を配布）
（しいたけ菌打ち及び巣箱作り 市内小学生4～6年生向けに7,508枚を配布）

【情報発信の内容】
開催中は会場にのぼり旗を設置し、県民税の事業として開催されていることを周知。

7. 写真

別紙のとおり

8. その他特記事項

対策区分 3. 森を育む人づくり

市町名 津市

事業名 美里水源の森「林業体験」事業

7. 写真

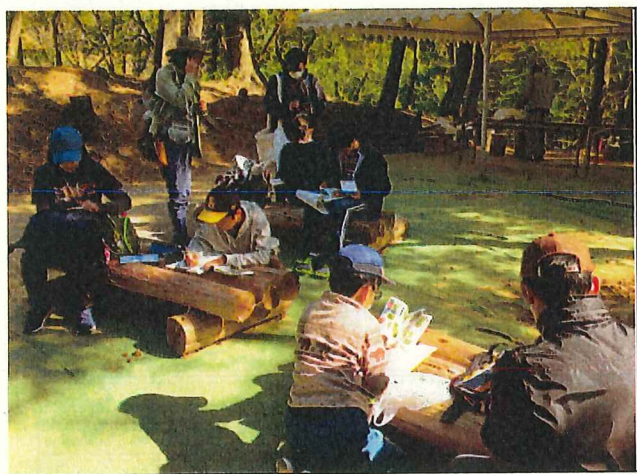


写真1
樹木の銘板づくり



写真2
樹木の銘板づくり

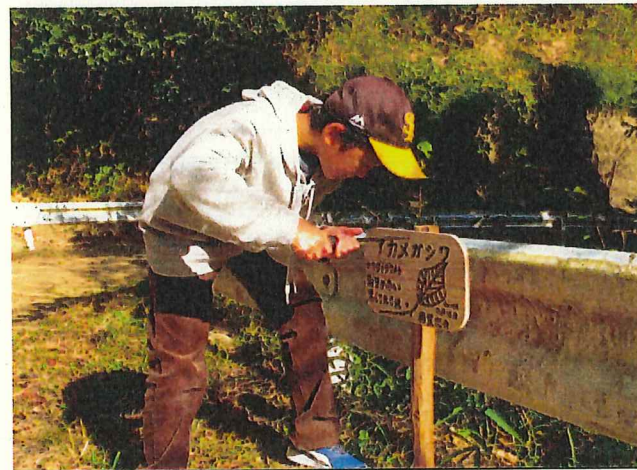


写真3
樹木の銘板づくり



写真4
シイタケ菌打ち



写真5
シイタケ菌打ち



写真6
シイタケ菌打ち

対策区分	3. 森を育む人づくり
------	-------------

市町名	津市
-----	----

事業名	美里水源の森「林業体験」事業
-----	----------------

積算資料（実績報告参考資料）

作業内容	単位	数量	単価	金額	備考
美里水源の森「林業体験」	式	1.00	250,000	250,000	負担金
〃				10,700	自己資金ほか
事業費				260,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
美里水源の森「林業体験」	林業体験指導				98,754	
	諸経費（消耗品、保険料等）				161,946	
	計				260,700	

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

作業内容	名称	単位	数量	単価	金額	備考
	計					

(参考資料)

令和元年度森林環境譲与税事業の実績

津市

事業 番号	事業カテゴリー	事業費	
		(千円)	内、譲与税
1	② 意向調査	25,765	25,765
2	④ 公有林整備 (財産区有林含む)	9,129	9,129
3	① 意向調査の準備作業	11,514	11,514
4	⑦ その他 (森林整備)	200	200
5	⑩ 基金積立 (執行残額等)	4,267	4,267
6			
7			
8			
9			
10			
	合計	50,875	50,875

